



# 昭和会誌

2021年度  
(令和3年度)



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。



## 2022年度スローガン・ビジョン

Slogan・Vision

# 生産性向上による エンゲージメント向上



## 2022年度中長期計画

Medium-term management plan



### 働き方改革

タスクシフト・シェア



### ICT化

RPA、PHR



### 持続可能な経営

健康経営、機能評価

## 巻頭言

このたび2021年度の昭和会誌を発行する運びとなりました。

依然としてコロナ禍での診療活動を余儀なくされている状況ですが、そういう中でも持続可能性を追求し、より良い医療を提供すべく職員一丸となって取り組んで参りたいと思います。そのためにも今回から実績報告を見易く統一したものに改めました。

まずは、トピックスやデータ提示を簡潔にし、問題点を総括で明らかにして、改善点を次年度の目標としています。つまりPDCAサイクルを回すことを目的としています。この昭和会誌を実績のアピールとともに、職員間でも目標を明確にするべくトル合わせにも利用してもらいたいと思います。

職員間での病院運営の目標共有は、当院にとっても重点事項です。このことはこれから受審予定としている病院機能評価でも問われているところです。

コロナ禍や働き方改革で会議の制限、ミーティングの縮小や、コミュニケーションの希薄に伴うチーム医療の崩壊が危惧されていますが、オンライン会議やチャットなどを駆使し時代の変遷に合わせた方法で意思疎通をはかり、診療の空白を作らないように努めてほしいと思います。

また、病院としても中長期計画も併せて記載することで、より方向性を共有できるものと考えています。中長期計画は診療報酬制度に沿ったものとなっています。それは、病院運営自体が診療報酬制度によって制度設計されているためです。診療報酬制度を理解し確実に踏襲すること、あるいは先取りすることがこれからの激変する医療環境に適応できる術だと考えるからです。

前述の通り今回より新病院に移転してからの病院実績となります。弊誌をご覧いただいた皆さまのご意見・ご感想がありましたら当院広報へお寄せいただけますと幸いに存じます。

2023年のキラメキテラスのグランドオープンを控え、職員一同更なる努力をして参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2022年8月

公益社団法人昭和会

理事長 



## 昭代会の基本理念



-協力-

全職員の協力体制



-貢献-

地域社会への貢献



-向上-

自己研鑽と向上心



-教育-

人材育成と教育

## 昭代会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。
4. 教育病院として、質の高い人材育成に努めます。

## 昭代会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。  
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。
6. 経営陣は働きやすい職場環境の創世に努め、職員満足度を高めるとともに、教育を通して良質な人材を育成し、持続可能な病院運営を目指す。



# 目次

■スローガン・ビジョン、中長期計画	
■巻頭言	
■基本理念・基本方針・運営方針	
■I. 昭和会の沿革・組織図	01
■II. いまきいれ総合病院	
1. 病院概要	05
2. 病院統計	13
3. 部門報告 診療部	23
4. 部門報告 他部門	53
■III. 上町いまきいれ病院	
1. 病院概要	69
2. 病院統計	73
3. 部門報告	77
■IV. 研究実績	89



# 概要

I

- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図



## 昭和会の沿革

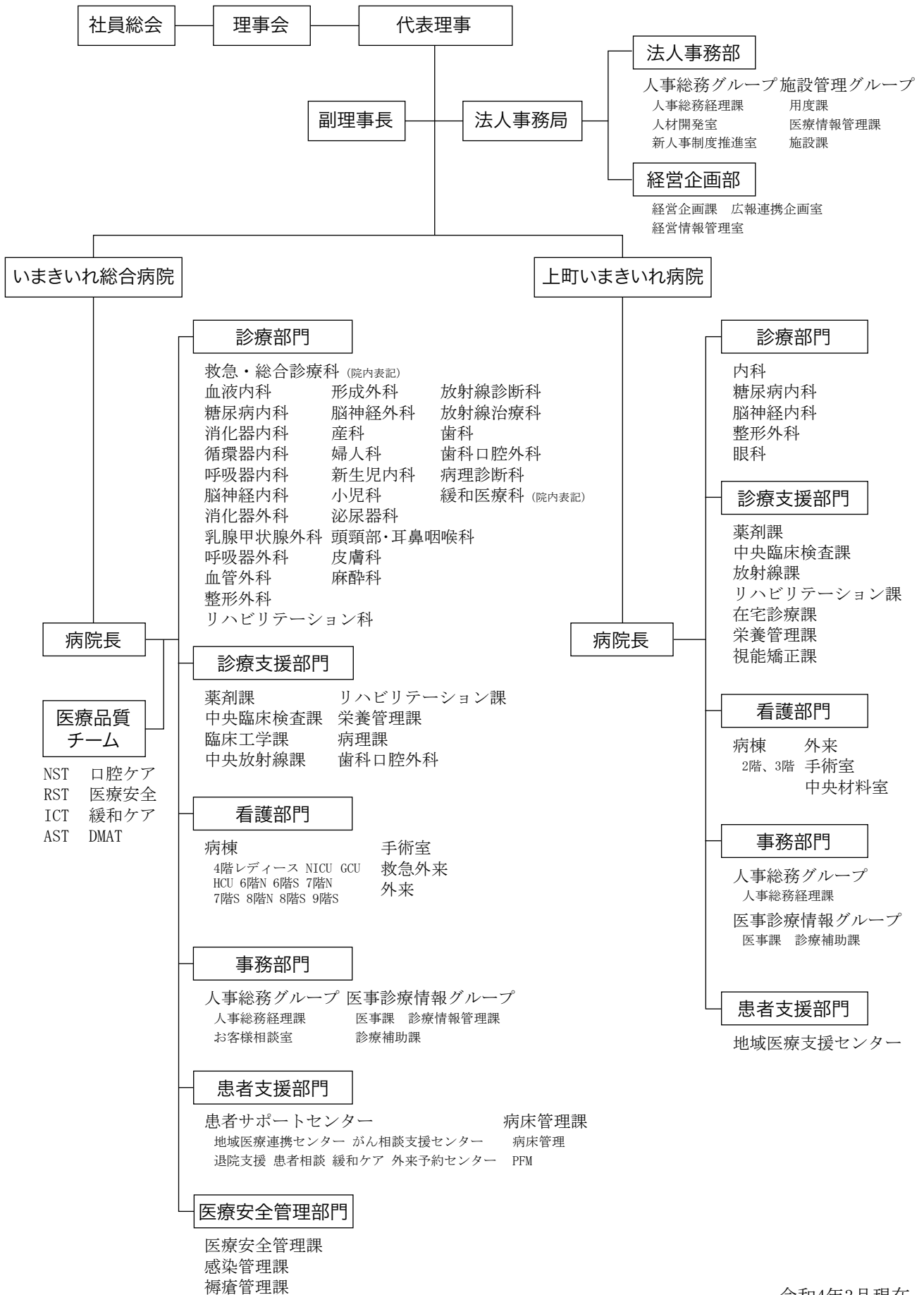
1938(昭和 13)年	7月	鹿児島市下竜尾町 11 番地に今給黎医院開設
1947(昭和 22)年	11月	今給黎病院開設 (24 床)
1955(昭和 30)年	2月	鉄筋コンクリート 2 階建 病棟増築 (41 床)
1957(昭和 32)年	6月	65 床認可
1960(昭和 35)年	2月	看護婦寮新築
1960(昭和 35)年	5月	80 床認可
1960(昭和 35)年	7月	医師住宅新築
1964(昭和 39)年	5月	「医療法人昭和会」設立 (120 床)
1964(昭和 39)年	7月	救急告示病院指定
1965(昭和 40)年	7月	民法第 34 条による「財団法人昭和会」設立
1967(昭和 42)年	1月	160 床認可
1969(昭和 44)年	4月	鉄筋コンクリート 3 階建病院新築
1969(昭和 44)年	8月	鉄筋 5 階建第 1 看護婦寮・4 階建医師住宅 2 棟新築
1970(昭和 45)年	10月	220 床認可
1972(昭和 47)年	10月	鉄筋 5 階建職員住宅(20 世帯)新築
1975(昭和 50)年	12月	鉄筋コンクリート 2 階建第 3 女子寮・院内託児所新築
1978(昭和 53)年	10月	鉄筋コンクリート 7 階建本館新築 (300 床)
1979(昭和 54)年	3月	325 床認可
1979(昭和 54)年	8月	鉄筋コンクリート 4 階建第 2 女子寮新築
1983(昭和 58)年	2月	医師住宅 4 階建新築
1987(昭和 62)年	1月	第 4 看護婦寮 3 階建新築
1987(昭和 62)年	9月	別館 4 階建新築 本館・別館の連絡路として地下道 (巾 3m) 完成
1988(昭和 63)年	1月	450 床認可 本館全面改装、総合医療各診療科整備
1988(昭和 63)年	8月	第 5 看護婦寮 4 階建新築 男子独身寮 2 階建新築
1989(平成元年)	1月	医師研修等 3 階建新築
1989(平成元年)	12月	今給黎総合病院 17 診療科認可
1992(平成 4)年	6月	今給黎総合病院 18 診療科認可
1994(平成 6)年	4月	今給黎総合病院 19 診療科認可
1995(平成 7)年	1月	今給黎総合病院 20 診療科認可
1995(平成 7)年	4月	今給黎総合病院 21 診療科認可
1997(平成 9)年	7月	周産母子センター開設
1997(平成 9)年	9月	外来患者専用自動管理式駐車場完成
1998(平成 10)年	3月	医局棟 3 階建新築
2001(平成 13)年	3月	(財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別 B) 取得
2002(平成 14)年	1月	民間ビル (3 階建)、研修棟として購入
2003(平成 15)年	10月	「基幹型臨床研修病院」指定
2005(平成 17)年	5月	昭和会クリニック開院 (診療録の電子化開始)
2005(平成 17)年	12月	今給黎総合病院 (外来診療録の電子化開始)
2006(平成 18)年	8月	歯科・歯科口腔外科開設 (23 診療科)
2007(平成 19)年	10月	リニアック棟造築 (稼働開始)
2009(平成 21)年	3月	鹿児島県「地域周産期母子医療センター」指定



2009(平成 21)年	12 月	「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
2010(平成 22)年	2 月	今給黎総合病院（入院診療録の電子化開始）
2012(平成 24)年	4 月	厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
2013(平成 25)年	3 月	地域医療支援病院認定
2018(平成 30)年	4 月	「公益社団法人昭和会」へ法人名称変更
2018(平成 30)年	9 月	鹿児島DMA T 指定病院
2020(令和 2)年	12 月 31 日	昭和会クリニック閉院
2021(令和 3)年	1 月 1 日	いまきいれ総合病院、上町いまきいれ病院 開院
2021(令和 3)年	2 月 2 日	いまきいれ総合病院・キラメキテラスヘルスケアホスピタルをつなぐ 通路(アトリウム)開通
2021(令和 3)年	8 月	ドクターカー導入
2021(令和 3)年	10 月 1 日	上町いまきいれ病院 長田町（旧今給黎総合病院別館）へ移転
2021(令和 3)年	10 月	第 1 回看護師特定行為研修開講



# 公益社団法人昭和会の組織図



令和4年3月現在



いまきいれ総合病院

Ⅱ-1

病院概要



## いまきいれ総合病院 病院概要

(令和4年3月現在)

名称	公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院 Imakiire General Hospital		
開設者	代表理事 今給黎 和幸 (いまきいれ かずゆき)		
管理者	院長 濱崎 秀一 (はまさき しゅういち)		
所在地	〒890-0051 鹿児島市高麗町 43 番 25 号 (かごしましこうらいちょう)		
代表電話	099-252-1090		
代表 FAX	099-203-9119		
URL	<a href="https://imakiire.jp/">https://imakiire.jp/</a>		
病院開設日	2021 年 (令和 3 年) 1 月 1 日		
病床数	350 床 高度急性期病床 31 床 (HCU10 床、NICU 9 床・GCU12 床) 急性期病床 319 床		
規模	地上 9 階 搭屋 1 階 敷地面積 7,300.00 m <sup>2</sup> 、建築面積 3,864.81 m <sup>2</sup> 、延床面積 24,964.32 m <sup>2</sup>		
標榜科 (30 診療科)	内科、糖尿病内科、血液内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、新生児内科、頭頸部・耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科		
職員数	853 名		
有資格者		常勤	非常勤
	医師	104 名 (歯科 3 名含)	8 名
	薬剤師	26 名	
	診療放射線技師	21 名	
	臨床検査技士	28 名	1 名
	臨床工学技士	14 名	
	理学療法士	32 名	
	作業療法士	10 名	
	言語聴覚士	8 名	
	管理栄養士	11 名	
	社会福祉士	5 名	
	看護師	397 名	4 名 (パート)
	助産師	23 名	
	保健師	2 名	
	准看護師	5 名	
診療情報管理士	11 名		





## 施設概要

(令和4年3月現在)

9F	S病棟(43床):総合診療科、血液内科、緩和医療科、泌尿器科 研修医室 患者洗濯室 図書室
8F	N病棟(42床):泌尿器科、脳神経外科、頭頸部・耳鼻咽喉科、歯科口腔外科 S病棟(43床):脳神経内科、循環器内科
7F	N病棟(43床):消化器内科、外科 S病棟(43床):呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科
6F	N病棟(40床):整形外科、形成外科、小児科 S病棟(43床):整形外科、糖尿病内科、血管外科
5F	リハビリテーション科 リハビリテーション課 講義室 会議室 医局 事務局 地域医療連携センター
4F	レディース病棟(22床):整形外科、形成外科、小児科 NICU(9床)・GCU(12床) 周産期母子医療センター 産科外来 新生児フォローアップセンター 外来化学療法室
3F	手術室 HCU(10床) 透析室 高気圧酸素室
2F	総合案内 総合受付 入退院支援センター 外来 消化器内視鏡センター がん相談支援センター 患者サポート窓口
1F	総合案内 救急センター 救急・総合診療科 中央放射線課 放射線科(治療・診断) 売店 防災センター

キラメキテラスヘルス  
ケアホスピタル、駐車場  
への連絡通路

### 地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 洋上救急業務支援協力医療機関  
県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院  
鹿児島県DMAT(災害派遣医療チーム)指定病院



## 施設認定

### ● 指定医療機関等

保険医療機関  
 国民健康保険医療取扱機関  
 労災保険指定病院  
 労災保険二次健診等給付病院  
 生活保護法指定病院  
 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院  
 （整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）  
 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院  
 （神経内科に関する医療）  
 感染症法（第37条の2）指定病院  
 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院  
 母体保護法指定病院「不妊手術」  
 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院  
 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院  
 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院  
 母子保健法指定病院「養育医療」  
 出入国管理及び難民認定法指定病院  
 救急告示病院  
 県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援）  
 基幹型臨床研修病院  
 厚生労働省 DPC 対象病院  
 県指定 かごしま子育て応援企業  
 産科医療補償制度加入医療機関  
 県女性医師復職研修事業指定病院  
 県指定 地域周産期母子医療センター  
 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム  
 輪番病院  
 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院  
 歯科医師臨床研修病院（協力型）  
 県エイズ治療協力病院  
 県指定 地域医療支援病院  
 AMAT（全日本病院医療支援班）病院  
 鹿児島県DMAT（災害派遣医療チーム）指定病院  
 洋上救急業務支援協力医療機関  
 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設  
 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関  
 県重症難病医療協力病院（短期入所施設）  
 鹿児島市高規格救急車指示病院  
 県広域災害医療情報システム（EMIS）登録病院  
 市指定 にこにこ子育て応援隊認定企業  
 県地域周産期医療支援病院  
 各種健診（検診）・予防接種等受託医療機関  
 鹿児島県消化器集団検診精密検査医療機関  
 NCD登録施設

### ● 学会等認定施設

日本血液学会認定血液研修施設  
 日本消化器学会 胃腸科指導施設  
 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設  
 日本消化器病学会専門医制度認定施設  
 日本胆道学会指導医制度指導施設  
 鹿児島県消化器集団検診精密検査医療機関  
 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設  
 日本神経学会専門医制度教育施設  
 日本脳卒中学会一次脳卒中センター  
 日本呼吸器学会専門医制度関連施設  
 日本外科学会専門医制度修練施設  
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設  
 呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設  
 日本整形外科学会専門医研修施設  
 日本脊髄病学会脊髄外科専門医基幹研修施設  
 日本形成外科学会認定医研修施設  
 日本手外科学会研修施設  
 日本産科婦人科学会専門研修連携施設  
 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）暫定研修施設  
 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母胎胎児）暫定研修施設  
 日本泌尿器科学会専門医教育施設  
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設  
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設  
 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽頭系）  
 日本麻酔科学会麻酔科標榜研修施設  
 日本IVR学会専門医修練施設  
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
 日本放射線腫瘍学会 認定施設  
 日本病理学会研修登録施設  
 日本臨床細胞学会認定施設  
 日本口腔外科学会専門医制度研修施設  
 日本がん治療認定医機構 認定研修施設  
 日本口腔ケア学会口腔ケア認定施設  
 日本緩和医療学会認定研修施設  
 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設  
 日本栄養療法推進協議会NST稼動施設  
 日本臨床栄養代謝学会NST稼動施設  
 日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設  
 日本臨床神経生理学会認定施設  
 日本糖尿病学会認定教育施設 I  
 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設  
 日本血液学会認定専門研修教育施設  
 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設  
 日本臨床腫瘍薬学会がん診療連携研修病院認定  
 日本糖尿病学会認定教育施設  
 浅大動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大動脈ステントグラフト実施施設  
 日本臨床細胞学会教育施設



## 施設基準届出一覧

### ○基本診療料の施設基準等

地域歯科診療支援病院歯科初診料  
 一般病棟入院基本料  
 総合入院体制加算 3  
 救急医療管理加算  
 超急性期脳卒中加算  
 診療録管理体制加算 1  
 医師事務作業補助体制加算 1  
 急性期看護補助体制加算  
 看護職員夜間配置加算  
 療養環境加算  
 重症者等療養環境特別加算  
 無菌治療室管理加算 2  
 緩和ケア診療加算  
 栄養サポートチーム加算  
 医療安全対策加算 1  
 感染防止対策加算 1  
 患者サポート体制充実加算  
 褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
 ハイリスク妊娠管理加算  
 ハイリスク分娩管理加算  
 呼吸ケアチーム加算  
 後発医薬品使用体制加算 1  
 データ提出加算  
 入退院支援加算 1.3  
 入院時支援加算  
 認知症ケア加算  
 せん妄ハイリスク患者ケア加算  
 精神疾患診療体制加算  
 地域医療体制確保加算  
 ハイケアユニット入院医療管理料 1  
 新生児特定集中治療室管理料 1  
 新生児治療回復室入院医療管理料  
 小児入院医療管理料 4  
 入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）  
 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び  
 歯科治療時医療管理料

### ○特掲診療料の施設基準等

外来栄養食事指導料の注 2  
 がん性疼痛緩和指導管理料  
 がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ  
 外来緩和ケア管理料  
 乳腺炎重症化予防ケア・指導料  
 婦人科特定疾患治療管理料  
 院内トリアージ実施料  
 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送  
 看護体制加算  
 外来放射線照射診療料  
 ニコチン依存症管理料  
 療養・就労両立支援指導料の注 3 に掲げる相談支援加算  
 開放型病院共同指導料  
 がん治療連携計画策定料  
 薬剤管理指導料  
 医療機器安全管理料 1  
 医療機器安全管理料 2  
 在宅酸素療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリ  
 ング加算  
 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔  
 モニタリング加算  
 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動  
 する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グ  
 ルコース測定  
 精密触覚機能検査  
 BRCA1/2遺伝子検査（血液を検体とするもの）  
 BRCA1/2遺伝子検査（腫瘍細胞を検体とするもの）  
 HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）  
 検体検査管理加算（Ⅳ）  
 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト  
 単線維筋電図  
 神経学的検査  
 補聴器適合検査  
 小児食物アレルギー負荷検査  
 画像診断管理加算 1  
 画像診断管理加算 2  
 CT撮影及びMRI撮影  
 冠動脈CT撮影加算  
 心臓MRI撮影加算  
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
 外来化学療法加算 1  
 連携充実加算  
 無菌製剤処理料  
 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）  
 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）  
 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）  
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）  
 がん患者リハビリテーション料  
 歯科口腔リハビリテーション料 2  
 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）  
 人工腎臓  
 導入期加算 1  
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算  
 CAD/CAM冠  
 センチネルリンパ節加算  
 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合  
 に限る）  
 後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）  
 椎間板内酵素注入療法  
 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）



鏡視下喉頭悪性腫瘍手術  
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）  
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）  
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
食道縫合術  
（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等  
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術  
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術  
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術  
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術  
胸腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）  
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術  
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術  
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術  
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術  
（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）  
腹腔鏡下仙骨腫固定術  
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術  
輸血管理料Ⅰ  
輸血適正使用加算  
貯血式自己血輸血管理体制加算  
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
胃瘻造設時嚥下機能評価加算  
広範囲顎骨支持型装置埋入手術  
麻酔管理料（Ⅰ）  
歯科麻酔管理料  
放射線治療専任加算  
外来放射線治療加算  
高エネルギー放射線治療  
1回線量増加加算  
画像誘導放射線治療（IGRT）  
定位放射線治療  
病理診断管理加算Ⅰ  
悪性腫瘍病理組織標本加算  
クラウン・ブリッジ維持管理料  
酸素の購入単価



## 主要医療機器



放射線治療装置 Infinity



3T MRI (Ingenia Elitiln S)



320 列 CT  
(Aquilion ONE/PRISM Edition)



64 列 CT  
(Incisive CT Premium)



da Vinci X Surgical System



O-Arm ナビゲーションシステム



セクリスト高気圧酸素治療装置  
Model 3300HJ



内視鏡システム EVIS X1



心臓リハビリテーション

### 【その他医療機器】

一般撮影装置  
 X線透視装置  
 CT装置  
 歯科用パノラマ装置  
 血管造影循環器 X線撮影装置  
 3Dimensions (3DMammography)  
 歯科用 X線装置  
 一般ポータブル X線装置  
 外科用イメージ  
 MRI装置 1.5T、3.0T  
 核医学装置 RI  
 X線骨密度測定装置  
 個人用人工透析装置  
 急性血液浄化装置  
 個人 RO装置  
 人工呼吸器  
 手術中誘発電位測定装置  
 体温維持装置  
 内視鏡ビデオスコープ  
 3D内視鏡装置

超音波気管支ファイバースコープ  
 内視鏡用超音波観測装置  
 分娩監視装置  
 定置・閉鎖型保育器  
 搬送用保育器  
 光線治療器  
 無反射視力検査装置  
 マイクロ波治療装置  
 高周波手術装置  
 超音波凝固切開装置  
 超音波検査装置  
 睡眠時無呼吸症候群検査装置  
 精密肺機能検査装置  
 ホルター心電計／解析装置  
 磁気刺激装置  
 心電計  
 脳波計  
 誘発電位・筋電図測定装置  
 聴力検査装置  
 多項目自動血球分析装置

生化学自動分析装置  
 全自動血液凝固測定装置  
 自動免疫組織化学染色装置  
 除細動装置  
 オートパルス人工蘇生システム  
 麻酔器システム  
 電気メス  
 全自動輸血検査装置  
 歯科ユニット  
 新生児専用救急搬送車「もじょか1号」  
 ドクターカー







いまきいれ総合病院

Ⅱ-2

病院統計



(1) 外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合)

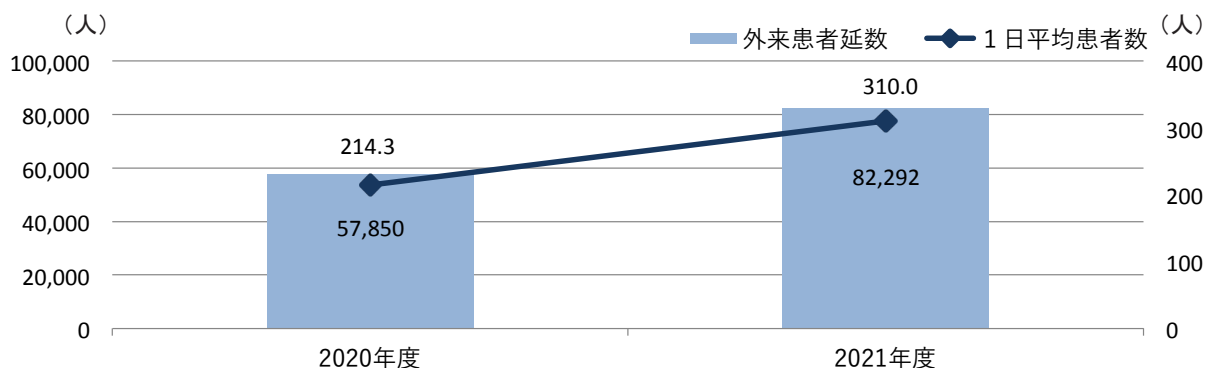
単位：人

診療科名	2020/令和2年度*		2021/令和3年度	
	患者数	1日平均患者数	患者数	1日平均患者数
救急・総合診療科	1,695	6.3	3,554	13.4
総合内科/内科(SAS等)	474	1.8	286	1.1
糖尿病科	1,775	6.6	2,347	8.8
呼吸器内科	2,296	8.5	6,324	23.8
脳神経内科	1,266	4.7	4,592	17.3
消化器内科	7,480	27.7	6,897	26.0
循環器内科	5,631	20.9	4,640	17.5
血液内科	1,754	6.5	2,237	8.4
外科	3,608	13.4	3,260	12.3
呼吸器外科	1,812	6.7	2,109	7.9
血管外科	590	2.2	909	3.4
整形外科	2,963	11.0	8,390	31.6
形成外科	1,245	4.6	4,169	15.7
脳神経外科	646	2.4	1,455	5.5
産科	3,622**	13.4**	1,032	3.9
婦人科			2,515	9.5
小児科	752	2.8	2,944	11.1
新生児内科	357	1.3	1,888	7.1
泌尿器科	7,281	27.0	5,197	19.6
耳鼻咽喉科	1,087	4.0	4,020	15.1
皮膚科	897	3.3	3,306	12.5
麻酔科	67	0.2	54	0.2
放射線科	1,761	6.5	1,946	7.3
緩和医療科	456	1.7	455	1.7
一般歯科	984	3.6	1,784	6.7
歯科口腔外科	860	3.2	5,982	22.5
総計	57,850	-	82,292	-
1日平均	-	214.3	-	310.0

\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院(眼科を除く) 2021年1月～3月いまきいれ総合病院

\*\*産婦人科集計

■ 外来患者数と1日平均患者数



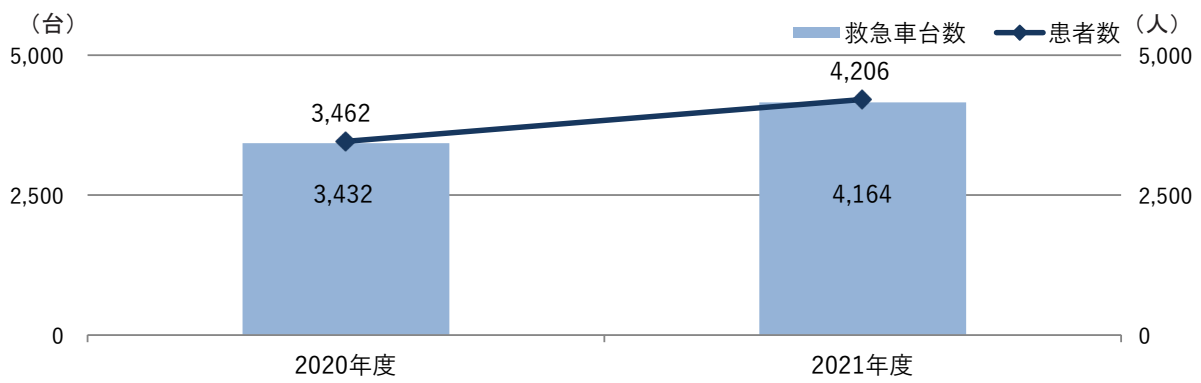




## (2) 救急外来

	2020/ 令和 2 年年度 *	2021/ 令和 3 年度
救急車台数 (台)	3,432	4,164
搬送者数 (人)	3,462	4,206
入院	1,836	2,121
外来	1,626	2,085
入院率	53.0%	50.4%
ドクターヘリ受入 (件)	21	-
ドクターカー受入 (件)	33	61
ドクターカー出動 (再掲)	6	11

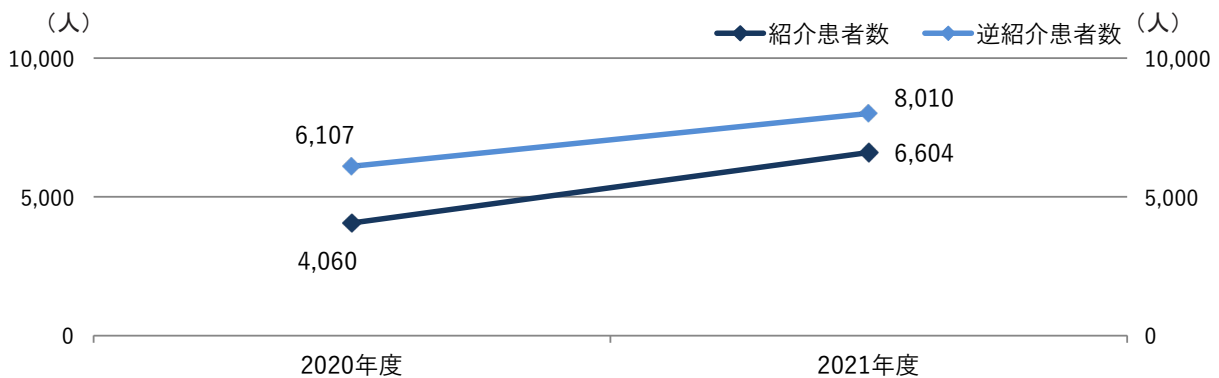
## ■救急外来患者数・救急車台数



## (3) 紹介率・逆紹介率

	2020/ 令和 2 年年度 *	2021/ 令和 3 年度
紹介率 (%)	70.4%	59.6%
逆紹介率 (%)	105.9%	72.3%

## ■紹介患者数・逆紹介患者数



\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院 2021年1月～3月いまきいれ総合病院



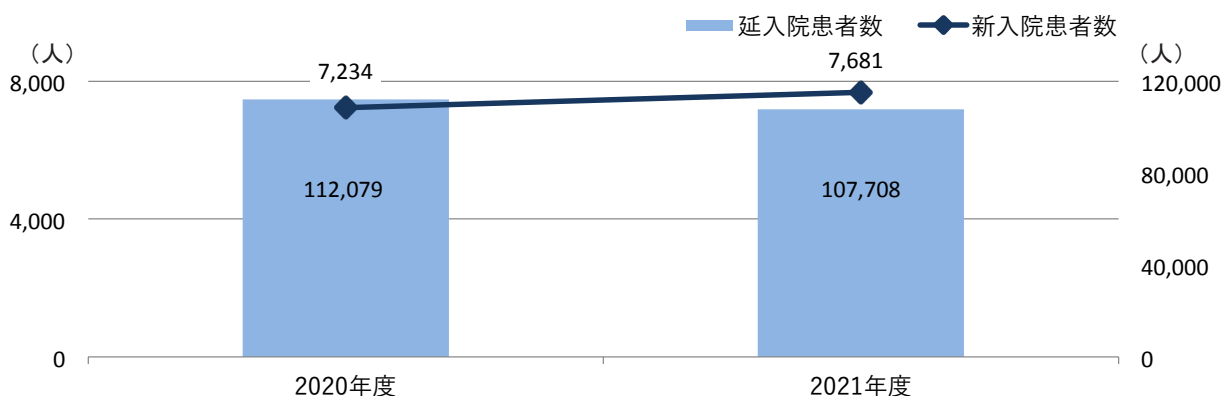
## (4) 新入院患者・延入院患者数

単位：人

診療科名	2020/令和2年度*		2021/令和3年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院
救急・総合診療科	213	2,120	591	8,725
総合内科	157	3,053	-	-
糖尿病科	51	654	76	1,056
呼吸器内科	626	8,755	676	9,226
脳神経内科	353	9,066	277	6,879
消化器内科	796	7,880	729	7,480
循環器内科	125	2,592	146	2,812
血液内科	322	7,006	318	5,874
外科	518	5,738	540	5,053
呼吸器外科	342	3,684	365	3,756
血管外科	52	133	92	414
整形外科	1,058	30,027	1,137	24,777
形成外科	366	5,500	370	5,339
脳神経外科	252	4,570	223	3,667
産婦人科	360	3,345	369	4,002
新生児内科	165	5,265	203	5,785
小児科	110	525	133	539
泌尿器科	553	5,023	537	4,273
頭頸部・耳鼻咽喉科	463	3,899	554	5,072
皮膚科	60	979	55	1,079
麻酔科	0	0	1	1
放射線科(診断・治療)	59	625	42	306
緩和医療科	28	760	31	745
歯科口腔外科	205	880	216	848
合計	7,234	112,079	7,681	107,708
1月平均	603	9,340	640	8,976
1日平均	20	307	21	295

\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院(眼科を除く) 2021年1月～3月いまきいれ総合病院 \*\*産婦人科集計

## ■新入院患者・延入院患者数

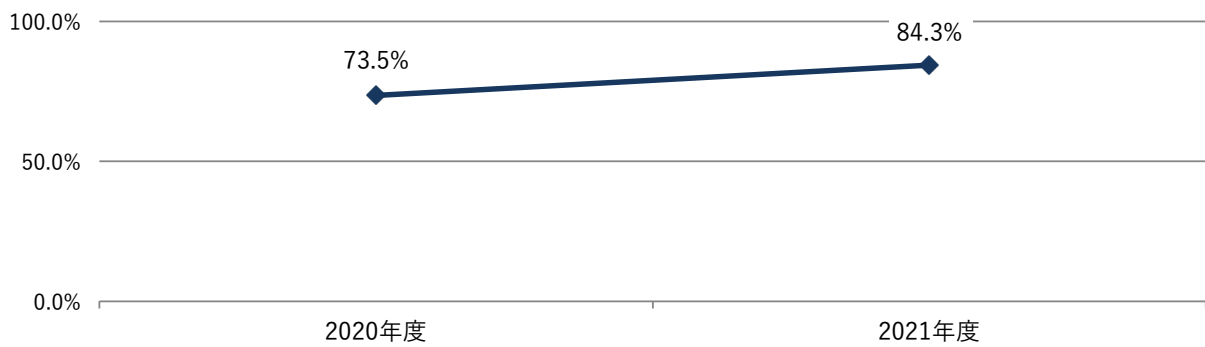




## (5) 入院に関する実績比較

	2020/ 令和 2 年年度 *	2021/ 令和 3 年度
定床	450 床	350 床
新入院数	7,234 人	7,681 人
退院数	7,213 人	7,680 人
在院患者延数	112,079 人	107,708 人
1 日平均在院患者数	307 人	295 人
平均在院日数	13.9 日	14.1 日
病床稼働率	73.5 %	84.3 %

## ■病床稼働率



\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院 2021年1月～3月いまきいれ総合病院



## (6) 手術件数 (DSA室/DS室含む)

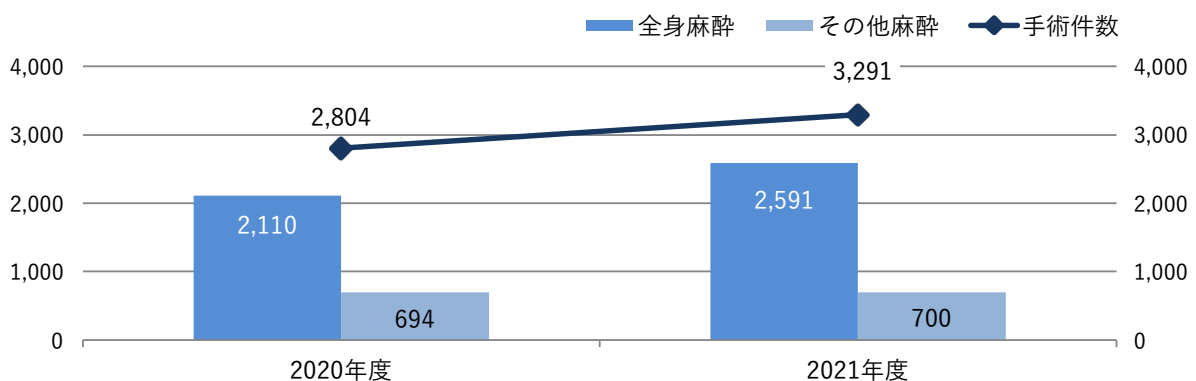
単位：人

	2020/令和2年度*	2021/令和3年度
整形外科	967	1,103
形成外科	371	423
外科	301	326
泌尿器科	258	294
頭頸部・耳鼻咽喉科	288	375
産婦人科	165	199
呼吸器外科	149	204
歯科口腔外科	158	168
血管外科	57	104
脳神経外科	86	59
循環器内科	0	16
消化器内科	3	8
救急科	1	8
麻酔科	0	4
総計	2,804	3,291

## (7) 麻酔件数

	2020/令和2年度*	2021/令和3年度
全身麻酔	2,110	2,591
その他麻酔	694	700

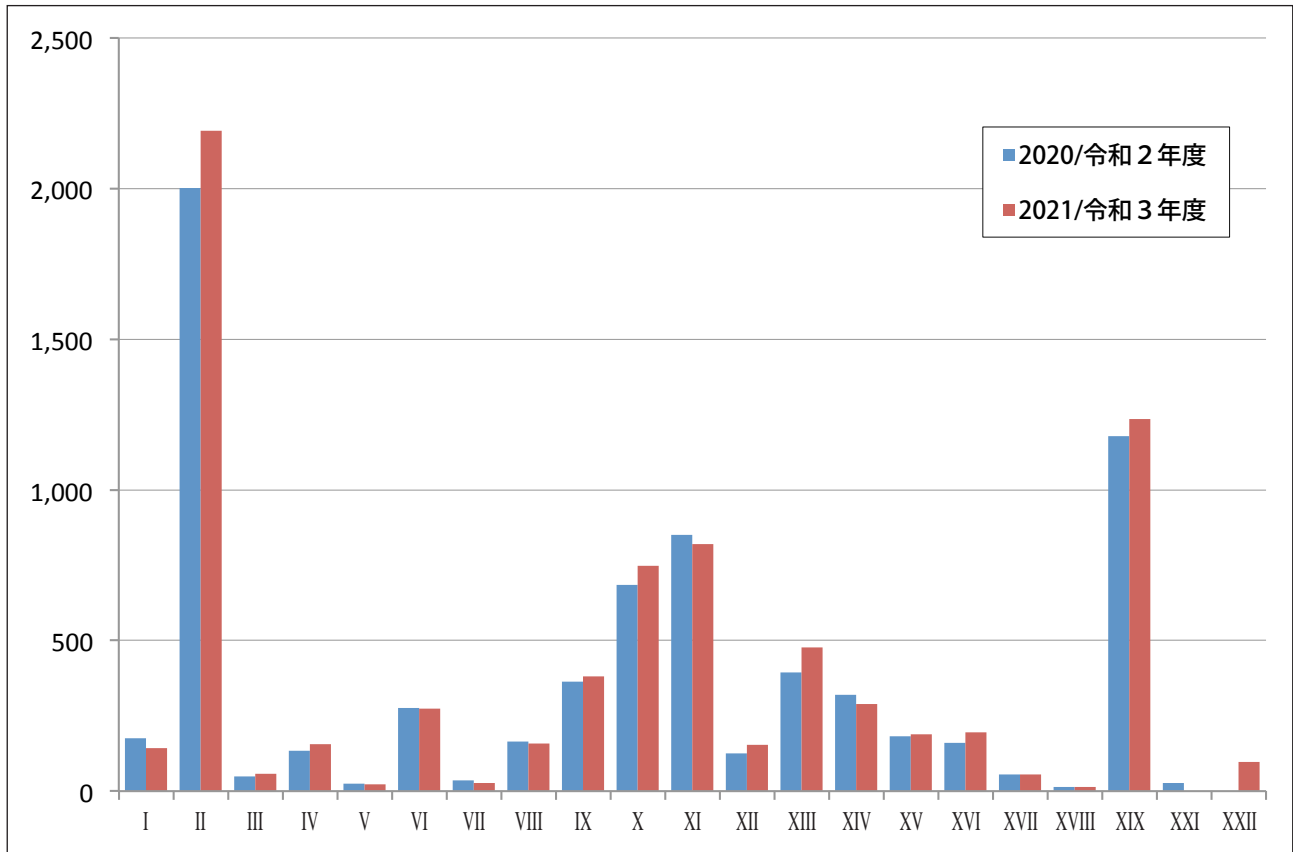
## ■ 麻酔件数・手術件数



\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院(眼科を除く) 2021年1月～3月いまきいれ総合病院

\*\*産婦人科集計

## (8) 退院患者 ICD 大分類



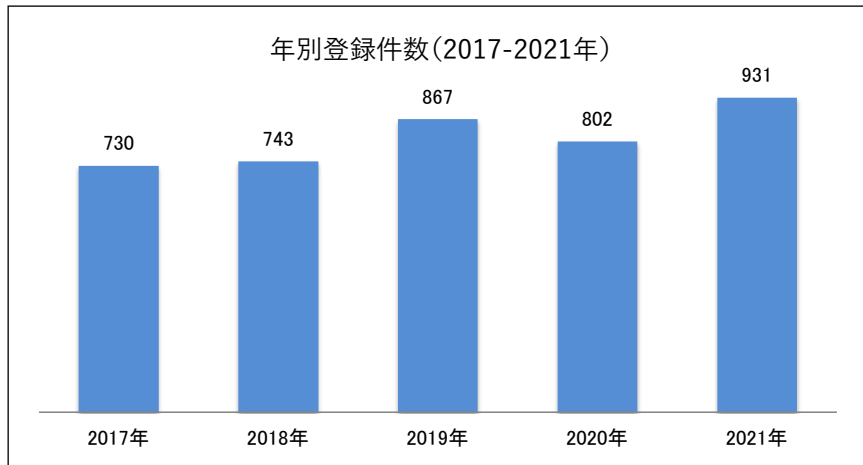
コード	大分類項目	2020/ 令和2年度*	2021/ 令和3年度
I	感染症及び寄生虫症	175	142
II	新生物	2,001	2,192
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	49	58
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	134	156
V	精神及び行動の障害	25	22
VI	神経系の疾患	275	273
VII	眼及び付属器の疾患	36	28
VIII	耳及び乳様突起の疾患	164	157
IX	循環器系の疾患	363	380
X	呼吸器系の疾患	685	748
XI	消化器系の疾患	850	820
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	125	154
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	394	478
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	319	289
XV	妊娠、分娩及び産褥	183	189
XVI	周産期に発生した病態	161	196
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	56	55
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	13
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,178	1,234
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	27	0
XXII	新興感染症	0	96
	合計	7,213	7,680

\*2020年度：2020年4月～12月今給黎総合病院（眼科を除く）2021年1月～3月いまきいれ総合病院で集計

【院内がん登録集計 2021年1月1日～ 2021年12月31日 931件】

※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例

★1 腫瘍1 登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録



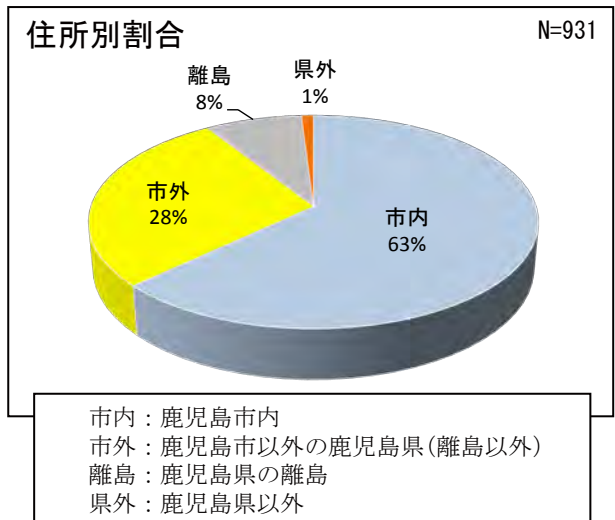
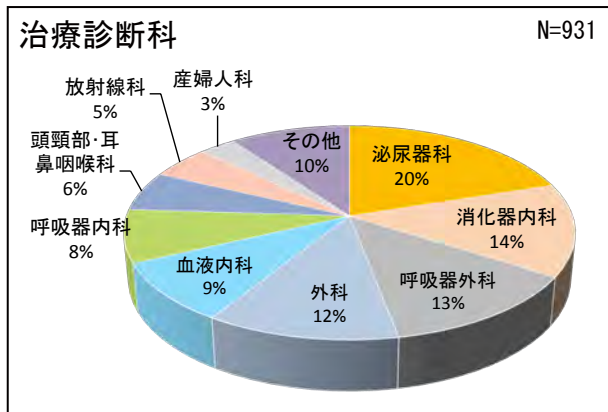
①治療診断科

診断のみで終了した場合：診断を行った診療科  
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科  
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。

(例) 消化器内科にて診断、外科にて治療  
 ⇒ 外科でカウント

②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。  
 市外では多い順に始良市 42、薩摩川内市 35、霧島市 28、離島では、種子島 43、屋久島 17、奄美 16 の順となっています。

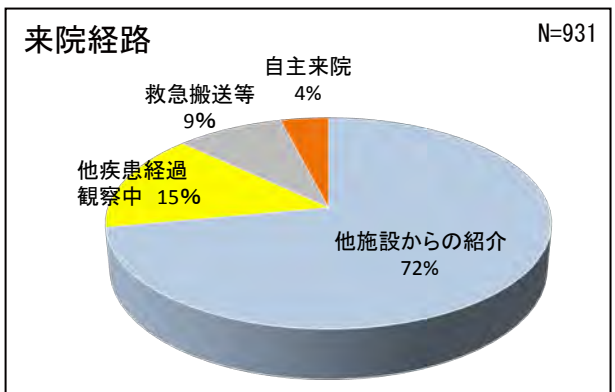
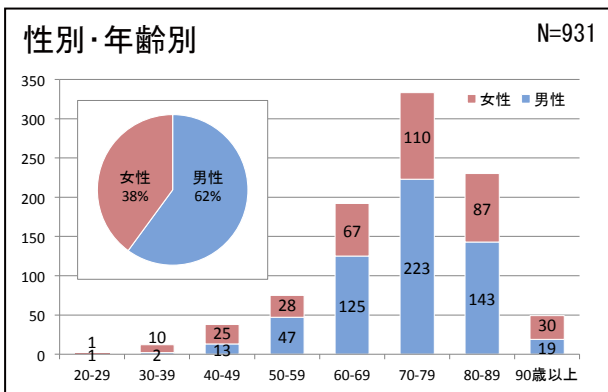


③性別・年齢別患者数

患者様の年齢、性別の割合をグラフ化しています。

④来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。





### ⑤ 症例区分

診断治療の決定：

当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

他施設診断自施設治療：

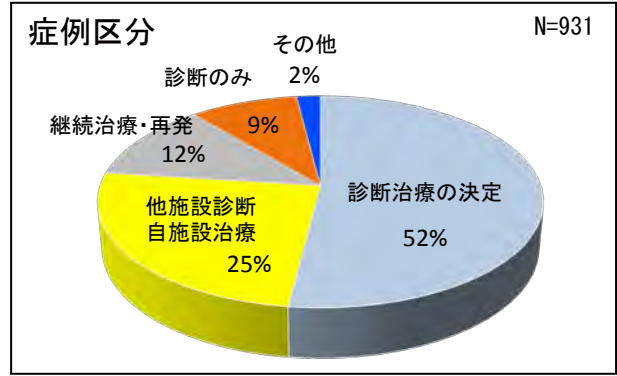
がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

継続治療・再発：

他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し当院にて治療を行った症例

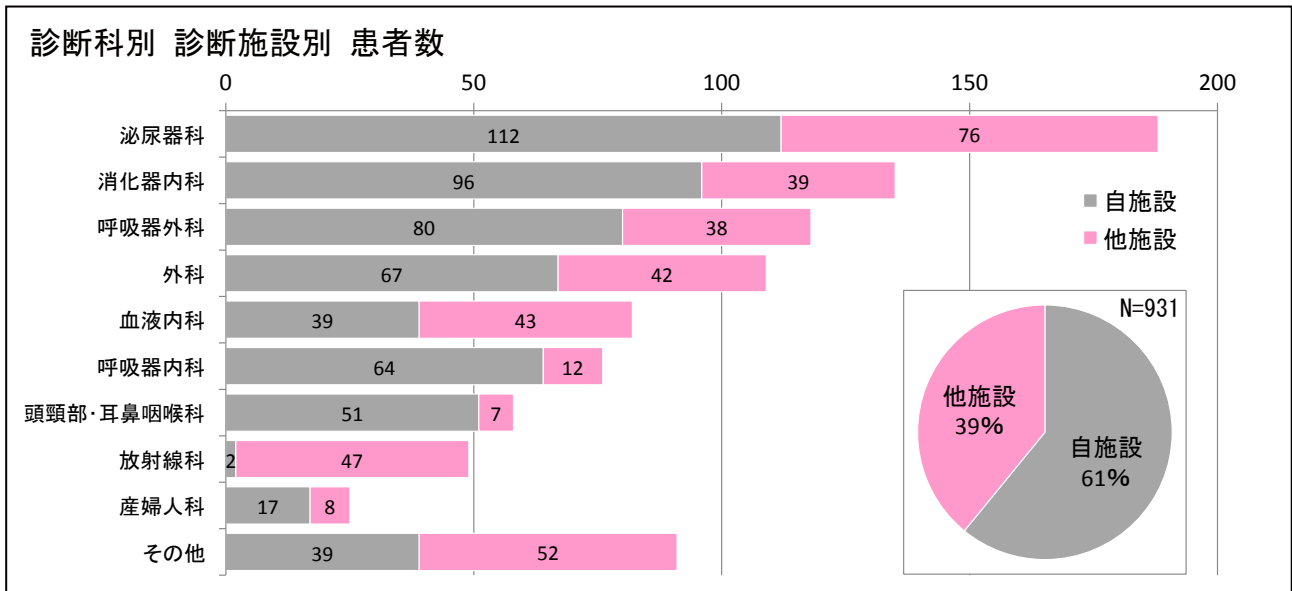
診断のみの症例：

当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例



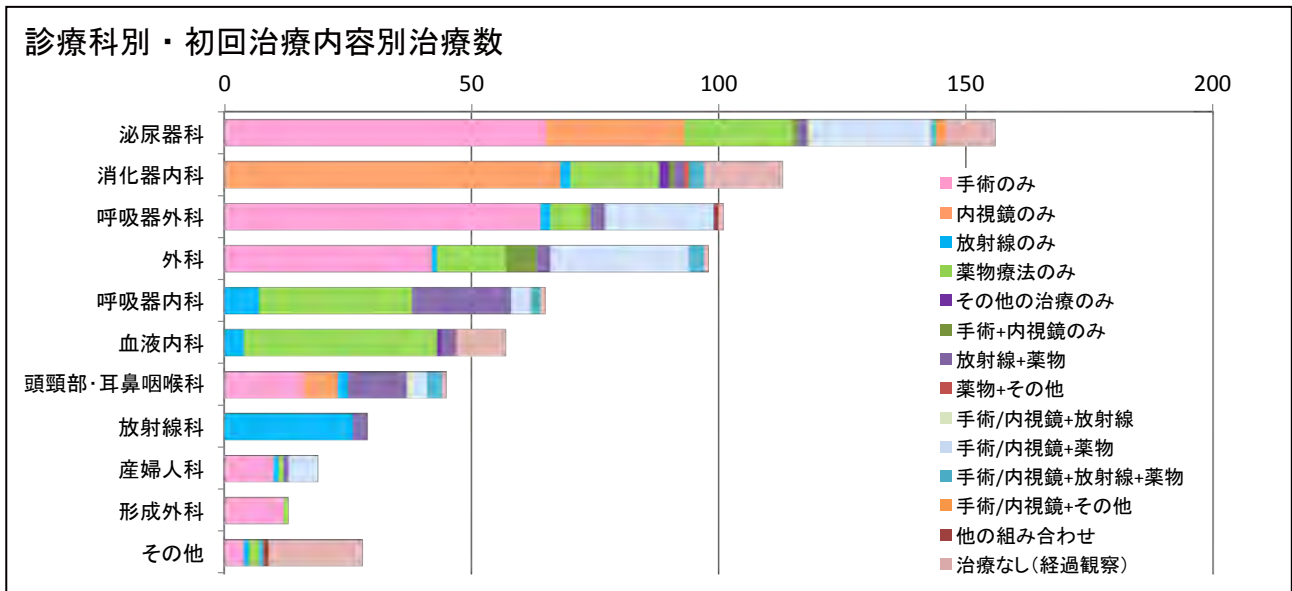
### ⑥ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者さまの診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



### ⑦ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています。



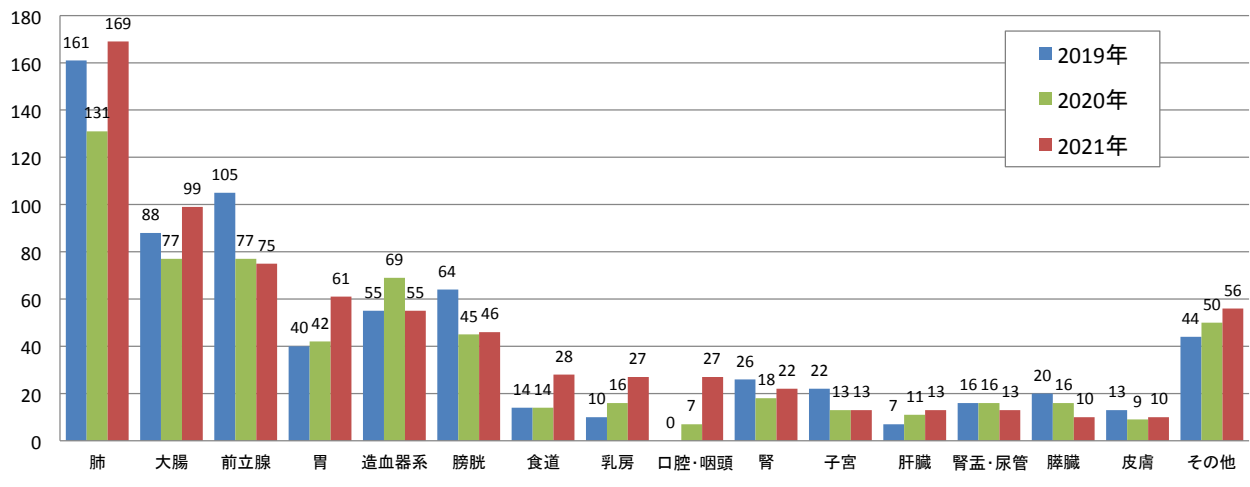


⑧ 性別・年齢階層別・原発部位別 患者数(当院にて初回治療実施症例のみ集計：724件)

部位別の登録件数を登録年別にグラフ化したものになります。

「その他」は、年間10症例未満のがんで、小腸、甲状腺、胆のう、脳腫瘍、骨軟部、原発不明がん等が含まれます。

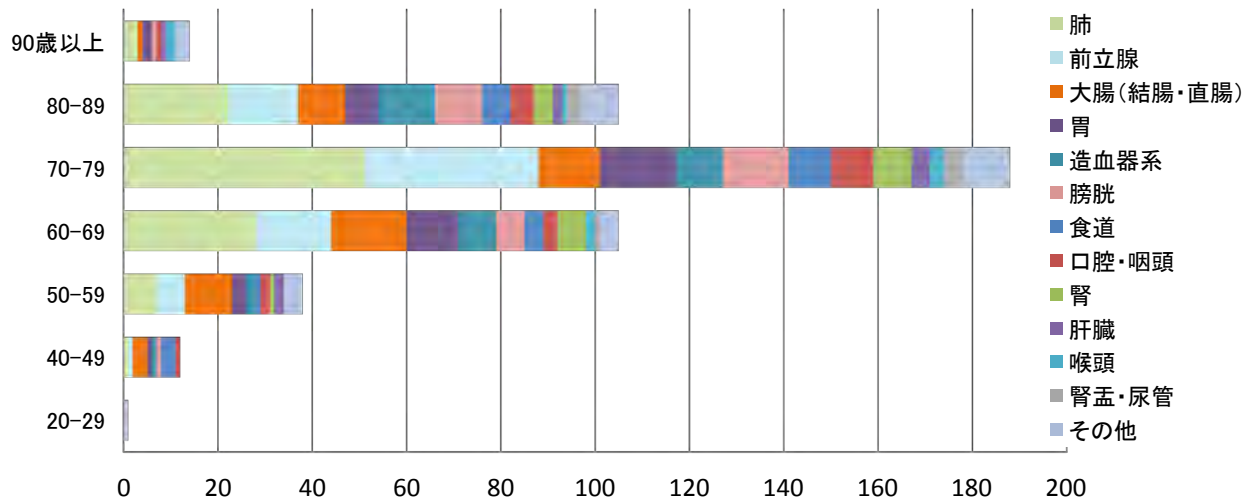
部位別登録数(2019-2021年)



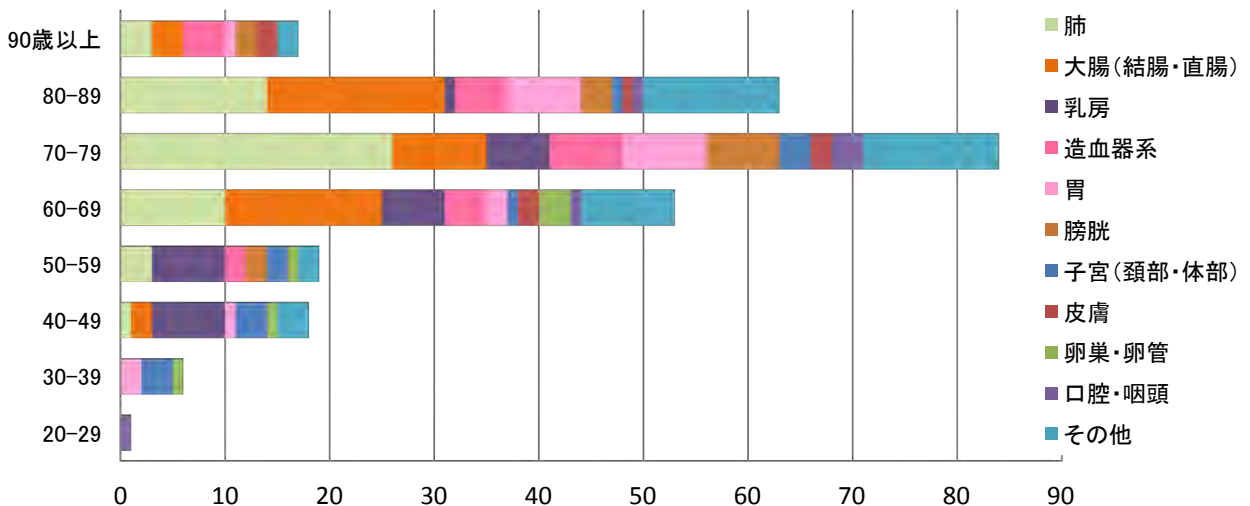
⑨ 性別・年齢階層別・原発部位別 患者数(当院にて初回治療実施症例のみ集計：724件)

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。

年齢階層別・原発部位別 患者数(男性)



年齢階層別・原発部位別 患者数(女性)







## 部門報告 診療部

- 救急・総合診療科(救急科・内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 脳神経内科
- 外科、消化器外科、乳腺外科
- 呼吸器外科
- 血管外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産科・婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 頭頸部・耳鼻咽喉科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 歯科、歯科口腔外科
- 病理診断科
- 緩和医療科



# 救急・総合診療科/救急科

部長／西山淳  
 部長待遇／坂元健一  
 科長／覚本雅也  
 医師／岩永千尋(2022.1～3)

## 2021年度トピックス

2次救急医療施設に位置づけされている当院において救急科は救急診療、教育研修、災害医療の3つを基本的な活動の軸として日常の診療に従事している。救急診療ではプライマリーケアおよびインテンシブケアを行っている。教育研修では日本救急医学会認定講習（BLSコース、ICLSコース）を行い、多くの病院スタッフが共通のスキルを学ぶことで急変対応において効果的なチームダイナミクスの確立を目指している。さらに救急隊との合同カンファレンスでは“顔の見える関係”を構築すべく知識、技術の研鑽に励んでいる。災害医療においては、救急部門スタッフを中心に日本DMATを編成し災害時の対応強化に努めている。また災害医療教育としてはエマルゴコースを開催している。ここで学んだことをフィードバックすることで災害の分析や検証、災害マニュアルの見直しなどを行い、病院の災害医療体制構築、対応能力の改善に活用している。

## 2021年度 診療実績

症例区分	2021年度
1. 心停止	22人
2. ショック	52人
3. 内因性救急疾患	4,260人
4. 外因性救急疾患	3,172人
5. 小児および特殊救急	539人
6. 救急車（ドクターカー、ヘリ含む）	4,164台
7. 救急入院患者	2,121人
8. 重症救急患者	395人

## 総括

2021年度は病院移転後初めて迎えた1年であったが、新型コロナウイルス流行下であったのにも関わらず救急車受け入れ台数および救急車からの入院患者数は過去最高件数であった。しかし救急車不応需率は増加（移転前10%、移転後20%）しており、その対策が望まれる。またHCUを段階的に8床（4～9月）から10床（10月～）へ増床したが、90%近い高い稼働率での運営に成功している。また新型コロナウイルス流行下という特殊な状況であったため研修会や学習会あるいは集団での訓練などをほとんど行うことができなかった。今後はそういった状況下においても一定の対応スキルを得ることで徐々に解決できると考えている。

## 次年度の目標

- ・ 救急車受け入れ4000件、救急車不応需率10%未満
- ・ ドクターカーの運用を開始する（始良地区2022年3月～、日置地区2022年7月～）。
- ・ 定期的に救急隊との合同カンファレンスを開催する：2回（8月、2月）/年：オンラインなどを用いて行う。
- ・ スムーズな患者フローを行うために組織間の連携強化（各診療科間、病院間、病院 - 消防、病院 - 行政など）に努める。
- ・ 病院全職員を対象とした救急蘇生教育・災害教育を継続実施する。
- ・ システム化した研修医の教育体制を図る。
- ・ 救急科医師・救急スタッフを中心としたチームによるラピッドレスポンスシステムを構築し稼働を開始する（2022年7月～）。
- ・ 診療科判断のパスを整備する。



# 救急・総合診療科/内科

部長／二木真琴

部長待遇／久保忠弘

医師／三宅健治、大磯陽子、牟禮洋

## 2021年度トピックス

総合内科から救急・総合診療科へ変わった。主に内科救急疾患の治療、応急処置を行っている。体調が気になるけれど、どこの診療科に行ったら良いかわからない場合や、不明熱、症状が多岐にわたるなどの専門科のはっきりしない疾患に対応し診療している。高齢化社会になって、複数の疾患を併発する患者さまが増えている。臓器にとらわれることなく、広い視野で診療し、専門科への診療の橋渡しを行っている。また入院では、内科管理が必要な他科患者さまの診療やNST (nutrition support team) 活動を行っている。

そのほか、下記は予約にて午後に一般外来で診療を行っている。

- ・ 特定健診、一般健診などの健診。
- ・ 各種予防接種、睡眠時無呼吸症候群 (SAS) 外来。
- ・ 人間ドックや健康診断後の再検査目的の受診。

## 2021年度 診療実績

外来患者数	初診	606 人(紹介状あり 100 人)
	再診	941 人
一般健診数		71 人
入院患者数		290 人
入院経路		救急 59%、紹介：26%、外来 15%
在院日数		19.7 日

SAS	簡易検査	40 件
	精密検査 (PSG)	24 件
	CPAP 新規導入	21 件
	CPAP フォロー患者	59 人
	(呼吸器内科、糖尿病内科、脳神経内科、 頭頸部・耳鼻咽喉科含む)	

## 総括

紹介状なしのウォークインの数が多く、外来初診患者数に占める紹介状持参例が少ない。

入院の主な対象疾患は、不明熱や原因不明の疾患に対する診断治療や熱中症、誤嚥性肺炎、尿路感染症、敗血症などに対する入院加療が多かった。高齢者の誤嚥性肺炎、敗血症は、重症化しやすく入院期間が延びる傾向があった。

内科管理が必要な他科患者さまの診療については、整形外科、形成外科からの術前術後の管理の依頼が多かった。

睡眠時無呼吸症候群外来について：

新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、外来診療は電話診察に切り替えるなどし対応した。2021年1月開院の新病院においては睡眠時無呼吸検査専用の2室を設置したが、これも新型コロナウイルス感染症の流行で受診数が減り、検査入院数が減少した。睡眠時無呼吸症候群外来についての周知、広報が同様の理由でできなかった。

## 次年度の目標

救急搬送入院は入院期間が長くなることが多いため、早期に治療のゴールを設定して診療を進めていく。

SAS の専門外来の周知のため、広報活動を行う。循環器内科、脳神経内科、呼吸器内科受診されている中に SAS の潜在の可能性あり、拾い上げていく。

初期臨床研修医数が増えており、総合診療医志向が強くなっているため、指導を積極的に行っていく、広い診療範囲、深い診療姿勢を目指す。

外来初診患者数に占める紹介状持参例が少ないことに関して：

当病院の総合診療科の強みは、バックにたくさん専門科が控えていることで、安心して受診してもらえる環境にある。今後近隣からのより多くの紹介がいただけるよう広報活動していく。

# 血液内科

部長／小濱浩介、井上大栄（報告）  
医師／高木博佑

## 2021年度トピックス

大学病院より3人の新しいスタッフに来ていただき2021年度は4月より鹿児島大学病院からリウマチ内科専門の高木先生が赴任されたことから、膠原病の症例が増加した。入院患者318人の内訳は、血液疾患では、びまん性大細胞型（IVL含む）90人、濾胞性リンパ腫 10人、成人T細胞白血病リンパ腫 35人、多発性骨髄腫 52人、骨髄異形成症候群 4人、急性骨髄性白血病 2人、等。膠原病関連疾患では、関節リウマチ 14人、ANCA関連血管炎 8人、全身性エリテマトーデス 5人、等であった。

外来では、新規症例の獲得を目指し、毎月第1、3土曜日に「血球異常の二次健診外来」を開設した。

## 2021年度 診療実績

外来

新患数 218人/年  
総数 2,237人/年（186.4人/月）

入院

新規 318人/年（26.5人/月）  
平均在院日数 18.6日

化学療法

入院 412件/年  
外来 287件/年

がん（悪性）リハビリテーション  
66人/年

## 総括

新型コロナ禍で入院調整が大変な中、病床管理および病棟スタッフのご協力で遅滞なく入院を受け入れることができた。治療的には、免疫療法や標的医療が次々に登場している中、当科でも予後の改善を目指し新規治療法を積極的に導入した。土日・祝日も薬剤課で化学療法の調剤を行って頂けるようになったことも大変有難かった。ご高齢の患者さんはフレイルで入院期間が延びがちになるが、徹底したリハビリテーションにより早期退院できた症例も少なくない。また地域連携室スタッフのご尽力で、キラメキテラスヘルスケアホスピタルや上町いまきいれ病院等への転院調整もスムーズに行えた。

病院移転からの混沌からようやく落ち着いてきたところに新型コロナで振り回されていたが、スタッフ一丸となり診療を維持することができた1年であったと思われる。

## 次年度の目標

残念ながらリウマチ内科医が不在となったため、血液疾患の症例を増加させなければならない。昨年度は無菌病床を有効活用することができなかったので、適応となる骨髄異形成症候群や急性白血病を新たにご紹介いただけるよう、また鹿児島大学病院やその関連施設以外からの紹介も増えるよう、アピールしたい（目標：骨髄異形成症候群+急性白血病の入院 12人/年程度）。ほか、平均在院日数の短縮（目標：14日程度）、外来化学療法の増加（目標：300件程度）を目指す。

# 糖尿病内科

科長／山元聖明  
非常勤医師／下鶴麻希子

## 2021年度トピックス

令和3年度より毎週水・木・金曜日に非常勤医師が赴任し、常勤医師1名、非常勤医師1名の体制で診療を行った。外来診療に於いては1型・2型糖尿病、妊娠糖尿病など糖尿病診療の他、甲状腺疾患や副腎疾患などの内分泌患者さんの診療を行っている。また成人だけではなく、16歳以上となった未成年患者さんが当院の小児科より紹介となり、連携をとりながら診療を行っている。入院診療については、例年通り血糖コントロールや教育、高血糖緊急症、術前の血糖管理など糖尿病患者さんが大部分であったが、その他にも内分泌疾患や電解質異常の精査加療について当科へ紹介されるケースが増えている。

また令和3年度は6名の初期臨床研修医が当科にて研修を行った。特に興味深い症例を経験した研修医は学会での発表も行った。

学会関連活動としては令和3年10月1日には日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰを取得し、糖尿病専門医の取得を目指す医師の研修施設として認定された。

### 【施設認定】

日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ認定  
(認定日2021年10月1日)

## 2021年度診療実績

	2020年度	2021年度
初診	110	127
再診(※1)	1,666	2,220
新入院患者(※2)	72	101

※1 延べ人数

※2 入院後に当科への転科症例を含む

## 総括

新病院への移転に伴い新たな紹介病院を獲得すべく、講演会活動を通じて広く鹿児島県内の医師向けに当科の診療体制の紹介を行った。その効果もあって、少しずつではあるが近隣の医療機関を中心に紹介をいただくケースが増えている。令和3年度は常勤医師が1名であったが、令和4年度から2名に増えることもあり、さらに紹介患者を増やすべく今後も広報活動を続けていきたい。一方当院は紹介型病院であることを踏まえ、安定した患者さんを近隣医療機関への紹介を勧めているが、十分とは言えない。その他の課題としては、糖尿病フットケア外来や透析予防外来が行えなかったことが挙げられ次年度の目標としたい。

## 次年度の目標

- 1 目標入院患者数は年間120名を目標とする。
- 2 紹介患者を増やすため広報活動を積極的に行っていく。
- 3 糖尿病フットケアや透析予防外来の体制づくりを行い、またそのためのコメディカルスタッフへの指導や研修参加の推進を行う。
- 4 キラメキテラスケアホスピタルをはじめとして近隣医療機関との連携を行い、病診連携を推進する。
- 5 初期臨床研修医が充実した研修を行えるよう教育体制の改善を図る。

# 消化器内科

診療部長／船川 慶太  
 部長／吉永英希 理事長／今給黎和幸 医長／山崎晃裕  
 医師／奈良 博文、古川拓人  
 非常勤医師／岩屋博道、鶴留一誠、松本美由紀、丸尾周三

## 2021年度トピックス

- ・ 2021年1月に新病院に移転し、最新の内視鏡装置がほぼ全検査室に導入された。
- ・ ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）件数が年間100例を越え、中でも食道、大腸の件数が増加した。新病院での手術室増加、麻酔科の協力などにより、頸部食道ESD、食道全周ESD、十二指腸ESDなど、困難症例に対して、全身麻酔下に安全に内視鏡治療を行うことが可能となった。
- ・ 外科と合同で行うLECS（腹腔鏡内視鏡合同手術）や頭頸部・耳鼻咽喉科と合同で行う咽頭ESDを本格的に導入した。
- ・ 胆膵領域では、最新の胆道・膵管鏡（スパイグラス）を導入し、直接胆管・膵管を観察しながら診断・治療が可能となった。
- ・ 消化器癌に対する最新の薬物療法をいち早く導入する体制を整え、運用を開始した。
- ・ 検診や人間ドック内視鏡を本格的に行う体制を整えた。

## 2021年度 診療実績

外来患者数

初診925人、再診5,932人、外来患者数6,857人

入院診療 入院状況（入院患者数）

入院患者数827人、在院患者延べ数7,480人

検査名（上部）	件数
胃・十二指腸ファイバー（うち経鼻：371）	1,992
上部超音波ファイバー（EUS）	208
食道内視鏡	2
食道ステント留置術	4
食道狭窄拡張術	107
食道早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD）	24
内視鏡的消化管止血術	39
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	13
食道・胃静脈瘤硬化療法（EIS）	2

内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術（EVL）	11
内視鏡的胃・十二指腸ステント留置術	4
胃・十二指腸狭窄拡張術	6
胃・十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD）	35
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	4
胃・十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD）+LECS	1
食道狭窄拡張術 +EUS	1
上部イレウスチューブ留置術	23
超音波内視鏡下穿刺吸引生検法（EUS-FNA）	16
計	2,492

検査名（下部）	件数
大腸ファイバー	722
・上行結腸まで	615
・下行、横行結腸まで	35
・S状結腸まで	34
・直腸まで	38
下部超音波内視鏡	38
小腸ステント	1
小腸内視鏡（シングルバルーン）	1
小腸内視鏡（その他のもの）	1
カプセル内視鏡	9
EBL	1
下部 EUS-FNA	1
内視鏡的大腸ポリープ切除術	309
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術（ESD）	41
下部消化管内視鏡的止血術	40
大腸ステント留置術	19
結腸軸捻転解除術	3
小腸結腸狭窄部拡張術	19
経肛門的イレウスチューブ留置術	3
計	1,208



検査名 (ER)	件数
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)	12
内視鏡的膵管ステント留置術	3
内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術 (ENBD)	5
内視鏡的胆道拡張術	2
内視鏡的胆管ステント留置術 (ERBD)	47
内視鏡的乳頭切開術 (EST)	13
超音波内視鏡下瘻孔形成術	1
内視鏡的胆道結石除去術(胆道碎石術を伴うもの)	1
内視鏡的胆道結石除去術(その他のもの)	1
内視鏡的乳頭切開術 (EST&EHL)	5
内視鏡的乳頭切開術 (EST&EML)	12
計	102

検査名 (PEG)	件数
内視鏡的胃瘻造設術	53
胃瘻交換	60
計	113

総計 3,940件

## 総括

- ・ 新病院に移転し、検査室は広く刷新され、内視鏡などのハード面は最新の装置が導入され、内視鏡検査・治療を行う環境は整った。しかし、外来待ち時間や混雑の問題や、患者さんへの対応、スタッフ間の連携、導線の確保などの面で課題が見えてきた。他職種間で組織横断的な改善活動を行い、少しずつ問題点は解決されてきている。
- ・ COVID-19の影響で診療制限を受けた時期もあったが、当科としては、影響を受けながらも検査数を大きく減らすことなく、概ね円滑な診療を行うことができ、新病院移転1年目を無事に終えることができた。

## 次年度の目標

- ・ 当科の役割や立ち位置を把握し、地域の病院・クリニックや福祉施設などとの連携を強化し、緊急患者や新規紹介患者の受け入れ、連携先への紹介・転院を円滑に行う。
- ・ 専門のドック事務担当者配属により、検診や人間ドック内視鏡は今後さらに増加の予定となっており、その中から早期癌などの疾患を拾い上げ、内視鏡治療件数増加に尽力する。
- ・ まずは、内視鏡件数5,000件、ESD件数130件を目標にする。
- ・ 胆膵領域についても、エキスパートの医師参入のもと、ERCP関連手技だけでなく、超音波内視鏡下瘻孔形成術など、超音波内視鏡を駆使した診断・治療にも力を入れる。
- ・ 診断治療に関するデータベースを整備し、学会発表や地域での研究会などを通じて、当科診療をアピールする。また、研修医への指導など教育にも力をいれる。
- ・ 2023年6月に病院機能評価受審予定もあり、内視鏡診断治療や薬物療法など、当科関連の各種文書、マニュアル、オーダーシステム、クリニカルパスなどを見直して、整備・統一を図る。
- ・ 職種を越えた組織横断的な連携を強化し、外来、病棟、内視鏡スタッフらと良好な関係を築き、地域から信頼される質の高い安心安全な診療を目標として努力する。

# 循環器内科

院長／濱崎秀一  
部長／志岐健三郎（報告）、有馬良一  
医師／松本紀彰

## 2021年度トピックス

4月から下舞先生が転出し有馬先生が部長として赴任、また、稲津先生が転出し松本先生が赴任となり、小生との3人体制となり、また、濱崎先生は院長職御多忙の中、引き続き院長外来として循環器内科外来をサポートしてくださることとなりました。

当科の当院での役割の一つとして、非心臓手術前の心機能評価がありますが、2019年からは心エコー件数は年間3000件を超えるようになり、年々、その役割は増えている実感があります。しかし最近のガイドラインでもルーチンの術前心エコーは推奨されないことを謳われてきておりますので、マンパワーを他のエコー検査に生かすことも考える岐路に立っていると感じます。例を挙げると、化学療法前後のGLS(global longitudinal strain)などの心機能評価、脳塞栓の塞栓源検査で症例によってはコントラストエコーや経食道心エコーでの精査、また労作性呼吸困難の検査として運動負荷心エコーなどの精査です。

虚血性心疾患に関する画像モダリティは、新病院となって新規の力をつけました。

心臓CTは320列となり、有意狭窄の他、プラーク性状にも迫ることが可能となり、また血管石灰化の強い症例にはサブトラクション処理により石灰化除去した画像での冠動脈形態の評価が可能となりました。

心臓MRIが導入され、試行錯誤を重ねております。パーフュージョンMRIや遅延造影の組み合わせで、虚血や心筋梗塞・他の心筋症との鑑別にも有用と考えます。放射線被曝がない点では若年女性などへの応用も可能と考えます。

心筋シンチは、濱崎院長が就任当時に、Heart Risk Viewの導入を行い、虚血範囲を可視化・スコア化した解析結果は、治療方針の決定に欠かせないものとなりました。心臓CTとのフュージョン画像は、虚血枝の同定・診断もより明示的にできると考えます。他の心筋症に対して、BMIPP・MIBGの他核種を用いています。また、トランスサイレチン型心アミロイドーシスの診断にPYPが有用とされ当院でも対応しました。

心臓カテーテル検査のない循環器内科ですが、非侵襲的な検査・診断力の向上に努めています。

一方、ペースメーカー植込み症例は、新病院へ移転後から、症例数が増えており、また、有馬部長が土曜日ペースメーカー外来を立ち上げ、症例を集約することで、通常的外来負担を減らし、患者さんの認知度も高まることが期待されます。

## 2021年度 診療実績

経胸壁心エコー	3,160件
経食道心エコー	2件
血管エコー（頸部・下肢・腎血管含む）	1,082件
マスター負荷心電図	104件
エルゴメーター負荷心電図	3件
ホルター心電図	197件
ABI	890件
冠動脈CT	92件
大血管CT	80件
心臓MRI	20件
心筋シンチ	71件
ペースメーカー新規	10件
ペースメーカー交換	7件

外来 4,640人（初診1,325人 再診3,315人）

入院 185人

心不全入院患者数	68人
急性心筋梗塞入院患者数（亜急性期含む）	5人
急性大動脈解離入院患者数	4人

## 総括

日常のルーチン業務は多忙ですが、新しい検査機器も活用しての診療で、患者さんへのメリットもあったと考えます。

ペースメーカー症例が増多しており、新病院移転の影響も考えられました。

## 次年度の目標

- ・ 診療の質を落とさず、業務効率化
- ・ 周囲の医療機関との連携強化



# 呼吸器内科

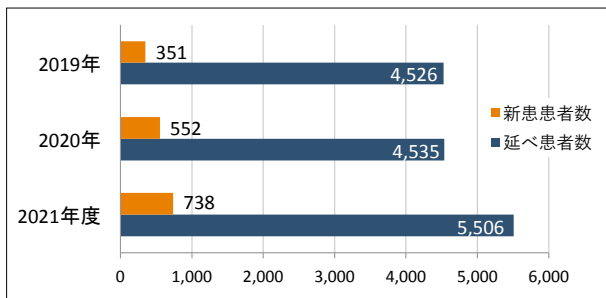
診療部長・呼吸器内科部長／岩川 純  
科長／入來豊久 医長／亀之原佑介  
医師／里蘭弥々

## 2021年度トピックス

2021年は通常の呼吸器診療に加えてCOVID-19診療にも従事している。岩川が感染管理として当院インфекションコントロールドクター（ICD）のため、COVID-19重点医療機関として入院患者の統括として対応している。

## 2021年度診療実績

外来患者数（2019年、2020年は1-12月）



疾患別入院患者数（2019年、2020年は1-12月）

疾患名	2021年度	2020年	2019年
肺癌	338	262	295
肺炎	54	70	65
びまん性肺疾患	54	47	34
気管支喘息	6	7	19
慢性閉塞性肺疾患	17	9	11
肺結核	6	17	2
その他	230	177	186
合計	705	599	612

気管支鏡数（2019年、2020年は1-12月）

気管支鏡数(呼吸器外科・内科合算)

2021年度	2020年	2019年
154	123	173

外来新規患者数、延べ患者数ともに増多傾向で入院患者数も増多した。

気管支鏡数は2020年が移転のため減少していたが2021年は改善している。

## 総括

2021年度はコロナ診療に多くの時間がとられた。コロナ禍の特殊事情ではある。その中で新規外来患者数が増多し、入院患者数も増多した。それに伴い延べ患者数も増多傾向にあるが地域の医療機関とも連携して病状が安定した患者さんは地域に戻せるように努力していきたい。

肺癌患者さんの入院が増多している。化学療法に加え、免疫チェックポイント阻害剤や放射線照射、呼吸器外科との連携など集学的な治療を行っていることから、長期生存が増多している可能性がある。2017年に岩川が着任して5年が経過しており、肺癌を含めて予後調査を本年度は行いたい。

鹿児島大学病院呼吸器内科の関連病院として大学の研究、教育にも積極的に参加している。

また、鹿児島大学病院呼吸器内科からの増員を依頼していく。

## 次年度の目標

プロとして自覚とサービスを提供し、患者さんや周囲の医療者から選ばれる呼吸器内科を目指す。

<方策>

1. 外来では積極的に逆紹介を行い地域にお返しする。
2. 入院日数短縮とパスの推進。外来化学療法の推進。
3. 肺癌予後調査

# 脳神経内科

部長／吉村道由  
科長／甲斐太 医長／武井藍  
医師／谷口雄大  
非常勤医師／有村由美子、荒田仁

## 2021年度トピックス

今回から年度単位への変更でもあり、2021年1月からの報告も併せて行います。

病院の移転に伴い新規メンバーに2021年1月より谷口雄大先生を迎えております。

外来においては、1月より水曜日に筋電図外来を新設。院内に限らず、神経生理学的診断を要する神経疾患・筋疾患の新規紹介を受け入れています。また土曜日外来の開始に際して、12月より専門外来としてボツリヌス療法外来を新設しました。

2021年度は恒吉祐成、坂本望、蓮井春彦、迫貴文、橋元彩 先生の5名の研修医が脳神経内科で研修。

### 【施設認定】

- ・ 日本神経学会教育施設
- ・ 日本臨床神経生理学会教育施設  
脳波分野、筋電図・神経伝導分野
- ・ 一次脳卒中センター

## 2021年度 診療実績

### 外来

初診 548人、再診 4,101人  
院内コンサルト（入院・外来）524件  
TOP3：整形外科、総合診療科、救急科

### 入院

新規入院 332人（うち 転科入院 54人）  
内訳上位 脳血管障害、変性疾患（パーキンソン病関連など）、てんかん

### 検査 生理検査

脳波 321件  
神経伝導検査 261件、針筋電図 55件、  
VEP 視覚誘発電位 17件、MEP 磁気刺激 5件、  
Blink 28件、ABR 25件、反復刺激試験 7件、  
SEP 体性感覚誘発電位 10件（神内）・268件（整外）

### 治療実績

tPA 4件（脳外科込み）  
血液浄化療法 5件  
IVIg 外来（monthly）2人、入院15人  
ボツリヌス療法 38件

## 総括

COVID-19の影響も大きくうけた年でもあった。主病棟である8S病棟の一部がCOVID病棟となった影響で、他病棟への患者入院、リハビリスペースの減少という影響があった。病院全体としても、病床数の削減のなか、COVID-19の影響（クラスターも含め）での外来受診数の減少、入院患者数の減少が顕著な月も見られた。2020年1月移転後の脳神経内科スタッフの減少もあったが、年間の入院数は維持できていた。入院患者の内訳の上位は変わらなかったが、印象としては、脳血管障害の減少、てんかん発作患者の増加がみられる。筋電図外来については、徐々に増加傾向にはあるが、今後、より専門性のアピールをしていきたい。ボツリヌス療法外来は開始直後ではあるが、新規薬についても導入、新規患者の開拓も行っていきたい。

## 次年度の目標

- ・ 各学会施設基準の維持
- ・ 前方連携・後方連携の維持
- ・ tPA投与症例の維持、血管内治療への連携
- ・ 平均在院日数の短縮（Ⅲ期の減少）
- ・ 専門外来の患者増加  
（ボツリヌス療法、神経疾患・整形外科疾患の電気生理診断（院外））
- ・ 血液浄化療法、IVIgなどの増加

# 外科・消化器外科・乳腺外科

診療部長・外科部長／小倉芳人  
科長／野田昌宏  
医長／黒島直樹、和田真澄  
非常勤医師／江口裕可、野元優貴、林直樹

## 2021年度トピックス

大学病院より3人の新しいスタッフに来ていただき、大学病院と連携した外科の手術運営を目指した。その中では鏡視下手術の適応拡大に努めた。その結果、結腸・直腸やヘルニアを中心に鏡視下手術の増加し、件数として88件（68%）の増加を認めた。9月にはコロナ感染による病棟閉鎖の影響で手術件数も減少したが、緊急手術や高齢者手術にも積極的に取り組み、紹介病院との連携強化にも努めた。その結果、最終的には昨年度と比較して手術件数を増加することができた。学術的にはコロナ禍で多くはWebにて開催される状況であったが、日本肝胆膵外科学会や日本腹部救急医学会といった全国学会において発表参加を行うことができた。診療においてはチーム医療による医療安全や医療の質の向上を目指し、毎日の回診・カンファレンス等を施行しチーム間の情報共有に努めた。

## 2021年度 診療実績

外来患者数	3,033人	前年度比 -15.5%
入院患者数	581人	前年度比 +11.2%
全手術件数	320例	前年度比 +8.1%
全麻手術件数	292例	前年度比 +17.3%
（鏡視下手術件数 217例・前年度比 +68.2%）		
（悪性手術件数 89例・前年度比 -4.3%）		
（）内は鏡視下手術件数		
頭頸部	2例	（1例）
食道	2例	（2例）
胃・十二指腸	29例	（18例）
小腸	22例	（10例）
結腸・直腸	57例	（49例）
虫垂	29例	（29例）
肝胆膵脾	74例	（65例）
ヘルニア	70例	（42例）
腰麻手術件数	4例	
局麻手術件数	24例	
化学療法件数	310件	（前年度比 +8.8%）

## 総括

新病院に移転して1年を通して初めての結果となる。新病院の効果と考えられるが、入院患者数は増加し、手術件数・全麻手術件数も増やすことができた。手術内容としては鏡視下手術の割合を増やすことができたが、悪性疾患の手術件数は前年度比-4.3%とやや減少した。化学療法に関しては昨年度の低下を少し挽回し増加することができた。今年度は約1週間、コロナ感染症による病棟閉鎖という厳しい現実も経験した。今後はコロナ感染症の対策をしつつ、悪性疾患の獲得を含めて今年度の結果を上回っていくことが必要と考える。

## 次年度の目標

まずは手術件数を増やすことを第一の目標と考える。具体的な数字としては、全手術件数340例、全麻手術件数320例、鏡視下手術件数240例を目標と掲げる。また、緊急手術での鏡視下手術の適応拡大を進めていく。今年度減少した悪性疾患の症例を増やすことは必要で、消化器内科と連携して症例獲得を進めていくとともに連携病院の強化に努めていく。その他に、学術的には全国学会を含めた学会発表や論文発表を行うことと、研修医にも発表するように指導していく。

# 呼吸器外科

副院長／米田 敏  
副理事長／今給黎尚幸  
部長／徳石恵太

## 2021年度トピックス

- ・ ダヴィンチによるロボット支援下手術を導入。
- ・ 単孔式胸腔鏡下手術でより低侵襲な手術を開始。
- ・ せん妄ワーキングの立ち上げなど。

## 総括

本年4月より診療体制の大きな変更を行った。すなわち、水・金午前の外来日を水・木の午後外来としたことにより、外来患者さんの混雑、待ち時間の緩和に寄与、また手術日を月・火・木から月・火・金に変更し、木曜日手術を分散することにより他科との集中緩和、強いてはスタッフの時間外勤務減少などに寄与できたのではないかと考える。

手術に関しては、ダヴィンチによるロボット支援下手術を導入し、2021年6月18日、当院初のRATS右上葉切除施行。またより低侵襲な単孔式胸腔鏡下手術を開始した。単孔式手術は術者とScopistの2人で行うことができ、人件費の削減、強いては手の空いたもう一人で緊急外来や急な紹介にも対応が可能となった。

## 2021年度 診療実績

外来、入院患者数

	2019年度	2020年度	2021年度
外来	2,100	1,918	1,981
入院	415	404	386

手術件数

	2019年度	2020年度	2021年度
原発性肺癌	71	78	84
転移性肺腫瘍	14	10	6
縦隔腫瘍	15	14	6
胸膜中皮腫	3	1	1
胸壁腫瘍	8	6	6
気胸・血気胸	21	33	40
多汗症	1	0	0
膿胸	5	1	4
良性肺腫瘍	15	13	4
その他	24	25	41
Total	177	181	192

## 次年度の目標

患者確保のための広報活動をより活発に行い、外来、入院、手術件数の増加に努める。また活発な学会発表、論文執筆なども必要と考える。

# 血管外科

部長／牛島 孝  
科長／平林葉子

## 2021年度実績・総括

血管外科開設当初より下肢静脈瘤レーザー治療と閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療を主に入院診療を行ってきた。4月に平林葉子科長の入職にて下肢静脈瘤レーザー手術を主に担当し、今年度は26例を行った。患者希望で日帰りか1泊入院かを選択している。翌日診察検査の再診来院の手間があるが、最近の日帰り手術が多くなっている。講演会広報の効果で当院での手術認知は広がっており、離島からの紹介も増えている。しかし、新型コロナウイルスの影響と思われる症例数の伸びはまだまだの感がある。

閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療は放射線科、循環器内科と3科で行っているが、今年度は65例を行った。鹿児島大学心臓血管外科より研修を受け入れ、腸骨病変に対する血管内治療の実績でステントグラフト認定のための症例経験数を終了できた。牛島の過去経験より当院より高次病院からの紹介はありがたいと考えるが石灰化病変が多く治療には難渋している。壊疽を伴うなど重症下肢虚血の下肢切断症例がまだあり、治療限界を感じる一方、予防啓蒙が必要である。当院でも透析患者の受け入れが可能であることの認知から透析症例が増えつつある。一方で透析シャントトラブルに対応し、血栓除去、シャント形成術を行った。その他、廃用性浮腫などの圧迫療法、外来院内での深部静脈血栓の治療や予防、急性動脈閉塞症での血栓除去術を行った。

## 次年度の目標

- 下肢静脈瘤手術と閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療を週1例ずつ。
- 透析シャント造成術や透析シャントに対する血管内治療を始める。
- キラメキテラスヘルスケアホスピタルとの連携、紹介を進める。
- 日本脈管学会認定施設 新規申請。
- 院内の深部静脈血栓症、肺塞栓症予防管理のマニュアル作成と施行。
- キラメキテラス内開業医を含めた一般公開講演会の計画、開催。
- 下肢静脈瘤シアノアクリレート血管内塞栓術の開始。
- 下肢創傷処置管理料の施設基準獲得。

# 整形外科

診療部長／宮口文宏  
部長／梶泰隆、部長待遇／川畑直也  
医長／坂元裕一郎、齋藤嘉信  
医師／小倉拓真、小山真平、葛島大知

## 2021年度トピックス

整形外科の令和3年度の活動状況を報告します。  
令和3年1月に新病院となり、ナビゲーションシステムを購入しました。まず、脊椎手術に応用しました。

1番のアドバンテージは術中被曝しなくなったことです。脊椎の棘突起にアンテナを設置し、術中CTを撮影すればほとんど被曝することはありません。透視と比較してスクリーンの挿入位置が3次元で確認可能となり、手術手技の大幅な軽減となっています。他に外傷にも応用し、特に骨盤骨折に大変有用なシステムとなっております。

人工関節に関しては関節鏡から膝・股関節、変形関節・先天性疾患の関節、人工関節術後の再置換術とあらゆる関節分野に取り組んでいます。

上肢の関節、特に手関節以下の疾患・外傷に関して腱縫合、靭帯再建、手指切断後の再接着等、形成外科とコラボして加療しています。

当院は日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設、日本脊椎脊髄外科認定施設、手外科学会認定施設となっております。

## 2021年度 診療実績

外来患者数：8,391人  
(初診：1,213人、再診：7,178人)  
入院患者数：1,316人  
全手術件数：1,103例  
    脊椎：389例  
    (頸椎：56例、胸椎：80例、腰椎：253例)  
人工関節置換術：75例  
    (人工股関節置換術：44例、  
    人工膝関節置換術：31例)  
骨折：446例  
その他：193例

## 総括

新病院へ移転後4か月目からその後1年ですが、コロナ感染による当院への影響は多大でした。後半6か月は徐々に回復してきました。特に当院のナビゲーションシステムの稼働率は西日本でトップであり、さらにナビゲーション使用下の脊椎のスクリーンの使用総本数も西日本でトップでした。他科のダビンチも含めて高度先進医療を進めています。

## 次年度の目標

このナビゲーションシステムをあらゆる分野に応用することです。まず骨折特に骨盤骨折らに応用し、さらに人工関節置換術にも応用する予定です。さらナビゲーションシステムを進化させたロボット化・AIらのソフト開発にも携わっています。

# 形成外科

科長／外 菌寿典

医師／濱田泰志、香月健亮、福田貴巳佳

## 2021年度トピックス

昭和大学人事により、2人の医員を迎えることができた。マイクロサージャリー手術に練度があるスタッフが集まり、切断指などの緊急性のある手術に積極的に対応できるようになった。コロナの影響があり、手術件数の大幅な増加は難しかったが、他科との合同手術も増え、泌尿器科との尿管管遺残手術、整形外科との皮弁形成、また特に頭頸部・耳鼻咽喉科との再建手術の件数は順調に伸びている。形成外科として特徴的な手術として、リンパ浮腫に対するリンパ管細静脈吻合術を本格的に開始した。鹿児島県では今まで保存的療法のみでの治療しかできなかった疾患であったが、他院や情報誌にアナウンスメントすることにより、大病院等から紹介がくるようになった。

## 2021年度 診療実績

外来患者数 5,896 人  
入院患者数 399 人  
手術件数 873 件

	入院			外来		計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	75	13	15		5	108
先天異常	27		2		3	32
腫瘍	93	3	29	3	163	291
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	35	3	6		9	53
難治性潰瘍	49	9	49		1	108
炎症・変性疾患	13	7	6	1	7	34
美容（手術）			1		1	2
その他	2	1	22		23	48
Extra レーザー治療	2				195	197

## 総括

コロナのため手術件数は予定通りとはならなかったが、比較的難易度の高い再建手術や顔面骨等無難にこなすことができた。他院や地域住民に対して、当院ではリンパ浮腫の外科的治療を行っていることを示せ、順調に症例を増やすことができた。

## 次年度の目標

形成外科を有する病院は県下では限られていることから、

- ・ 不得意分野がないように、形成外科のゼネラリストとして多分野の手術件数を増やす。
- ・ リンパ浮腫などの当院の特色が示せるような手術を増やす。
- ・ 頭頸部・耳鼻咽喉科・整形外科の合同手術による再建の手術を増やす。
- ・ 全ての医員がマイクロの手術ができるように、技術の向上を図る。

# 脳神経外科

部長／宮之原修  
科長／松邨宏之  
非常勤医師／寺田耕作

## 2021年度トピックス

- 1 新病院となり、ナビゲーションシステムを導入しての手術が可能となった。
- 2 超急性期脳梗塞に対しての機械的血栓回収術
- 3 脳ドック
- 4 脳腫瘍に対する最新リニアック機器での放射線治療

## 2021年度 診療実績

入院件数	241
手術件数	66
脳腫瘍	8
血管障害直達術	8
血管内治療	7
外傷	33
水頭症シャント術	4

## 総括

- ・ 周辺病院でのドクターヘリ・ドクターカーの導入もあり、脳神経外科症例の救急搬送は減っている。
- ・ COVID-19による入院制限も影響して、入院件数・手術件数ともに伸びなかった。
- ・ 救急隊や開業医とのさらなる連携強化・周知活動が必要と思われた。

## 次年度の目標

- ・ 入院、手術件数を増やす。
- ・ 救急隊との連携強化。
- ・ 連携病院からのスムーズな受け入れ体制の確立。
- ・ 他職種での病態の理解・情報共有等強化していく。
- ・ 脳ドックの広報活動を広げ、当院脳ドックの認知度を高める。
- ・ 放射線治療等でがん診療連携拠点病院としての役割に協力する。



# 産科・婦人科

部長／加藤明彦

科長／西村美帆子 医師／兒島信子、中間恵美子

非常勤医師／寺原賢人

他、鹿児島市立病院・鹿児島大学病院から夜間オンコールの人員派遣あり

## 2021年度トピックス

病院の移転に伴い、産科外来を4階レディース病棟横、婦人科外来を2階消化器内視鏡センター横に設け、診療科も産婦人科から産科・婦人科へ変更し受診される患者さまの目的に応じた診療ができるように致しました。

## 総括

2020年は移転に伴う診療制限で産科入院・分娩件数の減少がみられましたが、2021年度は2019年とほぼ同数まで回復してきました。癌治療の件数が減少傾向ですが、婦人科入院件数はほぼ横ばいであり良性疾患・緊急疾患への対応へシフトしてきている印象です。

## 2021年度 診療実績

産科外来件数	初診	91
	再診	941
	計	1,032
産科入院件数	外来患者	90
	母体搬送	66
	非緊急搬送	30
	計	186
分娩件数	経膈分娩	60
	帝王切開	77
	予定	24
	緊急	53
	計	137

## 次年度の目標

病院の標榜に周産期を掲げられており、まずは産科を拡充させていく方針です。インスタグラムにいまきいれ総合病院産科のアカウントを開設、外部向けパンフレットを作成するなど広報活動に取り組んでおり、さらなる患者獲得へ向けて邁進していく所存です。

婦人科急性疾患の相談も多く、可能な限り「断らない医療」を目指し救急医療への対応も継続していければと思います。

婦人科外来件数	初診	389
	再診	2,126
	計	2,515
婦人科入院件数	外来患者	169
	救急搬送	18
	計	187
手術件数	開腹手術	49
	腹腔鏡手術	43
	膈式手術	23
	計	114
癌治療	入院化学療法	40
	外来化学療法	9
	計	49

# 新生児内科

部長／丸山有子（報告）、徳久琢也（～2022.3）  
科長／佐藤恭子  
医長／緒方知佳

## 2021年度トピックス

毎日のNICU業務は、常勤医3名と鹿児島市立病院の医師で担当した。5月以降、常勤医によるGCU当直が必要となったが、小児科常勤医の協力を得て6名で担当することができた。

新病院になり、市立病院や大学病院からの転院も軌道に乗ってきた。当院はコロナウイルス（COVID-19）感染対策として、面会を停止している中、NICUの面会は母子の愛着形成や退院支援として必須であるため、2週間毎の抗原検査を条件に特別に許可していただいた。また、NICU内の隔離室ではCOVID-19感染疑い児を受け入れる準備を整えた。GCUのファミリールームでの宿泊を含む長時間面会は軌道に乗り始めた。

新病院のフォローアップ外来は機能強化し拡張され、フォローアップセンターとして県内外のNICUからも積極的に症例を受け入れられるようになった。非常勤の奈須康子医師と井之上寿美医師は、COVID-19感染対策の関係でほとんど来ていただけなかったため、発達障害のお子さんの就学方針決定などに若干の影響が出たことは残念である。

児童発達支援センターの開設準備に取り組み、日本財団の助成金獲得が大きな弾みとなり、2022年4月オープン予定となった。

## 2021年度 診療実績

NICU・GCU入院児数 203人

院内出生：78人 / 新生児搬送：125人

極低出生体重児数：40人

（うち超低出生体重児数：8人）

フォローアップ外来受診者数（※）：

健診数 1,349人、シナジス注射 378人

こどもリハビリテーション室利用者数（※）：856人

発達・知能検査実施数：267人

（※延べ人数）

## 総括

COVID-19感染対策に疲弊する年であったが、なんとか乗り越えた感がある。また、新病院になった効果が現れ始めた年であり、鹿児島県における当院NICUや新生児フォローアップ外来の新しい役割を再認識することになった。日々、広がった病棟で余裕をもって行われる家族支援や長時間の面会が、退院後の育児不安の軽減に役立つことを実感している。

児童発達支援センター開設準備の1年でもあったが、担当職員の研修をはじめ助成金獲得に関して、担当作業療法士と事務局の尽力に感謝している。

GCUを健全に運営するために当直体制強化が必要となったため常勤医の負担が増え、来年度に大きな課題を持ち越すことになった。

## 次年度の目標

### 1) 広報

- ・ 県内3NICUでの役割分担をより明確化し、確実に周知していただくことで、紹介患者数の安定化をはかる。
- ・ 当科や当センターの活動内容について広報誌などでアピールし、産科開業医院からの相談や紹介を増やす。

### 2) 医師増員

GCU当直対策に加えて、2年後に控えた働きかた改革対策として、またフォローアップ外来を予定通り2診体制で運営するためにも医師増員は喫緊の課題である。是非とも来年度中盤までには増員となるよう、関係各所に働きかけていく。

# 小児科

部長／島子敦史  
科長／今給黎亮  
医師／玉田泉、徳永美菜子  
顧問／堀之内兼一

## 2021年度トピックス

- 1 2021年9月から日本アレルギー学会 アレルギー専門医（小児科）の資格を持つ今給黎亮先生を迎え、小児アレルギー外来を本格的に設けることができました。より重症例を診るべき鹿児島大学病院・鹿児島市立病院が小児アレルギー外来を縮小の方針であり、当科がまずは鹿児島市のアレルギーをかかえる児・家族への受け皿とされた。
- 2 2021年12月からの「土曜外来」は、小児科は専門外来（内分泌、アレルギー、循環器）を開設しているが、一般疾患に関しては入院の紹介に対応できるよう「毎週」土曜当番が17時まで院内に待機している。小児科メーリングリストにも情報提供しており利用もされた。
- 3 6N病棟にプレイルームが設置され、小児入院医療管理料4算定の条件を満たせるため、6N病棟であれば小児科だけでなく他科でも15歳未満なら加算できるようになった。

## 2021年度 診療実績

DPC 疾患名	平均在院日数 (当科)	平均在院日数 (全国)
ウイルス性肺炎	6.2	5.5
急性気管支炎	6.2	5.9
喘息	6.0	6.3
ウイルス性腸炎	4.0	5.5
川崎病	8.5	10.7

## 総括

コロナ禍での小児の急性期疾患の減と当院の紹介型病院への転換の影響を受けた。

- 1 入院：急性期疾患の入院患者数が減少した（2017年比で入院55%の減）。一方、食物アレルギー負荷試験は9月からにかかわらず30件に達した。紹介率は91%であり、紹介型病院への転換の一助になった。
- 2 外来：急性期疾患の外来患者数が減少した（2017年比で外来42%の減）。慢性期疾患については、専門外来を設けこれまでを維持しており、内分泌負荷試験は20件、腎臓エコーは60件、心臓エコーは150件程度施行していた。鹿児島大学小児科循環器グループによる土曜のサテライト外来も継続され、90名程度の児童生徒が受診された。

## 次年度の目標

- 1 アレルギー疾患、特に食物アレルギーにおいて、食物経口負荷試験や食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断のための運動負荷試験のため、日帰りまたは1泊2日での検査入院の安定的実施。また、気管支喘息の呼吸機能検査を用いた診断・管理、アトピー性皮膚炎の外用指導や教育入院、アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法、難治性の慢性じんま疹への対応。
- 2 当院所属の保育士は、県内唯一の医療保育専門士・病児保育専門士の両方の資格を持っているのだが、コロナ禍で病児保育室・病室プレイルームがうまく稼働できていないところである。子育て世代の職員のバックアップ・離職防止のためにも重要であり、よりよく活動できるようにする。

# 泌尿器科

部長／立和田得志  
医長／黒島和樹 医師／富永充彦  
非常勤医師／西山賢龍、水間浩平

## 2021年度トピックス

手術療法では新病院開院時にダビンチXシステムが導入となり、2021年3月から前立腺癌に対しロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術を、6月より腎癌に対しロボット支援腹腔鏡下腎部分切除を、2022年3月より腎盂尿管移行部狭窄症に対しロボット支援腎盂形成術を開始した。薬物療法では、前立腺癌、尿路上皮癌、腎癌は新規薬剤によりガイドラインも大きく変化した。前立腺癌はBRCA遺伝子変異陽性例に対しオラパリブが、尿路上皮癌は3rdラインにあたるパドセブが、腎癌は多種の分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせる治療が保険適応となり、積極的に治療を開始した。

## 2021年度 診療実績

ロボット支援手術：

ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術	51例
ロボット支援腎部分切除術	13例
ロボット支援腎盂形成術	1例

腹腔鏡下手術：

腹腔鏡下前立腺全摘術	1例
腹腔鏡下膀胱全摘＋回腸導管造設術	9例
腹腔鏡下腎摘術	9例
腹腔鏡下腎部分切除術	4例
腹腔鏡下腎尿管全摘術	12例
腹腔鏡下腎盂形成術	2例
腹腔鏡下副腎摘出術	2例
腹腔鏡下仙骨腔固定術	12例

経尿道の手術：

経尿道的膀胱腫瘍切除術	83例
経尿道的前立腺核出術	19例
経尿道的前立腺切除術	1例
経尿道的尿管結石除去術	20例
経尿道的膀胱結石摘出術	9例

## 総括

2021年度は泌尿器科常勤医師が4人から3人に減員となった。外来診療は新病院で体制が大きく異なったこともあり、年度前半は円滑に機能していなかったが、外来スタッフの慣れ、努力と共に改善されつつある。入院診療は4科の混合病棟となったが、病棟スタッフとの連携は概ね良好で、パスが充実したこともあり平均在院日数の短縮につながった。手術については、何より安全なロボット手術導入が課題であったが、オペ室スタッフの協力もあり、安全かつスムーズな導入が可能であった。他医療機関との連携では、キラメキテラスホスピタル泌尿器科と毎週カンファレンスを行い、スムーズな転院調整が可能であった。

## 次年度の目標

- ・ 泌尿器救急疾患の積極的受け入れ
- ・ ロボット支援手術の新規術式の導入（膀胱全摘、腎摘、腎尿管全摘）
- ・ ロボット支援前立腺全摘術の手術症例確保
- ・ 泌尿器科関連病院との連携強化
- ・ カンファレンス、勉強会の充実

# 頭頸部・耳鼻咽喉科

部長／積山幸祐  
顧問／花牟禮豊  
医師／福田勝則、徳重豪士  
非常勤医師／昇卓夫、今村洋子、鎌田知子

## 2021年度トピックス

2021年3月に鎌田知子医師が退職されたが、4月に徳重豪士医師を鹿児島大学から迎え入れ、2021年度も常勤医4名（積山、徳重、花牟禮、福田）と非常勤医3名（昇、今村、鎌田）で耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療を行った。鎌田知子医師には引き続き月に2回程度の補聴器外来を担当していただいている。

2021年度は、前年度に比し手術数が増加した。特に咽頭、喉頭腫瘍や唾液腺、甲状腺腫瘍などの頭頸部手術が増加した。また、内視鏡下甲状腺腫瘍手術にも着手した。

甲状腺の内視鏡下切除術を保険診療で行うには、各診療科の経験年数が10年以上で、かつ当該技術の執刀医としての経験症例数が5例以上の常勤医が在籍などの厳しい施設認定条件がある。反回神経モニターのための電極付きの挿管チューブが入手できず、適応症例があっても内視鏡下手術ができない状態が続いたが、挿管チューブ不足が解消されつつあり、次年度中には経験症例数5例以上をクリアし、施設認定を取得できそうである。

## 2021年度 診療実績

手術症件数：1,010件（側）  
（耳：111、鼻：540、口腔：20、咽頭：219、  
喉頭：39、唾液腺：15、甲状腺：16、  
頸部：42、再建（形成外科）：2、その他：8）

外来患者数：4,020人  
初診患者数：852人  
入院患者数：574人  
紹介件数：707件

## 総括

頭頸部・耳鼻咽喉科で診療する領域は、平衡障害、聴覚障害、中耳疾患、顔面神経障害などの耳科領域、副鼻腔の炎症や腫瘍、アレルギー、顔面外傷などを担う鼻科領域、舌・口腔・咽頭疾患や睡眠時無呼吸を扱う咽頭領域、音声や嚥下に関する喉頭領域、そして頸部の良性・悪性腫瘍、甲状腺腫瘍や唾液腺腫瘍を扱う頭頸部腫瘍領域など、多岐に富んでいる。当科はそのほぼすべてをカバーできている。

手術は、顕微鏡や内視鏡などを用いた機能保存や機能再建手術が多く、生活のQOL向上に直結している。特に、鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍などの鼻科手術は特筆すべき手術数であった。

頭頸部手術も増加し、再建が必要な症例も形成外科との合同手術で行うことができた。消化器内科や歯科口腔外科との合同手術も行った。

## 次年度の目標

- ・ 内視鏡下甲状腺手術の施設認定取得
- ・ 2022年4月に保険収載された経外耳道的内視鏡下鼓室形成術の施設認定取得  
（施設基準：耳鼻科の常勤医師3名以上かつ鼓室形成術の年間実施件数 20例以上）
- ・ 鹿児島大学や鹿児島県耳鼻咽喉科医会会員との良好な関係の維持・拡大
- ・ 前年度以上の紹介患者の獲得
- ・ 院内他科との密な連携
- ・ 安全で適切な医療の提供

# 皮膚科

医長／有村亜希子  
非常勤医師／瀬戸山充

## 2021年度トピックス

皮膚科で入院対応が可能な施設は数が少なく、開業医院からの入院や大学病院からの転院受け入れを行った。

当科は常勤医師 1 名、非常勤医師 1 名と医師数が少ないが外来、入院、さらには他科入院中の皮膚科診療について積極的に行った。

また、化学療法などによる皮膚障害について院内はもちろん、皮膚科のない他院からの紹介も積極的に受け入れた。

## 2021年度 診療実績

外来延患者数	人数	前年比
初診	543	(-939)
再診	2,763	(-2,777)
入院延患者数	60	(-8)
他科入院中	417	(-21)
紹介患者数	160	(-56)

## 総括

外来患者数、入院患者数はコロナ禍、院内クラスター発生もあったこともあり減少した。

逆紹介も行いつつ、開業医と連携をとり新規の紹介患者も受け入れた。

特に当院では呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科など化学療法を行う科が多く、化学療法に伴う皮膚障害の診察をする機会が多かった。

今後も医師数は変わらず少ないが、他科からの依頼を積極的に迅速に診察できるように対応していく。

## 次年度の目標

医師数が少ないこと、形成外科があることから外科的処置は基本的には施行していないが、陰圧閉鎖療法を用いた下腿潰瘍の治療などを積極的に行っていく。

また、難治性蕁麻疹における生物学的製剤の使用や、アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤の使用などを積極的に施行していきたい。

化学療法による皮膚障害について治療だけでなく予防の段階から介入できるように皮膚科介入前の皮膚ケアの助言など他科と連携していく。

初期臨床研修医に関しても積極的に受け入れ、指導する。

# 麻醉科

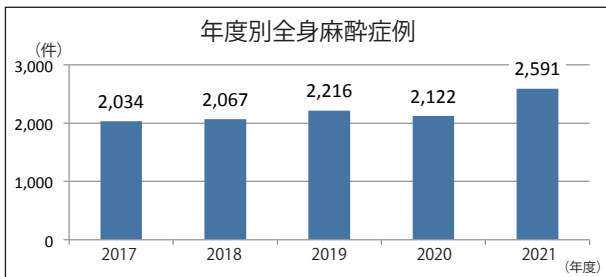
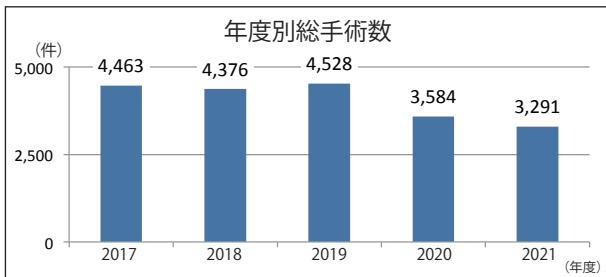
部長／山下順正  
 科長／西村絵実、今給黎南香、肥後友紀  
 医師／上川路智美、千堂良造（歯科医師）

## 2021年度トピックス

1年間の総手術症例数は3,291件で麻醉科管理症例数は2,788件、その内全麻症例数は2,591件であった。前年度まで含まれていた眼科症例数が除かれているので総手術数は減少したが、前年度に比べ麻醉科管理症例は464例、全麻症例は469例増加した。週平均53例の麻醉科管理症例数である。

この症例を麻醉科常勤医6人と救急科・緩和医療科の医師（全員が麻醉指導医・専門医）及び鹿児島大学医局からの代務医師と研修医で担当した。EF15%の全身麻酔やNPPV装着中の患者の脊椎麻酔など合併症のある患者の麻酔も術前の内科コンサルトを参考にして可能な限り引き受けた。人事では4月から肥後先生と千堂先生が新たに常勤医として加わり、尾野本先生は7月一杯で退職された。

## 2021年度 診療実績

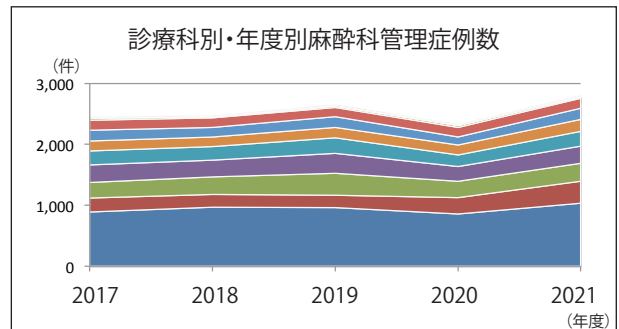


## 次年度の目標

- ・ 麻醉科管理症例数を週間60例、年間3,000例にする。
- ・ 夜間・休日の緊急手術に対応するためにオンコール体制の充実
- ・ 麻醉科での症例検討会の実現と他科との合同カンファレンスへの参加

## 総括

手術室全8室にFLOW-iの麻酔器とミレルの自動麻酔記録装置が設置され、麻酔医室と中央の詰め所にセントラルモニターで繋がっている。かってない恵まれた環境の中で麻酔医のモチベーションも高まり、患者の麻酔管理にも楽だっている。周産期母子医療センターの認定のもと緊急帝王切開30分ルールは必ずしも守れたとは言えなかったが、特に問題となった症例はなく、また全科通じて麻酔に関する大きなトラブルはなかった。9月には新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に関連して病院全体の業務停止の時期もあり、手術室も例外ではなかったが、前年度よりも麻醉科管理症例数及び全麻症例数は増加した。緊急手術にも可能な限り対応する姿勢をとったが、それでもマンパワーの関係で断らざるを得ないこともあったのは今後の課題である。



診療科	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
整形外科	893	971	962	855	1,036
耳鼻咽喉科	226	204	202	271	356
外科	255	292	359	266	295
泌尿器科	288	274	328	242	283
形成外科	227	219	256	192	242
産婦人科	167	162	172	160	195
呼吸器外科	172	157	173	135	184
歯科口腔外科	169	157	154	156	162
脳神経外科	34	14	25	32	23
消化器内科	1	0	0	3	8
血管外科	-	-	-	0	3
救急科	0	0	0	0	1

# 放射線診断科

部長／銚立博文  
医長／藤崎陽介  
医師／中之蘭良太、榮鶴ゆかり  
非常勤医師／大久保幸一、神崎史子、中野翼

## 2021年度トピックス

令和3年1月より高麗町の交通局跡地への新築移転で画像診断機器はCT・MRIが更新となりCTが320列：1機・62列：2機、MRIが3T：1機・1.5T：1機の布陣となった。RI・AG装置はそのまま分解移設でIVR-CTおよびPET導入は見送られたが、乳房X線装置がフィルム診断から高精細モニター診断機器へ更新となり高画質での画像診断が可能となった。CT・MRI装置の更新により、更なる精度の高い画像診断体制を構築しつつ、今まで同様救急患者に対する緊急CTなどの読影も夜間休日 on call 対応している。更に検診業務においては関係各科と協力のもと、肺癌低線量CTや乳癌のマンモグラフィー検診のダブルチェック読影を行っている。画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行うIVR(Interventional radiology:画像下治療)も従来の原発性肝癌に対する肝動脈(化学)塞栓療法TA(C)Eや膀胱癌などへの動注化学療法、CT/USガイド生検・ドレナージなどに加え、血管外科と協力して閉塞性動脈硬化症・形成外科と協力して血管奇形の血管内治療なども施行している。

## 2021年度 診療実績

主な画像検査件数 (2020年度)

CT	: 16,735件 (15,795件)
MRI	: 5,429件 (5,359件)
核医学	: 231件 (343件)
IVR	: 109件 (106件)

## 総括

画像検査件数は新築移転の混乱もあったが、CT/MRIは概ね現状維持であった。核医学検査はがん診療連携拠点病院でありながらがん診療の主力検査であるPET導入の見送りもあり更に減少傾向である。自助努力として院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めている。レポートシステムも version up され、risk management の一環として昨今問題となっている画像報告書未確認に対する依頼科主治医の読影報告書確認アラート機能も稼働開始した。

## 次年度の目標

昨年度は新築移転のため医療圏の変更を余儀なくされ、地理的問題もあり従来の鹿児島北地区からの画像検査依頼減少が必然であった。対策としてクラウド型画像検査予約システムを2021年度末より導入し、予約の簡素化～患者待ち時間の短縮などが期待される。近隣の施設にも積極的にシステム紹介しながら紹介件数の増加に向けて努力していく予定である。近年撮影時間は短縮傾向であるにもかかわらず多断面再構成画像や3次元画像なども加わり診断画像枚数が飛躍的に増加している現状であるが、迅速な読影報告書の作成に向け努力していく所存である。加えて夜間休日に撮影された画像に対する緊急遠隔読影システムの構築も進める予定である。次年度は放射線診断専門医が減員の予定であり人員的に厳しくなるが、初期臨床研修医のローテート希望者も多く引き続き関係各科との協力体制を強化しながら放射線診断学・IVRの魅力を発信していきたい。



# 放射線治療科

部長／中禮久彦

## 2021年度トピックス

昨年1月に高麗町で「いまきいれ総合病院」として新病院移転が実現しました。旧病院で15年近く稼働し、近年他院に比べて遅れをとっていた当院リニアックのハードウェアがエレクタ「インフィニティ」の新規導入で時流に合わせて一気にアップデートされました。

これまでと比較してSRT(Stereotactic Radiotherapy; 定位放射線治療)がIGRT(Image-Guide Radiotherapy; 画像誘導放射線治療)適用によってより正確にかつ多くのがん患者さんに施行可能となりました。DCAT(Dynamic Conformal Arc Therapy; 動態原体回転照射)の応用で癌組織により理想的な線量分布も与えられるようになりました。

早いもので移転してから1年半が経過しようとしております。その期間中でコロナ禍の影響は当院においても例外ではなく、昨年秋には放射線治療業務を含む病院全体の一時診療停止を余儀なくされました。幸い放射線治療継続中患者の感染は認めなかったものの照射休止期間と代償のための照射回数増加により患者さんの負担は増大することとなりました。

## 2021年度 診療実績

主な原発巣別 リニアック照射新患数

(全: 210人) 内訳

呼吸器(肺・気管・縦隔)	74人(内 肺: 73人)
消化管(食道・胃・腸)	27人(内 食道: 12人)
泌尿器(腎・尿路・前立腺)	24人(内 前立腺: 17人)
肝胆膵	19人
頭頸部(咽喉頭・口腔)	18人
乳腺	16人
良性(ケロイド)	16人

主な転移 リニアック照射新患及び再患数 内訳

骨	44件
脳	26件

定位集光照射新患数 内訳

脳: 16名	体幹部: 36人(内 肺: 23人)
--------	--------------------

## 総括

令和2(2020)年度は病院移転の関係で新患照射患者数が年間200名弱まで減少しており、鹿児島がん診療連携拠点病院の許認可継続の懸念となっておりました。おかげさまで昨年度は関係皆様方のご協力が実りまして200名を数えました。

当院は旧院 コバルト60の時代からの実績では35年を超え、放射線治療専門医1名に加えて放射線治療認定技師3名及び放射線治療認定看護師1名を含む日本放射線腫瘍学会認定施設です。

日常診療において特殊診療科である放射線科をがん患者さんが直接受診することは稀で、放射線治療患者数及び内容は横断的及び集学的治療にご理解のある内科系及び外科系先生方から放射線科へのご紹介をいただくことで成立しております。

日頃より当科へのご紹介にご尽力をいただいております先生方にはこの場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

## 次年度の目標

引き続き上記がん診療連携拠点病院許認可継続のために毎年年間200名以上を確保、及び学会認定施設として社会的に認知されるべく日常診療に加えて学会発表にも勤めたいと存じます。

放射線治療において問題とされる正常組織の急性及び晩発性有害反応をさらに低減すべく、今後はVMAT(Volumetric Modulated Arc Therapy; 容積変調回転照射)によるIMRT(Intensity Modulated Radiation Therapy; 強度変調放射線治療)に準じた照射施行の方向で取り組んでまいります。

微力ながら鹿児島のがん患者さんのお役に立てるべく、時代の潮流に合わせながらも初心を忘れず謙虚に日々精進していきたいと考えております。



# 歯科・歯科口腔外科

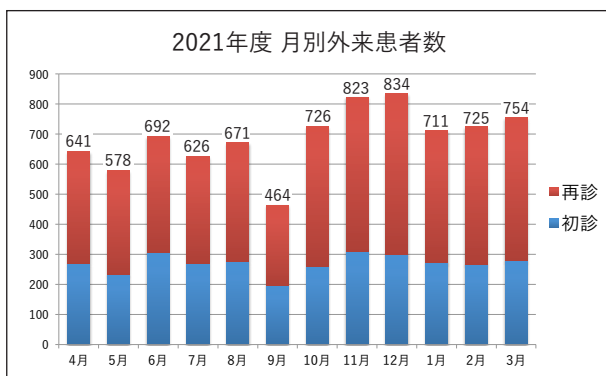
医長／古賀喬充  
歯科医師／杉原考輝、千堂良造、原昌士  
非常勤歯科医師／吉田雅司

## 2021年度トピックス

2021年度は歯科口腔外科専門外来として、顎変形症センターと口腔顔面痛センターを立ち上げ、講演等を通じてPR活動を行ってきた。また全身麻酔手術や化学放射線療法を行う患者の周術期口腔機能管理では、言語聴覚士や看護師との連携を深め口腔ケアの質の向上に努めた。

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラムの研修協力施設として、歯科研修医教育にも携わり、計36名の歯科医師臨床研修医を受け入れた。

## 2021年度 診療実績



入院患者数 217人

病名	症例数
歯 (Pre, Preico, 埋伏歯など)	122
顎変形症	60
炎症 (膿瘍、蜂窩織炎、顎骨炎など)	13
良性腫瘍および腫瘍類似疾患	11
嚢胞性疾患	3
外傷 (骨折、歯の外傷など)	2
悪性腫瘍	1
骨関節疾患	1
唾液腺疾患	1
その他	3
総計	217

## 総括

今年度は初診患者数3,239名、再診患者数5,006名とコロナ禍前と同等以上の診療稼働を維持できしており、特に初診患者数の割合が高い傾向であった。これは急性期治療を終えた患者様をスムーズに地域の医療機関に引き継ぐ体制が整ってきたためと考えられた。

顎変形症治療患者数は今年度も増加し、鹿児島県内では随一の手術件数を実施した。口腔顔面痛治療はセンター立ち上げにより地域医療機関からの紹介患者数が増加し、当科の新たな診療分野として認知されつつある。

周術期口腔機能管理では、全診療科から紹介患者数が増加しマンパワー不足が否めなかったが、多職種で連携を行うことで口腔ケアの実施をそれぞれに自立して行える体制づくりを推進した。令和4年度には歯科医師1名を増員し、さらなる充実を図る予定である。

## 次年度の目標

- ・ 地域医療機関とのシームレスな医療連携
- ・ 顎変形症治療、口腔顔面痛治療に関する広報活動と認知度の向上
- ・ 周術期の口腔関連インシデント・アクシデント0
- ・ 摂食嚥下チームへの参画
- ・ 働き方改革の推進

# 病理診断科・病理課

部長／白濱浩

非常勤医／田代幸恵、東美智代、野口紘嗣、北菌育美、谷本昭英、瀬戸山充、北島信一

検査技師／肥後真、森永尚子、有村郷司、瀬川千春、谷口千奈

免疫染色／西村ゆかり(クラーク兼務)

## 2021年度トピックス

2021年1月より新病院の4階に移転しました。引っ越しに伴う作業は多く、また機器の新規導入や更新など大変でしたが、スタッフの努力のおかげで大過なく1年が経過しました。

以前より懸案であった自動染色封入装置はLeica Spectraを新規に導入、作業の効率化に寄与しています。また自動免疫染色装置の更新にてダコOmnisを新たに導入、特に2重染色は明瞭な染色結果を得られるようになりPD-L1免疫染色も院内で行えるようになりました。

新病院では3階手術室に接して術中迅速診断室を設け、術者や手術室スタッフとのコミュニケーションがとりやすくなりました。病理解剖室など、全体的に部屋は狭くなった印象ですが、切り出し室隣に解剖室があるため効率よい運用が可能となりました。

## 2021年度 診療実績

組織診断	2,884
術中迅速組織診断	156
細胞診	2,042
術中迅速細胞診断	86
免疫染色(院内)	522
遺伝子等特殊検査	211 (内院内実施:33)
病理解剖	2
C P C	1
院外組織診断受託	452
院外免疫染色受託	2,455
院外遺伝子検査受託	7

## 総括

本年度は新病院での確実な業務遂行に努めた1年でした。

当院では以前から肺癌におけるEGFR遺伝子検査(CobasV2)や軟部腫瘍のSYT-SSX融合遺伝子検査(i-densy)を行って来ましたが、NGSの臨床応用やその他の新しい検査や有用な抗体の出現に伴い今後の検査体制の再考が必要となっています。

2021年10月で技師長の肥後が定年退職となりました。長年のご貢献に感謝するとともに、今後も非常勤スタッフとしてご指導いただけることとなり安心しております。今後は森永を中心として病院業務の基盤となる病理業務を行っていく所存です。

## 次年度の目標

働き方改革・タスクシフトが言われていますが、すでに当院病理部門では通常主治医が行っている検体処理の大半を病理部門で行っています。また病理標本にて行う遺伝子検査外注に関しては依頼から報告まですべて病理部門で管理しており医師業務の軽減に寄与しています。そのために病理スタッフにかかっている負荷の軽減、時間外労働の減少、教育研究への積極的な参加を目指します。またISO15189に準拠した見直しを行い、より確実に正確な業務の遂行を目指します。特に日々の評価・改善を迅速に行い記録し標準化に努めます。また技術・知識レベルの向上に組織的に取り組みます。



	陰性	擬陽性			陽性					材料不適	合計	組織との対比
		ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC	SCC	Adeno	Other			
内 膜	95	1			2					0	98	13
膣 頸 部	NILM 617	19	4	11	8	3	1	0	3	1	667	49
呼 吸 器	189	22			103					9	323	241
消 化 器	53	26			10					3	92	58
尿	515	72			40					0	627	69
乳 腺	3	1			6					3	13	4
甲 状 腺	24	6			1					13	44	14
体 腔 液	205	11			35					0	251	153
リンパ節	11	0			13					2	26	14
その他	67	10			5					6	88	20
合 計	1,779	183			230					37	2,229	635

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	悪性	全件	悪性	全件	悪性	
心・血管	0	0	0	0	1	0	1
血液・骨髄・脾	29	11	0	0	1	0	30
リンパ節	28	22	0	0	212	62	240
鼻・副鼻・咽喉頭	122	19	2	1	187	17	311
肺	115	54	0	0	134	96	249
胸膜・縦隔・腹膜	11	5	0	0	34	9	45
口腔・唾液腺	29	8	0	0	66	8	95
食道	69	21	21	19	5	3	95
胃・十二指腸	268	47	39	19	26	15	333
小腸	15	2	0	0	27	3	42
大腸・肛門	188	58	542	40	98	39	828
肝・胆・膵	32	15	0	0	83	6	115
腎・尿路・男性器	99	64	119	83	216	112	434
女性器	44	8	7	0	215	18	266
乳線	16	12	0	0	6	4	22
内分泌	0	0	0	0	22	8	22
中枢末梢神経	1	0	0	0	7	5	8
耳・眼	7	1	0	0	9	0	16
皮膚	160	25	0	0	366	27	526
骨・関節	8	2	0	0	28	7	36
軟部	5	2	0	0	99	5	104
その他	26	12	0	0	62	10	88
合計	1,272	388	730	162	1,904	445	3,906

# 緩和医療科

部長／大瀬克広（身体担当）、 医師／原口哲子（身体担当）  
部長／小玉哲史（精神担当）

## 2021年度トピックス

### 1. 身体担当

新病院への移転に伴い、地域医療機関への緩和ケア紹介などを行うために Web 講演会を行った。新型コロナの流行により直接医療機関へ出向いての活動はできなかった。その一方で、地域住民への広報活動の一環として公民館での緩和ケア出前講座を 1 回だけ行った。さらに鹿児島県教育委員会へ働きかけ、学校教育で行われる「がん教育」の外部講師を実施した。

### 2. 精神担当

せん妄対策ワーキンググループの委員長を務め、せん妄ハイリスクケア加算を算定できる体制を構築し、せん妄対策マニュアルの作成を行った。

## 2021年度 診療実績

### 緩和ケアチーム依頼件数

	がん	がん以外	小計
入院	263	17	280
外来	40	0	40
合計	303	17	320

紹介元	院内	院外	小計
入院	267	13	280
外来	38	2	40
合計	304	15	319

### 月別依頼件数

がん	がん以外
入院	263
外来	40

がん以外	
入院	17
外来	依頼なし

### 介入時期

	1:診断から 初期治療前	2:がん治療 中	3:積極的がん 治療終了後	合計
入院	25	183	55	263
外来	3	18	19	40

### 依頼内容（重複あり）

	がん(入院)	がん(外来)
1) がん疼痛	100	17
2) 疼痛以外の身体症状	71	12
3) 精神症状	164	7
4) 家族ケア	10	2
5) 倫理的問題	1	0
6) 地域連携・退院支援	41	10
7) その他	1	0
合計	388	48

## 総括

新病院移転に伴うベッド数の減少や新型コロナ流行に伴う診療制限等が患者数減少に影響したことは否めない。その中でも直接的な患者数増加にはつながらないが、がん教育への講師派遣など、がん診療連携拠点病院の地域医療貢献の役割を今後も果たす必要がある。

一方、リエゾンの症例数自体は横ばいであるが、病院移転で総ベッド数が減少したことを加味すると増加傾向にあるとも言える。

## 次年度の目標

- 1 地域医療機関への緩和ケア広報活動
- 2 緩和ケア研修会の開催継続：2021年度より受講者数の増加を目指す。
- 3 教育機関での「がん教育」への積極的関与：院内に5名の講師がおり、実地あるいはWebでの講演を目指す。





## 部門報告

診療支援部

- 薬剤課
- 中央臨床検査課
- 臨床工学課
- 中央放射線課
- リハビリテーション課
- 栄養管理課

看護部

事務部

患者支援部

医療安全管理部

- 医療安全管理課
- 褥瘡管理課
- 感染管理課

## 2021年度トピックス

薬剤管理指導担当者を9月より8名に増員し、薬剤管理指導実施率（＝薬剤管理指導患者数／退院患者数）は9月以降60%以上であった。病棟薬剤業務実施加算算定に向けて、2022年1月より病棟薬剤業務日誌への記録を開始している。

業務の見直しについて執行部・医局会に提案し、以下2点の業務改善を行った。

- (1) がん化学療法施行患者のHBVスクリーニング実施状況を2014年より薬剤課で確認している。2022年3月より医師に疑義照会をしなくとも薬剤師が検査オーダーを代行入力できることとなった。
- (2) 入院中の持参薬使用は最大14日間としていたが、配薬や処方入力時の煩雑さと持参薬報告書作成に要する時間を削減するために、2022年2月より持参薬使用は入院3日目までとし、4日目から定期処方日までの持参薬継続処方、薬剤師が代行入力することとなった。

## 2021年度実績

患者数 ～入院・薬剤管理指導・化学療法～	2020年度 月平均	2021年度 月平均	対前 年比
入院患者数	650	640	0.98
退院患者数	647	640	0.99
薬剤師数	23	27.3	1.18
薬剤管理指導 患者数	212	286.9	1.35
薬剤管理指導料 計（円）	1,070,963	1,572,817	1.46
持参薬 鑑別報告書件数	415	457	1.10
外来化学療法患者数	128	118	0.92
入院化学療法患者数	120	139	1.15
化学療法 計（円）	1,020,913	1,230,250	1.20

## 総括

2021年度は4月に新入職員6名と顧問1名を迎えた。2名退職があり、年度末の薬剤師数は26名となった。病棟薬剤業務実施加算の算定要件を満たすには、薬剤師・薬剤助手を増員し、薬剤助手との業務分担を更に進める必要がある。薬剤師確保のために以前より実施しているインターンシップ、見学のために来院できない場合のオンライン面談などは今後も継続する。

入職4年目の薬剤師1名が日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師に認定（認定後5年毎に更新）された。この認定は、4年目以上の薬剤師16名全てが取得している。

2021年3月に日本臨床腫瘍薬学会よりがん診療病院連携研修に認定され、7月より研修生として保険薬局薬剤師1名を受け入れている。

### 【病院指定】

日本病院薬剤師会

がん薬物療法認定薬剤師研修事業の研修施設

認定期間：2017年4月1日～2022年3月31日

2022年4月1日～2027年3月31日

日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修施設

認定期間：2021年3月1日～2026年2月28日

## 次年度の目標

- ・ 免疫抑制・化学療法によるB型肝炎対策ガイドラインの遵守を目指し、経口抗がん薬が処方された外来患者におけるHBVスクリーニングに不足している検査オーダーを薬剤師が代行入力する体制を整備する。
- ・ 薬剤管理指導実施率60%以上を目指す。
- ・ 薬剤管理サマリーなどを活用し、退院時における他医療機関との連携を図る。
- ・ 薬剤助手との業務分担や効率化を進め、病棟薬剤業務実施加算算定開始の目途を立てる。
- ・ 部門のレベル向上～日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師の認定は4年目以上全員取得する。



# 中央臨床検査課

技師長／今堀貴之

## 2021年度トピックス

- ・ 1月より採血室を新設し運用を開始。
- ・ 1月より超音波検査領域を拡大し運用を開始。
- ・ 4月より一部検診業務（聴力・視力検査）を実施。
- ・ 6月よりルミパルスG1200（H.U. グループホールディングス株式会社：富士レビオ）による新型コロナウイルス抗原定量検査を開始。
- ・ 外部精度管理調査（日本臨床衛生検査技師会・日本医師会・鹿児島県医師会・メーカー主催サーベイランス）の受験。

研修会参加（Webにて参加）

6月	第69回輸血細胞治療学会
8月	輸血シンポジウム2021九州
10月	認定一般検査技師資格更新研修会
	九州支部一般検査部門研修会
	臨床微生物部門研修会
11月	臨床一般・生化学部門合同研修会
12月	輸血・細胞治療研修会 発表
1月	卒後教育研修会第32回血液検査研修会
2月	鹿児島県合同輸血療法懇話会
3月	県医師会臨床検査精度管理調査研修会
	輸血・細胞治療研修会

## 2021年度実績

採血患者数	14,332人
生化学的検査	517,295件
免疫血清学検査	69,542件
輸血関連検査	17,786件
血液学的検査	527,944件
微生物学的検査	27,302件
生理学的検査	28,982件

## 総括

2021年1月、新病院移転にともない中央臨床検査課に採血室を設置した。4月には2名の臨床検査技師が入職。採血業務に取り組む人員確保に取り組んだ。また、超音波検査では検査領域を拡大し臨床からの要望に対応すべく努力し技師のスキルアップを目指している。

新型コロナウイルス感染拡大に対応すべく院内PCR検査とあわせて抗原定量検査を実施できる体制を整えた。また、感染リスクが高い生理検査では、ICT指導のもと、HEPAフィルター設置や換気、検査毎の清掃を行うことで対応した。院内にて新型コロナウイルス陽性者が発生した際は夜間・休日問わず中央臨床検査課全員で検査業務にあたり感染拡大防止の一翼を担った。

日々、検査機器のメンテナンスと内部精度管理を行い、精度の高い検査結果を報告している。外部精度管理調査では、日本臨床衛生検査技師会主催精度管理で満点を取ることができた。その他の精度管理でも高評価を得ている。

## 次年度の目標

- ・ 適切で迅速な臨床検査結果の報告。
- ・ パニック値を的確に臨床に伝える。
- ・ 認定資格取得を目指し自己研鑽に努める。
- ・ 病院機能評価にあわせマニュアルを整備し、検査の質の向上を目指す。
- ・ 微生物学的検査を担当するスタッフを見直しICT・ASTの一員として活動する。
- ・ 人員を確保し採血や検体採取業務の充実を図る。
- ・ 採血・検査・結果報告までの効率化を検討する。

## 2021年度トピックス

当院の臨床工学技士（以下、CE）業務は1999年6月に第1種高気圧酸素治療（以下、HBO）装置が導入された事により開始され、2005年に3名のCEでHBO、血液浄化、人工呼吸器他各種医療機器を管理する部門として臨床工学部を立ちあげ、その後、手術室業務、気管支・消化器内視鏡補助業務など業務拡大を続け2020年時には総勢14名のスタッフで運営してきた。

2021年1月1日病院移転に伴い臨床工学課は業務も含め新たな体制としてCE 15名、技能員2名の17名体制で運営を開始した。CE業務体制としては、オンコールであったものを宿直体制として24時間365日業務サービスを提供できるようにした。また、医療機器管理室が確保できたことによりほぼ全ての貸出用医療機器の集中管理が可能になったことに加え、新たに医療ガス管理（医療ガス実施責任者）、また車椅子やベッド、点滴スタンドなどの医療器材などを医療器材中央管理室にて集中管理を開始、更に5階シミュレーション室の管理も開始している。手術室での業務の拡大（整形ナビゲーション、ダビンチ管理など）、内視鏡センターへのCE常駐などタスクシフトや看護業務軽減に向けて貢献できるよう努力している。

## 2021年度実績

HBO

年度	2019年	2020年	2021年
件数	2,375	2,383	1,979

セクリスト社3300HJ 2台で実施している。治療件数は、これまでピーク時には3,000件を越えるほどであったがDPCに伴い減少し2017年には2,000件までに減少、2018年度の診療報酬改定（非救急適応200点→3,000点）により増加傾向にあったが2021年はコロナ禍により減少がみられた。当院でのHBO依頼診療科は整形外科60%、頭頸部・耳鼻咽喉科20%となっている。看護業務軽減策に対してはベッドでの患者搬送に対して対応を実施している。

血液浄化

	2019年	2020年	2021年
HD	401	270	494
CHDF	50	87	111
免疫吸着 血漿交換	51	43	21

HDは、個人用透析装置を1台増加しキラメキテラスヘルスケアホスピタルとの連携により受入れ患者が増加した。

手術室

スコピスト	MEP/SEP	整形ナビ	ダビンチ
21	351	190	97

新たな業務として整形外科のナビゲーションとロボット手術の対応である。スコピストに関しては2021年法改正でCEの正式業務となった。また、内視鏡用鉗子の点検等手術室内の医療機器点検にも着手している。

## 次年度の目標

2022年度に新に取り組む業務

依頼部署	内容
循環器内科	植込み型ループ心電計、ペースメーカーの遠隔管理
	シャント（バスキュラー・アクセス）エコー検査
血管外科	重症閉塞性動脈硬化症に対する血液浄化療法

その他、内視鏡業務や手術室業務についてタスクシフト・シェアに向けて積極的に取り組んで行く。

# 中央放射線課

技師長／永山照明

## 2021年度トピックス

### 1 ボランティア活動

- 2021年10月1日 鹿児島県庁ピンクリボン設置  
セレモニー (丸尾)
- 2021年10月21日 「KYT レディースチャリティー  
ゴルフ2022」 乳がん検診啓発 (丸尾)

### 2 講師・講演

- 2022年1月20・27日 (Web) 鹿児島医療技術  
専門学校診療放射線学科2年 診療画像検査学  
I (MRI 検査) (浮田)
- 2021年10月27日 南国殖産女性職員対象「乳  
がん検診について」 (丸尾)

### 3 発表

- 2021年11月19日 第40回鹿児島核医学技術検討  
会「線量管理への取り組みについて」 (稲留)
- 2021年12月7日 鹿児島超音波学会 (腹部領  
域) 症例報告「悪性リンパ腫」 (浮田)
- 2021年12月11日 第16回九州放射線医療技術  
学術大会「低線量肺がんCTにおけるDLR  
(AiCE) を使用した基礎的検討」 (中村 (圭))
- 2022年2月4日 第23回鹿児島MRI 研究会  
「いまきいれ総合病院のMR安全対策」 (浮田)

(資格の取得状況)

X線CT認定技師	12名
肺がんCT認定技師	6名
健診マンモグラフィ撮影認定技師	5名
救急撮影認定技師	4名
放射線治療専門放射線技師	3名
放射線治療品質管理士	3名
第1種放射線取扱主任者	3名
A I 認定診療放射線技師	3名
磁気共鳴専門技術者	2名
第1種衛生管理者免許	2名
日本核医学専門技師	1名

私たち診療放射線技師は専門認定技師の資格を  
取得し患者様に安心・安全な検査治療が行えるよ  
う取り組んでいます。また講習会、研修会に積極  
的に参加し高度なチーム医療の一端を担うべくス  
キルアップに努めております。

病院の移転に伴いCT装置(3台)とMRI装置(2台)  
が更新され可能となった撮像テクニックが増えま  
した。

(CT装置)

- AIを使用した画像再構成により低線量で画質  
が向上
- 16cmの幅を1回転(1秒)で撮影可能
- Dual Energy CTにより物質弁別が可能
- 4D - CTA、心電図同期撮影が可能

(MRI装置)

- 全身の拡散強調画像 (PETのような画像)
- 圧縮センシングを使用し高速撮像が可能
- 非造影で脳の血流量がわかる
- 肝臓の脂肪量の定量が可能
- 造影剤を用いることなく血管造影の様な動画  
で撮像可能
- 末梢神経の描出
- 心臓の撮像

## 2021年度実績

放射線課検査数 (人)

	年間	1ヶ月平均	1日平均
一般撮影	38,126	3,177	104.5
CT	16,797	1,400	46.0
MRI	5,448	454	14.9
透視	1,880	157	5.2
RI	492	41	1.3
アンギオ	226	19	0.6
放射線治療	207		

(放射線課職員)

診療放射線技師21名、医療クラーク2名、  
アシスタント2名

(2021年度 採用)

診療放射線技師2名 (新卒2名)、  
アシスタント1名

## 次年度の目標

- 24時間オンライン予約システム「TONARI」の活  
用
  - CT, MRI の増えた撮像テクニックの周知
  - 認定技師を目指し個人のスキルアップを図る
  - 組織力の向上
  - 他課とのコミュニケーションの向上
- 病院機能評価受審に向け放射線課全員で取り組み、  
救急医療体制の一翼を担うべく組織力を高める。



# リハビリテーション課

療法士長／兒島邦幸

## 2021年度トピックス

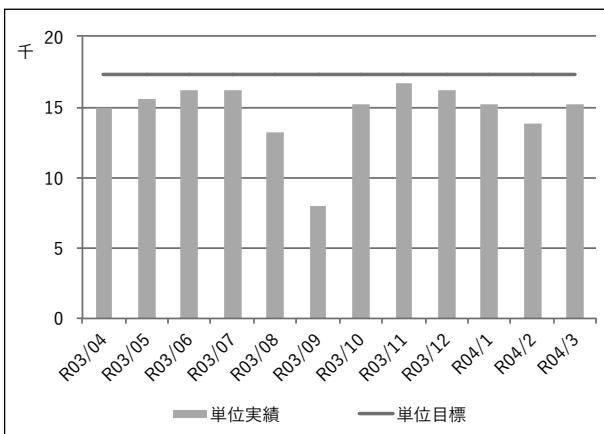
- ・ 心大血管疾患リハビリ料(1)の施設基準を取得した。
- ・ HCU、レディース病棟に担当のセラピストを配置した。
- ・ 小児糖尿病患者の運動指導に対して、看護師や保育士と連携を図り成果を得た
- ・ 舌がん、喉頭癌の術後リハビリの機会が増加した。
- ・ 嚥下内視鏡検査の認知度向上と件数増加
- ・ ボイスプロテシス(プロヴォックス)を用いた発声訓練を経験した。

## 2021年度実績

(生産性)

目標：年間207,500単位(360単位/人/月)

結果：年間176,500単位(達成率85%)



各指標	実績	前年比
患者数	6,391人	111.5%
脳血管リハ	54,743単位	78.7%
運動器リハ	50,529単位	48.4%
呼吸器リハ	25,152単位	105.0%
廃用リハ	22,650単位	99.9%
心リハ	779単位	新規
がんリハ	22,707単位	86.7%

## 総括

新型コロナの影響で、9月には診療機能の休止を経験した。現在も病室・病棟を制限した人員配置を継続している。このような制限は、年間を通して生産性低下に大きく影響する結果となった。病棟交差して労働量をコントロールしながら生産性を上げていた過去の運用モデルはもはや転換期を迫られている。リハビリ部門の一部または全体が休止しても、患者のリハビリは継続されなければならない。そのための方法、手段を構築していく。HCUも担当のセラピストを配置した。休日のリハビリ対応や離床に対する多職種間の認識の共有化のためプロトコルを作成した。次年度は他病棟にもこの取り組みを広げていく。

## 次年度の目標

(生産性)

- ・ 目標：360単位/療法士1人/1月
- ・ 取組みの方向性：
  - 業務の効率化やコスト削減
  - 職員のスキルアップ、デジタルツール活用などで、労働時間あたりの成果の最大化
- ・ アクションプラン
  - Step1：手順書の見直し
  - Step2：ムダな工数の見直し
  - Step3：記録フォーマットの見直し
  - Step4：職員研修
  - Step5：モニタリング

(生産性以外)

- ・ 新人理学療法士職員研修における組織の体制づくり
- ・ 多職種協働による摂食嚥下リハビリテーションの推進

# 栄養管理課

課長／上平田美樹

## 2021年度トピックスと実績

### 【2021年度目標】

1. 新病院運用の効率化
2. 教育（専門性）の充実
3. 給食サービスの向上

### 【スタッフ構成】

管理栄養士 11名 (NST専任1名、NICU専任1名含む)  
 栄養士 5名  
 調理師 9名 調理補助 12名  
 洗浄委託 14名 (2022年3月現在)

### 【課内業務】

1. 給食運営の充実
  - ・ニュークックチルの導入
  - ・各セクションの連携と充実
  - ・衛生管理 (HACCP) と食事の質向上
  - ・スタッフ教育と適正配置
  - ・洗浄委託教育
2. 栄養管理（病棟及び地域）の充実
  - ・栄養指導月間目標の設定
  - ・カンファレンス、回診参加
  - ・地域連携（栄養管理情報提供書）
  - ・院内発表と症例検討会の実施
3. 院内連携
  - ・病棟業務の負担軽減推進
  - ・院内発表会 2題発表
4. 発達支援センター開設準備
  - ・2022年4月開所予定

### 【受賞歴】

9月 厚生労働大臣賞（特定給食部門）受賞

### 【統計】

(表1) 食数年間合計表

一般食	269,881食
特別食	95,128食
経管栄養	17,330食

(表2) 栄養指導・NST件数集計表

項目	年間実施件数
入院食事指導	2,646 (内非算定 267)
外来食事指導	207 (内非算定 3)
集団食事指導	24 (内非算定 7)
NST 算定	依頼数 65件
	延べ回診・カンファレンス 264件

(表3) 資格等の取得状況

資格	人数
病態栄養専門管理栄養士	4
日本糖尿病療養指導士	3
栄養サポートチーム (NST) 専門療法士	2
がん認定管理栄養士	2
NST コーディネーター	2
日本褥瘡学会認定師	1
運動療法指導師	1
新調理システム管理者	1

### 【講師派遣及びボランティア、発表活動】

- ・つながる想い in かごしま ワークショップ  
ボランティア 5月 鈴木 聖子
- ・鹿児島大学 歯学部2年「地域体験学習」  
講師 10月 鈴木 聖子
- ・たるみず元気プロジェクト 栄養相談  
ボランティア 12月 上平田 美樹
- ・鹿児島県栄養士会第9回リレー研修会  
11月 講師 鈴木 聖子  
1月 講師 上平田 美樹
- ・2月 日本病態栄養学会理事会 上平田 美樹
- ・3月 鹿児島県摂食嚥下リハビリテーション  
研究会理事会 鈴木 聖子
- ・3月 第41回 食事療法学会 2題発表  
「当院における栄養情報提供加算の現状と課題」  
鈴木 聖子  
「パスで繋がる院内連携～食事の取組み～」  
染川 麻美

### 【学会参加状況】 Web

- 5月 日本糖尿病学会学術集会
- 7月 日本臨床栄養代謝学会学術集会
- 10月 日本糖尿病学会 地方学会
- 2月 日本病態栄養学会
- 3月 食事療法学会

**【調査協力】**

- ・ 鹿児島純心大学 看護栄養学部栄養学科  
(嚥下調査)

## 次年度の目標

---

1. 栄養管理及び給食管理に関わるスタッフ教育の推進と充実
2. 周術期栄養管理の早期介入開始
3. がん病態栄養の充実
4. 人材確保と継続性

# 看護部

部長／近藤ひとみ

## 2021年度トピックス

- 4月：夜勤用ユニホームの導入
- 9月：多様な日勤形態の導入
- 10月：看護師特定行為研修施設として開講
- 10月：HCU8床から10床へ増床
- 1月：看護補助者の夜勤導入に関する加算算定  
100対1急性期看護補助者体制加算算定  
夜間看護体制加算算定

## 2021年度実績

### 1. 看護関連指標

- 1) 看護職員入職：82名（新卒：34名含む）
- 2) 看護職員退職：63名（退職率：14.8%）
- 3) 産休／育児休暇取得者：17名／20名
- 4) 育児時短勤務制度利用者：23名
- 5) 年休取得率：43%
- 6) 超過勤務時間：約11時間／月（一人当たり）

### 2. 資格取得・研修修了者

- 1) 認定看護師：12名／9分野
- 2) 学会認定
  - ①鹿児島県看護協会員：2年目以上全員
  - ②鹿児島県看護連盟会員：主任以上45名
  - ③消化器内視鏡技師：7名
  - ④自己血輸血看護師：1名
  - ⑤滅菌技師：1種1名、2種4名
  - ⑥アドバンス助産師：10名
  - ⑦介護福祉士：2名
  - ⑧日本口腔ケア学会3級認定：1名
- 3) 講習会・研修修了者
  - ①認定看護管理者教育課程
    - ・セカンドレベル修了者：4名
    - ・ファーストレベル修了者：29名
  - ②看護師特定行為研修修了者：3名
  - ③実習指導者講習会修了者：28名
  - ④看護補助者の活用推進研修修了者：37名
  - ⑤厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了者：52名
  - ⑥医療安全管理者養成研修40時間以上：9名

- ⑦がんのリハビリテーション研修修了者：11名
- ⑧日本DMAT隊員登録：2名
- ⑨災害支援ナース：4名
- ⑩インターベンションエキスパートナース：1名

### 3. ケア関連指標

- 1) インシデント件数：1059件／年
- 2) 褥瘡発生率：1.22％／月平均

## 総括

今年度は看護部目標に『新体制での安心安全な看護を実践する』と掲げ、コロナ感染症対策中の行動制限のある中、部署及び看護部委員会等で工夫しながら取り組んだ。部署間の差があるものの、全体評価は中間評価よりも高い。しかし、委員会評価は活動が自粛された為か中間評価より低く、委員としての役割の責任と自覚が足りない結果となった。BSCでの「学習と成長の視点」は平均A評価（90%以上）であるが学習・研修での学びを実践に活かしているかは不明である。「業務プロセスの視点」では平均B評価（75%以上）で、時間管理や6Rの周知徹底についてはC評価（50%以上）が約半数、人員不足に伴う業務の煩さが要因となった。「顧客の視点」は平均B評価であるが、時間外勤務や離職率は増加傾向。「財務の視点」では平均A評価が多い中、インシデント・アクシデント件数は増加し、同一事例が発生。報告書では改善策が立てられているが実践に至っていない。また、看護師不足で業務は煩雑化し疲労困憊し、職員だけでなく管理者も疲弊している部署は職場の士気も低下していると感じた。しかし、日々の部署間を越えたリリーフ体制やコロナ感染症病棟への人選協力、コロナワクチン一般接種への協力などは管理職をはじめ看護職員一人一人の協力があって成し得たと考える。

## 次年度の目標

看護の質を担保する取り組みを実践する。

## 2021年度トピックス

### 【副傷病の付与】(図1)

DPC請求精度向上のため、副傷病の付与を診療情報管理課、医事課を中心に取り組んだ。

全ての月の副傷病付与率が中央値を上回った。

副傷病を付与することにより、DPC請求の精度向上および複雑性係数、効率性係数などの係数増加にもつながる。

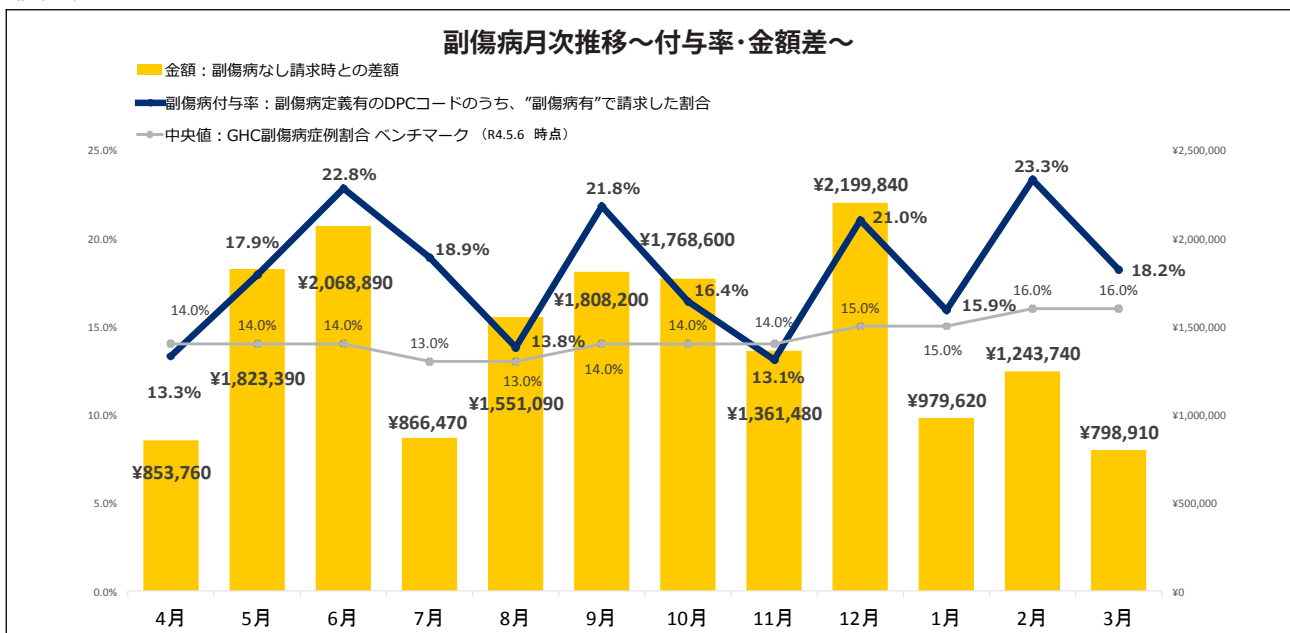
## 次年度の目標

事務部門全体目標：

安定した病院経営（医業収入目標達成、職員満足度を高める）

- 経営企画課
  - ・加算取得クリアに向けた取組、提案
  - ・健診事業の推進
- 医事課
  - ・DPC係数アップに向けた取組
  - ・診療報酬新規加算取得、提案
- 診療情報管理課
  - ・DPC I期チェック
  - ・副傷病付与
- 人事総務経理課
  - ・機能評価取得に向けた適切な文書管理
  - ・経費関連の適正化
  - ・働き方改革の推進
  - ・人材確保、育成
- 医療情報管理課
  - ・ICT導入に向けた取組
- 用度課
  - ・診療材料費、医薬品関連の適正化

(図1)





# 患者支援部

部門長／今給黎尚幸 副部門長／原口一博  
病床管理課 課長／田中かすみ  
患者サポートセンター センター長／原口一博（報告）

## 2021年度トピックス

当院は、2021年1月より、高麗町新病院へ移転し、新たな年度がスタートしています。急性期病床を450床から350床へ病床を整理しての運営となっています（上町地区に回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟の100床にて開設）。

新病院では、これまで以上に救急医療体制の強化と高度医療の提供が主となり、更なる平均在院日数短縮が必要となりました。

また、移転後の新たな取り組みとして、外来の完全予約制への移行や入退院支援センター（PFM）も開設しました。

移転とともにこれまでの相談支援センターから、組織変更もあり、患者支援部門として創設されました。

部門は、病床管理課（ベッドコントロール、PFM）と患者サポートセンター（医療連携センター、外来予約センター、がん相談支援センター、緩和医療、医療相談、退院支援）で構成されており、それぞれの専門的役割を遂行することになりました。

## 2021年度実績

平均在院日数	14.2日
紹介率	59.8%
逆紹介率	70.3%
退院支援加算1	1,952件
退院支援加算3	168件
入院時支援加算	173件
がん相談	390件
セカンドオピニオン	6件
ハローワーク就労支援	0件
ほっとサロン今給黎	2回

がん医療連携会議・講演会開催・シンポジスト参加  
認知症患者のスピリチュアルケア  
社会的処方（地域のつながりでみんなが元気になる方法）  
がんのことを知ろう

PFM（面談）介入率 43.0%

## 総括

まず始めに、本年度もコロナ感染対策に振り回されてしまうことになりました。

病床や受入の制限や医療連携活動の自粛など、様々なところで支障が出ました。

移転後、入院前の対応を主とするPFMが新たな業務開始となりましたが、外来や病棟業務の一部や入院患者さまのお迎え対応など、多岐にわたってしまい、今後の業務の見直しが必要な状況です。

また、外来予約センターも開設となりましたが、やはり当初のマニュアルで定めていた通りには行かないことが多く、業務をする中で他の部門との連携・業務確認が必要となることが多くありました。

## 次年度の目標

2022年4月病床管理課の課長交代が行われ、田中課長より上野課長へ交代となります。PFMの運営管理として、外来の上山師長（4月より副看護部長）が統括することとなります。

### 【病床管理課】

PFMの業務の見直しと適切な病床管理を行う

### 【患者サポートセンター】

平均在院日数の短縮  
紹介率・逆紹介率の向上  
加算関係の向上

がん相談件数の向上  
がん連携拠点病院としての役割強化

今後、病院として、急性期充実体制加算の取得や病院機能評価機構の受審などが計画されており、施設基準の確認や規定・手順書などの見直しを行っていく必要があります。

# 医療安全管理課

医療安全管理部副部長／課長／千田清美

## 2021年度トピックス

1. 安全管理報告書の集計、分析、対策立案の支援
2. 医療安全推進部門カンファレンスの運営
3. 医療事故発生時対応マニュアルの見直し
4. 医療安全対策委員会の運営支援
5. 医療安全研修会の実施
6. 医療安全地域連携加算に係る相互評価の実施
7. 患者相談対応

2021年	受講対象者	受講者数	未受講者	受講率
1回目	905名	895名	10名	98.9%
2回目	895名	894名	1名	99.9%

### 3. 医療安全対策地域連携加算に係る相互評価

(1) 加算1施設：今村総合病院様

2021年12月14日および12月21日に相互チェック、ラウンドを実施。評価報告書および改善報告書を提出した。

(2) 加算2施設：種子島医療センター様

感染対策を考慮し、2022年3月3日にZOOMによるオンライン会議の形式で評価を実施し、評価結果を提出した。

## 2021年度実績

### 1. 安全管理報告書の年度別推移

年次別報告 (1月～12月)	2018年	2019年	2020年	2021年
報告件数(件)	1,423	1,331	1,174	1,184
レベル0～1	834	724	637	542
レベル2～3a	571	583	511	603
レベル3b以上	18	24	26	39
薬剤	345	325	245	250
輸血	5	5	6	5
治療・処置	125	108	101	74
医療機器等	134	54	30	70
ドレーン・チューブ	169	199	173	183
検査	105	87	68	59
療養上の世話	454	482	504	452
その他	86	71	47	91
転倒・転落発生件数	275	300	325	232
転倒・転落発生率	1.97	2.15	2.63	2.20

### 2. 医療安全研修会の開催（全職員対象）

- ・ 1回目 2021.11/19～12/20 動画配信
  - 1) 医療安全管理体制について（27分）
  - 2) MRIの安全研修（8分）
  - 3) X線の安全研修（17分）
- ・ 2回目 2022.2/2～2/23 動画配信
  - 1) せん妄対策マニュアルについて（20分）
  - 2) せん妄ハイリスク患者ケア加算について（23分）

## 総括

2021年は病院移転に始まり、環境・人員体制・運用面において変化を伴い、連携不足やコミュニケーションエラー、運用面やルールの見直しが必要な事例もあった。また、レベル3b以上の報告件数は39件と増加あり、内訳は療養上場面15件、チューブ・ドレーン管理13件、治療・処置関連5件、薬剤関連3件、医療機器関連2件、その他1件の内訳で、転倒・転落による受傷件数は前年度16件から11件と減少を認めた。

## 次年度の目標

1. 医療安全推進部門の業務遂行と関連する活動チームの体制確保および活動支援
2. 医療安全管理にかかる各種マニュアルの見直し・策定
3. 改善活動の評価
4. 医療安全地域連携加算取得の継続
5. 現場医療安全管理者の育成と活動支援
6. 医療安全管理者の業務見直しと自己研鑽

# 褥瘡管理課

褥瘡対策委員長／形成外科科長／外菌寿典  
褥瘡管理課課長／下前百合香（報告）

## 2021年度トピックス

褥瘡回診：

- ・ 毎週木曜日 14 時～実施（メンバー：形成外科医、褥瘡管理課、薬剤師、リハビリテーション課、管理栄養士）
- ・ キラメキテラスケアホスピタルの褥瘡対策チームが回診に参加（感染対策にて休止）

褥瘡予防ラウンド：

基本的に前日入院患者の褥瘡ハイリスク状態の患者を訪問

褥瘡対策委員会会議：

偶数月第1水曜日 17:00～17:30（コアメンバーのみ）、看護部と合同会議

褥瘡対策研修会：

- ① 新人・中途採用・専任看護師対象に褥瘡対策の基本について講義（同内容で3回開催）：127人受講
- ② 全職員対象にナーシングスキルを使用し開催：572人受講
- ③ ポジショニング指導、褥瘡帳票記録指導

褥瘡対策マニュアルの修正・追加、褥瘡患者転院時：褥瘡経過サマリー作成し情報提供

創傷管理：

医師介入依頼の創傷管理（創評価やスタッフへのケア指導、NPWT及び、看護師特定行為にてデブリードメントやNPWT施行）

ストーマケア：

ストーマサイトマーキング、ストーマケア相談、ストーマ外来

## 総括

褥瘡対策は入院患者数の54.5%に行い、そのうち整形外科患者が24%を占めていた。褥瘡発生も整形外科患者が49%、総合診療科が32%で高齢患者・高リスク患者へ発生しており、ヘッドアップ時の体位調整や背抜きが不十分で体位のずれによる発生ケースが多かった。

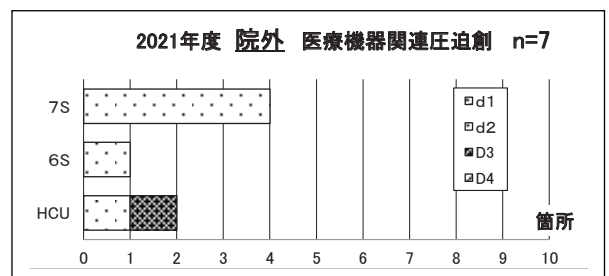
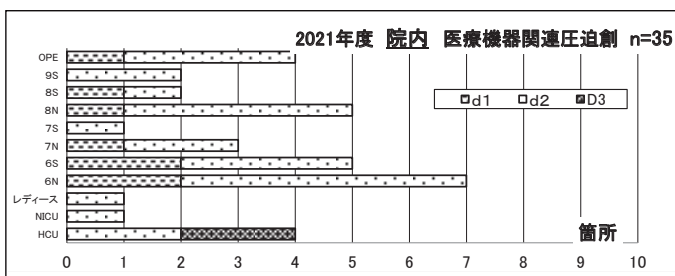
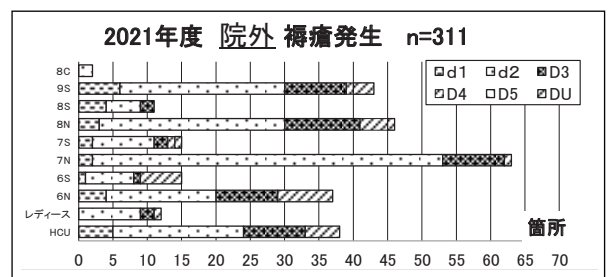
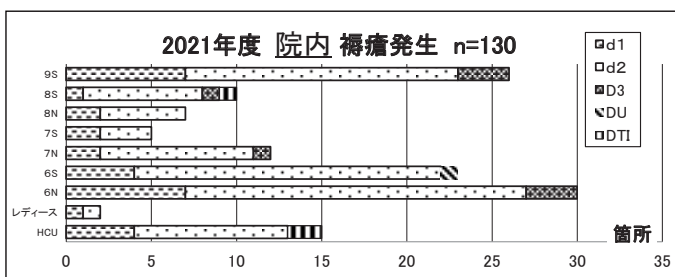
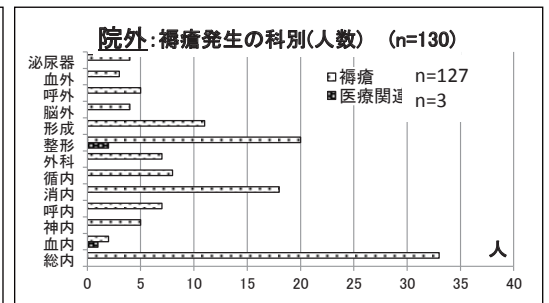
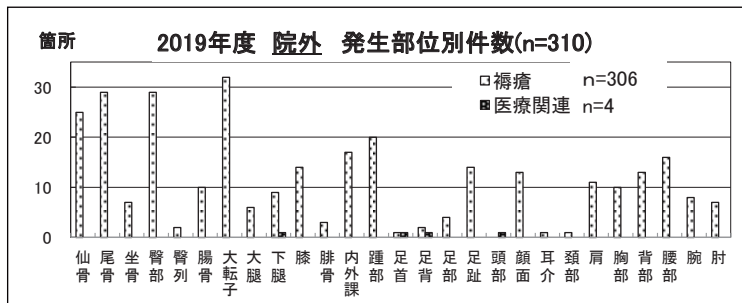
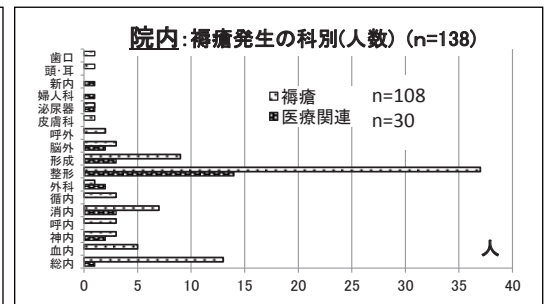
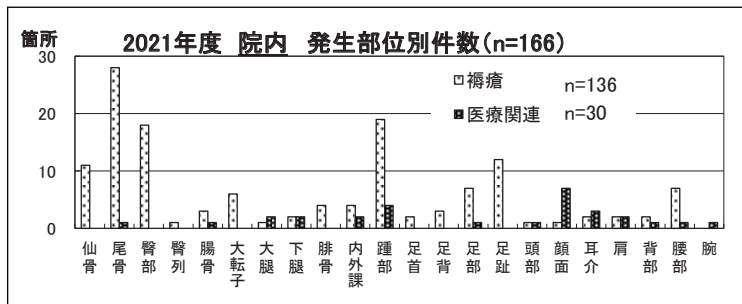
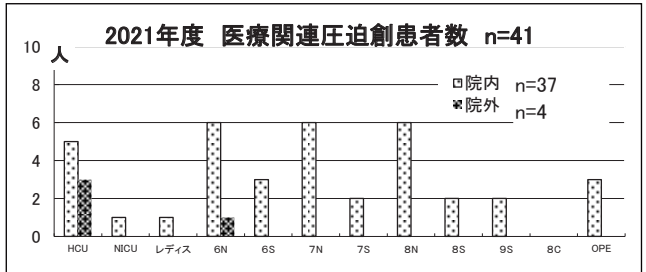
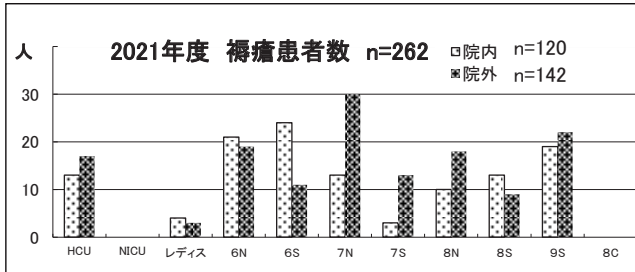
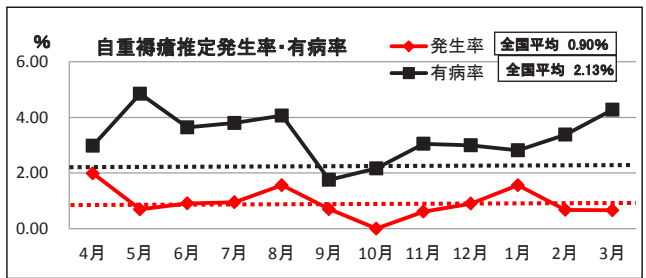
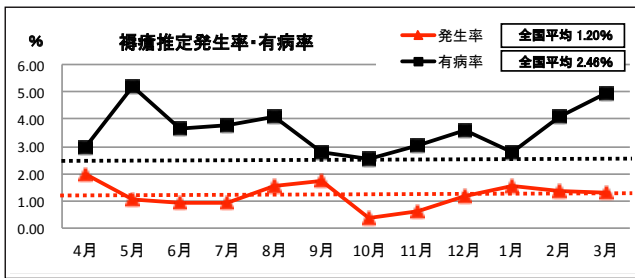
また、入院時より褥瘡を有する患者数は増加し、多発褥瘡形成でDUやDTIと深い褥瘡を有する患者が多かった。

キラメキテラスケアホスピタル褥瘡対策チームは、当院褥瘡回診に2回同行したが、感染対策で休止中であり、感染対策解除後、再開予定である。

褥瘡（自重褥瘡、医療機器関連圧迫創）の推定発生・有病率、院内外発生別、部位、発生部署、診療科は次頁グラフを参照。

## 次年度の目標

- ・ 褥瘡推定発生率0.9%以下を維持し、発生件数も100件以下にする。
- ・ リハビリスタッフと連携し除圧指導を強化すると共に、褥瘡対策勉強会の講義動画を作成しケア統一を図る。





# 感染管理課

感染管理課主任／感染管理専従看護師／立和名聖子

## 2021年度トピックス

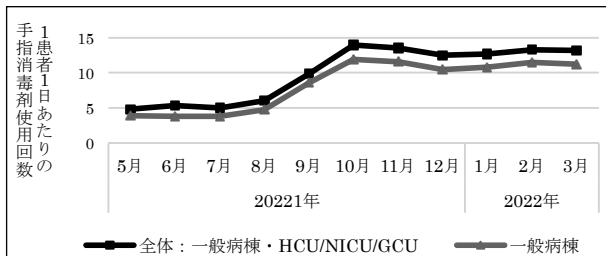
1. 新型コロナウイルス感染症の感染対策強化
2. 院内感染防止対策マニュアルの周知と適宜改訂
3. サーベイランスの継続と結果のフィードバック
4. 感染防止対策加算等の取得継続
5. 院内感染研修・抗菌薬適正使用研修の計画・実施

## 2021年度実績

1. 新型コロナウイルス感染症関連  
 コロナ病棟の運営と現場指導  
 院内クラスター発生対応 1病棟  
 コロナ病棟マニュアルの整備と周知

### 2. サーベイランス

#### (1) 手指消毒剤使用量サーベイランス 目標12回



#### (2) 医療関連感染

尿道留置カテーテル関連尿路感染0/0.14（感染率/1000患者日あたりのカテーテル使用比）。中心ライン関連血流感染0.69/0.06。概ね良好であった。

#### (3) 耐性菌サーベイランス

感染管理システムが導入されており、検出状況をタイムリーに把握できる体制がある。感染対策の実施確認と適宜、指導を行った。今年度、耐性菌によるアウトブレイクは見られなかった。

		MRSA	ESBL
陽性率 (%)		14.3	7.0
新規発生の内訳	持込率 (%)	49.5	56.6
	院内発生率 (%)	50.5	43.4
発生密度率		0.8	0.5

#### (4) 血液培養サーベイランス

複数セット採取率99%、1000患者日あたりの血液培養採取数22.8であった。年々増加している。1セット採取事例は、医師指示3件、採取困難11件、患者の協力が得られない1件、不明2件であった。

### 3. 加算関連

#### (1) ICTラウンド

ラウンドチェック表を用いて48回/年実施した。病棟のほか外来、放射線検査室、手術室、リハビリ室等のラウンドを行い評価・改善を図った。

#### (2) AST活動（抗菌薬適正使用支援活動）

	監査件数	介入件数	採択率 (%)
抗菌薬	300	34	91
血液培養	180	10	77
耐性菌	294	2	100

#### (3) 感染防止対策地域連携合同カンファレンス

（加算2施設八反丸リハビリテーション病院と連携）  
 年4回手指衛生サーベイランスや抗菌薬適正使用監査、感染対策の情報共有と対策の検討を実施した。

#### (4) 感染対策地域連携相互評価

（米盛病院・県立薩南病院と連携）  
 連携施設相互で直接赴き感染対策の評価を行った。結果は、関係部署や委員会等で共有し、院内感染対策の向上へ繋げた。

### 4. 院内感染研修・抗菌薬適正使用支援研修

第1回 COVID-19現在の状況/上気道炎の抗菌薬

第2回 COVID-19クラスター発生と対策チーム活動/当院におけるICT/AST活動

第1回、第2回ともに参加率99%であった。



## 総括

COVID-19重点医療機関として2021年1月から感染者の受入れを再開した。コロナ病棟配属のスタッフは短期間で入れ替わる。スタッフの不安軽減のため病棟マニュアルの充実を図り、配属前のPPE着脱チェック等、患者職員の安心・安全な環境整備に努めた。県内で多くのクラスターが発生する中、当院も例外ではなく8月にクラスター発生と認定された。保健所や県感染症専門チームに介入頂き、収束に向けて対応した。クラスターを機に各種感染対策チームが編成され、現在もチーム活動は継続されている。クラスター発生により手指衛生をさらに強化した。まだ課題はあるが1患者1日あたりの手指消毒回数は、目標値の12回に近づいている。

## 次年度の目標

目標：問題に気づき解決できるよう支援する

1. ICTラウンド結果の積極的な活用
2. サーベイランス強化:SSIサーベイランスの開始
3. 適切な手指衛生を実践できるよう支援する
4. 血液培養の汚染率のデータ集積と評価
5. 行政や地域医師会と連携強化



上町いまきいれ病院

Ⅲ-1

病院概要



## 上町いまきいれ病院 病院概要

(令和4年3月現在)

名 称	公益社団法人昭和会 上町いまきいれ病院 Kanmachi Imakiire Hospital	
開設者	代表理事 今給黎 和幸 (いまきいれ かずゆき)	
管理者	院長 丸山 芳一 (まるやま よしかず)	
所在地	〒892-0852 鹿児島市下竜尾町4番16号 (かごしまししもたつおちょう)	
代表電話	099-222-1800	
代表 FAX	099-226-3366	
URL	<a href="https://imakiire.jp/kanmachi/">https://imakiire.jp/kanmachi/</a>	
病院開設日	2021年(令和3年)1月1日	
病床数	100床 回復期 54床・地域包括ケア 46床(眼科 10床)	
規 模	地上7階 地下2階 敷地面積 2,472.41 m <sup>2</sup> 、建築面積 5,506.03 m <sup>2</sup>	
標榜科 (6診療科)	内科、脳神経内科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科	
職員数	171名	
有資格者	常勤	非常勤
	医師	7名 1名
	薬剤師	1名 1名
	診療放射線技師	1名 1名
	臨床検査技士	2名
	理学療法士	18名
	作業療法士	11名
	言語聴覚士	3名
	管理栄養士	4名
	視能訓練士	4名
	社会福祉士	3名
	看護師	67名
	保健師	2名
	准看護師	2名





## 施設概要

(令和4年3月現在)

4F	会議室
3F	地域包括ケア病棟 46床(眼科病棟含む) リハビリテーション室、デイルーム
2F	回復期リハビリテーション病棟 54床 リハビリテーション室、デイルーム
1F	総合受付 外来(内科、脳神経内科、整形外科、糖尿病内科) 総合処置室 救急室 地域連携室 CT室 レントゲン室 骨密度検査室
地下 1階	手術室 外来(眼科) 検査室 心電図室 リハビリテーション室 言語聴覚療法室 検眼室 眼底カメラ室

## 施設基準届出一覧

### ○基本診療料の施設基準等

回復期リハビリテーション病棟入院料2  
地域包括ケア病棟入院料 看護職員配置加算  
入退院支援加算1 (一般病棟等)  
地域包括ケア入院料2  
データ提出加算2

### ○特掲診療料の施設基準等

在宅時医学総合管理料  
神経学的検査  
CT撮影  
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術)  
(プレートのあるもの)  
入院時食事療養 (I)  
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)  
運動器リハビリテーション料 (I)  
呼吸器リハビリテーション料 (I)  
緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)

## 医療設備概要

### 【放射線部門】

一般撮影装置  
一般ポータル X 線装置 IMC-125  
CT 装置  
骨密度測定装置  
受付・画像処理装置

### 【その他医療機器】

眼底カメラ検査装置  
眼球運動検査装置  
無反射視力検査  
超音波検査装置  
肺機能検査装置  
心電計  
多項目自動血球装置  
生化学自動分析装置





上町いまきいれ病院

Ⅲ-2

病院統計



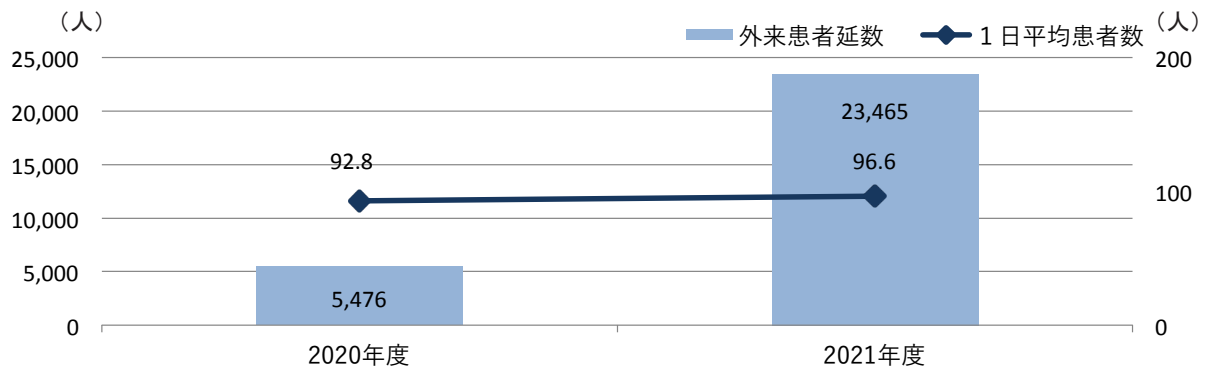
## (1) 外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合)

単位：人

診療科名	2020/令和2年度*		2021/令和3年度	
	患者数	1日平均患者数	患者数	1日平均患者数
総合内科	258	4.4	2,378	9.8
糖尿内科	672	11.4	3,021	12.4
脳神経内科	958	16.2	3,421	14.1
整形外科	1,429	24.2	6,159	25.3
眼科	2,159	36.6	8,486	34.9
合計	5,476	-	23,465	-
1日平均	-	92.8	-	96.6
救急車患者数	1	-	6	-

\*2020年度集計期間：2020年1月～3月

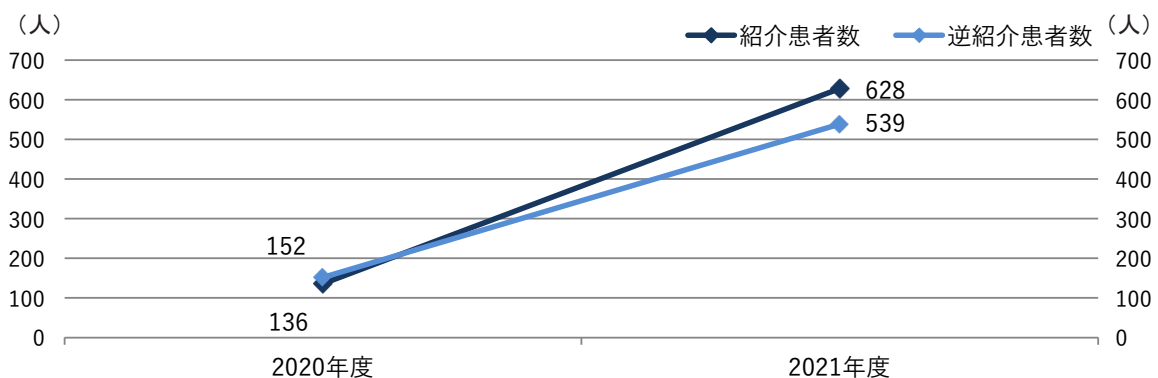
## ■外来患者数と1日平均患者数



## (2) 紹介率・逆紹介率

	2020/令和2年年度*	2021/令和3年度
紹介率 (%)	24.7%	31.3%
逆紹介率 (%)	27.6%	26.8%

## ■紹介患者数・逆紹介患者数





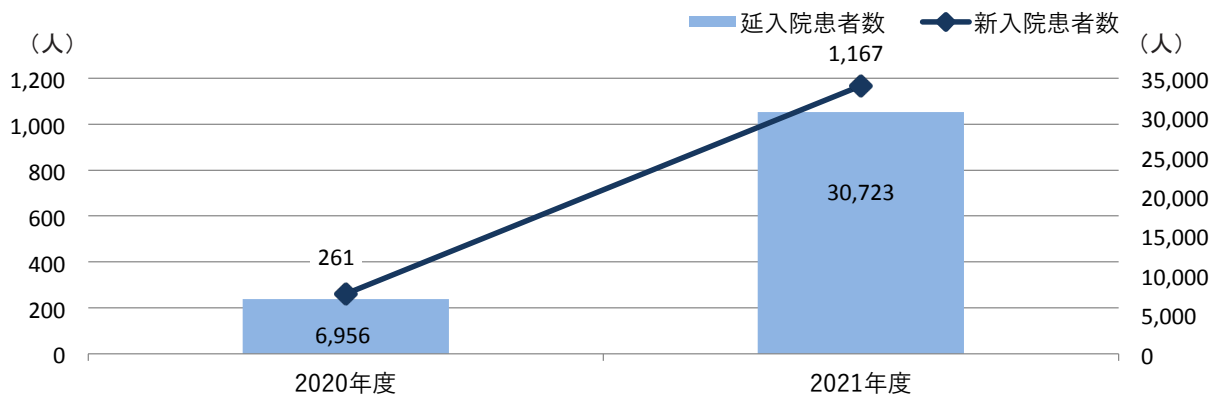
## (3) 新入院患者・延入院患者数

単位：人

診療科名	2020/令和2年度*		2021/令和3年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院
総合内科	19	820	150	5,176
脳神経内科	53	3,044	268	13,775
整形外科	48	2,609	217	9,698
眼科	141	483	532	2,074
合計	261	6,956	1,167	30,723
1月平均	87.0	579.7	97.3	2,560
1日平均	2.9	77.3	3.2	84.2

\*2020年度集計期間：2020年1月～3月

## ■新入院患者・延入院患者数

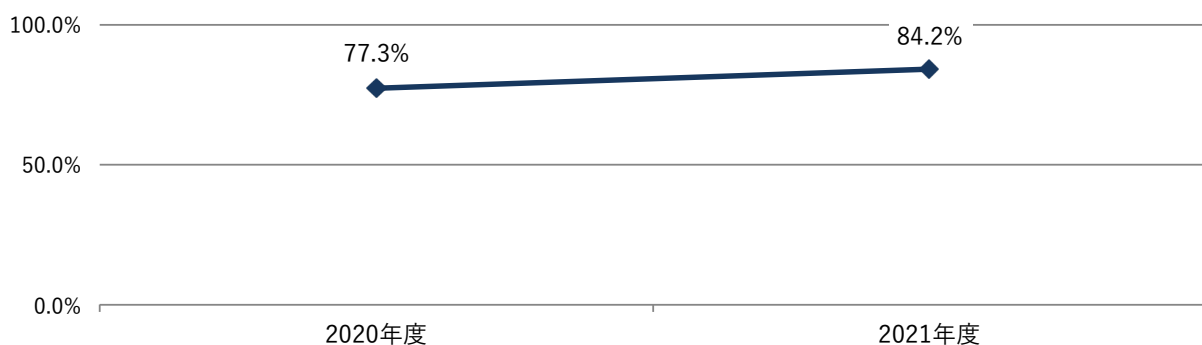


## (4) 入院に関する実績比較

	2020/令和2年度*	2021/令和3年度
定床	100床	100床
新入院数	261人	1,167人
退院数	252人	1,163人
在院患者延数	6,956人	30,723人
1日平均在院患者数	77.3人	84.2人
平均在院日数	27.1日	26.4日
病床稼働率	77.3%	84.2%

\*2020年度集計期間：2020年1月～3月

## ■病床稼働率



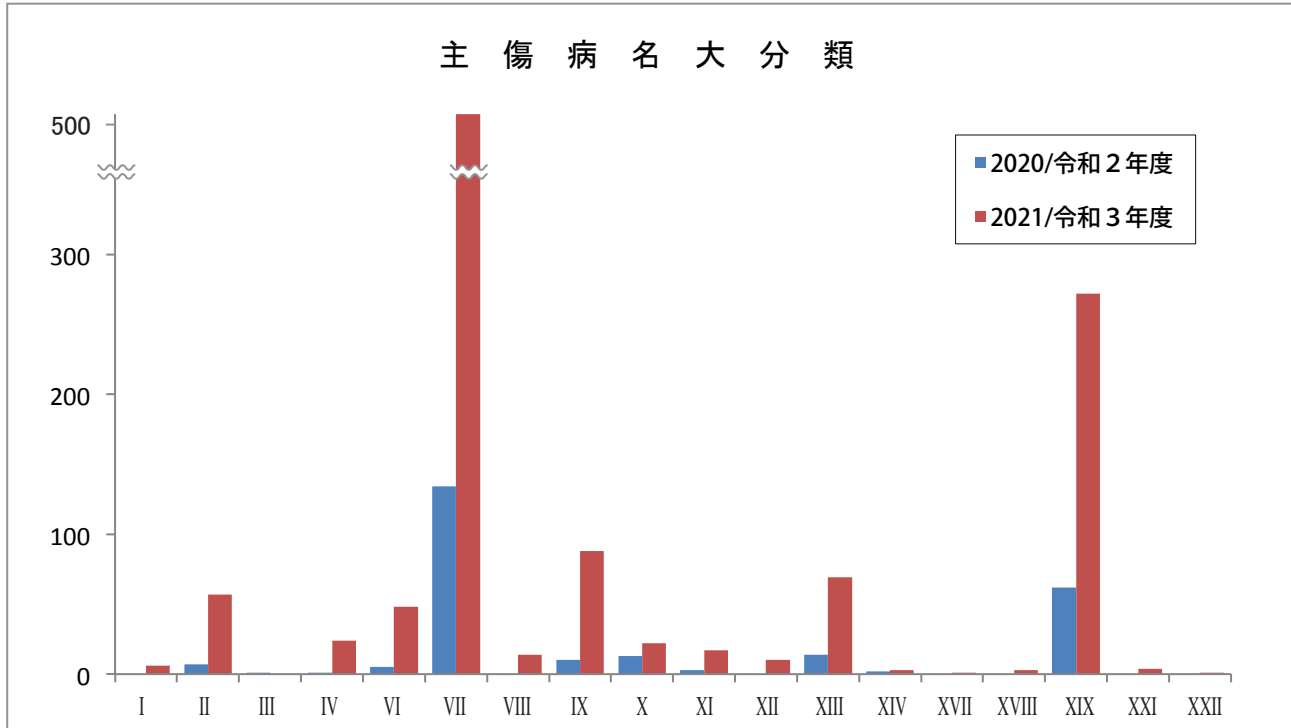


## (5) 眼科手術件数

	2020/ 令和 2 年年度 *	2021/ 令和 3 年度
眼科	240 件	1, 126 件

\*2020年度集計期間：2020年1月～3月

## (6) 退院患者 ICD 大分類



コード	大分類項目	2020/ 令和 2 年年度 *	2021/ 令和 3 年度
I	感染症及び寄生虫症	0	6
II	新生物	7	57
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1	0
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	1	24
VI	神経系の疾患	5	48
VII	眼及び付属器の疾患	134	524
VIII	耳及び乳様突起の疾患	0	14
IX	循環器系の疾患	10	88
X	呼吸器系の疾患	13	22
XI	消化器系の疾患	3	17
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	0	10
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	14	69
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	2	3
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	0	1
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0	3
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	62	272
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	4
XXII	新興感染症	0	1
	合計	252	1,163

\*2020年度集計期間：2020年1月～3月



## 部門報告

### 診療部

- 内科・脳神経内科・糖尿病内科・整形外科
- 眼科

### 看護部

#### 診療支援部

- 薬剤課
- 中央放射線課
- 中央臨床検査課
- リハビリテーション課
- 栄養管理課

### 事務部

#### 患者支援部

- 地域医療支援センター



# 内科/脳神経内科/糖尿病内科/整形外科/眼科

脳神経内科 院長／丸山芳一、副院長／林茂昭(報告)、非常勤医師／白元亜可理

内科 部長／花園幸一、中目康彦(～2021.8.31) 糖尿病内科 非常勤医師／濱崎秀崇

整形外科 山内常一郎、会長／今給黎尚典 眼科 医長／當重明子、二階堂裕士

## 2021年度トピックス

2021年1月より上町いまきいれ病院の名称となり運営開始。

外来：整形外科、脳神経内科、内科、糖尿病内科、眼科

病棟：回復期病棟54床

地域包括病棟46床(眼科 10床)

## 2021年度 診療実績

### 外来

初診	2,629人(1日平均：8.9人)
再診	20,836人(1日平均：70.6人)
整形外科	6,159人(1日平均：25.3人)
脳神経内科	3,421人(1日平均：14.1人)
内科	2,378人(1日平均：9.8人)
糖尿病内科	3,021人(1日平均：12.4人)
眼科	8,486人(1日平均：34.9人)
救急車患者数	6人

### 入院

#### 回復期病棟

入院数	261人
1日平均(延数)	47.9人

#### 地域包括病棟

入院数	371人
1日平均(延数)	36.3人

## 総括

2021年1月より、外来は整形外科、脳神経内科、内科、糖尿病内科、眼科、病棟は回復期病棟、地域包括病棟の運営を開始した。入院数に関しては緩徐に増加していく状況であった。コンスタントに入院受け入れができていたが、途中COVID-19感染流行のため、入院の受け入れが遅延、中断する状況があった。入院予約は途切れることはなかったが、退院したあとの空床に入院が入るまでの期間をできるだけ短くしていくことが今後の課題である。

入院中は全身管理とリハビリテーションが主たる治療である。COVID-19感染対策のために一時的に短期間リハビリテーションができない時期があったが、それ以外はリハビリテーションの継続ができていた。

入院は、主としていまきいれ総合病院からの入院であったが、他の医療機関からの紹介入院もあった。今後は、いまきいれ総合病院以外の医療機関との連携強化をはかり紹介入院を増やしていくことが課題である。

## 次年度の目標

- 回復期病棟：強化加算をとるように検討
- 地域包括病棟：入院料1、管理料1の基準に変更し維持していく
- 外来からの入院数の増加
- 入院待ち期間の短縮
- 他の医療機関との連携を強化し入院紹介数の増加をはかっていく
- 退院後の後方支援施設との連携強化
- 第三者評価に関する検討



# 眼科

医長／友寄英士(～2021.08.31)、當重明子(2021.09.01～)  
医師／摺木友美(～2021.06.30)、二階堂裕士(2021.04.01～)  
非常勤医師／小菅正太郎、徳永義郎、栗家亜実、友寄英士(2021.09.01～)

## 2021年度トピックス

上町いまきいれ病院眼科では、2021年の病院移転に伴い、運用体制の見直しを行いました。同年1月)いまきいれ総合病院との機能分化、同年10月)旧今給黎総合病院別館での改修リニューアルオープン。定期的に昭和大学より医師を招聘することにより、手術の対応領域を拡充し、より幅広い症例への対応が可能となりました。

## 総括

前年度と比較して、病院だけでなく、眼科としても体制が大幅に改編され、基盤の構築に注力した1年となりました。

その中で、新型コロナウイルス感染症と向き合いながら、手術の希望に対し、可能な限り早期の対応が実現できたのではないかと考えています。

また、入院施設を有する病院の長所を活かし、遠隔地からの来院による負担軽減にも対応することができました。

## 2021年度 診療実績

外来 8,487人  
入院 532人

《手術件数》

白内障手術(含多焦点眼内レンズ使用)	776件
硝子体手術(含増殖性硝子体網膜症手術)	53件
緑内障手術	8件
硝子体内注射	135件
その他(外眼部手術・外来処置など)	154件

## 次年度の目標

- ・ 可能な限り早期の手術対応
- ・ 関連医療機関との柔軟な連携
- ・ 広報活動

# 看護部

部長／近藤ひとみ

## 2021年度トピックス

- 4月：地域包括ケア病棟入院料1へ更新  
夜勤用ユニホームの導入
- 9月：多様な日勤形態の導入
- 10月：上町いまきいれ病院改築・移転

## 2021年度実績

### 1. 看護関連指標

- 1) 看護補助者入職：3名
- 2) 看護職員退職：4名（退職率：4.9%）
- 3) 産休／育児休暇取得者：2名／5名
- 4) 育児時短勤務制度利用者：3名
- 5) 年休取得率：42%
- 6) 超過勤務時間：約7時間／月（一人当たり）

### 2. 資格取得・研修修了者

- 1) 学会認定
  - ①鹿児島県看護協会会員：2年目以上全員
  - ②鹿児島県看護連盟会員：主任以上8名
  - ③第2種滅菌技師：1名
  - ④介護福祉士：2名
  - ⑤介護口腔ケア推進士：1名
- 2) 講習会・研修修了者
  - ①認定看護管理者教育課程
    - ・セカンドレベル修了者：1名
    - ・ファーストレベル修了者：5名
  - ②認定医療メディエーターB：1名
  - ③実習指導者講習会修了者：4名
  - ④看護補助者の活用推進管理研修修了者：9名
  - ⑤厚生労働省が定める看護職員認知症対応力向上研修修了者：22名
  - ⑥医療安全管理者養成研修40時間以上：2名

### 3. ケア関連指標

- 1) インシデント件数：236件／年
- 2) 褥瘡発生率：0.47%／月平均

## 総括

今年度は看護部目標に『新体制での安心安全な看護を実践する』と掲げ、コロナ感染症対策中の行動制限のある中、部署及び看護部委員会等で工夫しながら取り組んだ。部署間の差があるものの、全体評価は中間評価よりも高い。しかし、委員会評価は活動が自粛された為か中間評価より低く、委員としての役割の責任と自覚が足りない結果となった。BSCでの「学習と成長の視点」は平均A評価（90%以上）であるが学習・研修での学びを実践に活かしているかは不明である。「業務プロセスの視点」では平均B評価（75%以上）で、時間管理や6Rの周知徹底についてはC評価（50%以上）が約半数、人員不足に伴う業務の煩さが要因となった。「顧客の視点」は平均B評価であるが、時間外勤務や離職率は増加傾向。「財務の視点」では平均A評価が多い中、インシデント・アクシデント件数は増加し、同一事例が発生。報告書では改善策が立てられているが実践に至っていない。また、看護師不足で業務は煩雑化し疲労も困憊し、職員だけでなく管理者も疲弊している部署は職場の士気も低下していると感じた。しかし、日々の部署間を越えたりリーフ体制やコロナ感染症病棟への人選協力、コロナワクチン一般接種への協力などは管理職をはじめ看護職員一人一人の協力があって成し得たと考える。

次年度は、看護の質を担保する取り組みを実践していきたい。

## 次年度の目標

看護業務の効率化に取り組み、安全で質の高い看護の提供

## 2021年度トピックス

1. 2021年度は高麗町と上町に分かれ、少ない人数で複数の業務を行うこととなった。引っ越しを10月に行い、落ち着いてきたところである。移転後はワンフロアに集約されたことにより調剤業務の効率化・棚の配置など調剤しやすい環境を整えることができた。当院は院内調剤が主な業務となる。  
ストック薬・救急カートチェックも3カ月に一回行い、医薬品管理も行っている。  
必要時には服薬指導等も行っている。
2. 眼科のオペ・オペ後の点眼薬のクリーンベンチでの調製など（週一回）を行い、眼科と協力できている。
3. 地域連携：高麗町薬局・近隣の薬局と薬薬連携を3カ月に1回（Zoom）で行い、連携を図っている。（癌薬薬連携：3カ月に1回）
4. 部門のレベル向上・認定薬剤師の更新  
薬剤師研修センター認定薬剤師  
糖尿病療養指導士
5. 各種委員会など  
褥瘡委員会（2カ月に1回）  
褥瘡回診（週1回）  
薬事委員会（4カ月に一回）  
医療安全委員会（月1回）

## 2021年度実績

1. 内服・外用の調剤
  - ・入院処方箋枚数 931枚 / 月
  - ・外来処方箋枚数 16枚 / 月
2. 注射調剤
  - ・注射処方箋枚数 656枚 / 月
3. 持参薬鑑別 85件 / 月
4. 院内点眼薬作成 274本 / 月

## 総括

2021年は引っ越しを2回行い、その度に調剤棚・注射・冷蔵庫のレイアウト変更など変更があり、落ち着かなかったが、今後はミスを防ぎ効率良い調剤業務・在庫管理などを行いたい。

## 次年度の目標

院内採用薬の見直し・インデックスの再作成・糖尿病教室への参加、褥瘡の研修会実施など各部署との連携を深めたい。

地域の薬局との連携を行い、服薬状況の把握なども行っていきたい。

## 2021年度トピックス

高麗町への引っ越しが終わり常駐技師1名、受付（午前のみ）1名、高麗町からの出向技師1名の体制で始まりました。

今まで20数名いた技師、事務の方がいなくなり全てをほぼ1人でしなければいけなくなりとても不安でいっぱいだったと記憶しています。

日々の業務をこなしながら引っ越し後の片づけ、クリニック、旧本院に残った装置の廃棄の段取りを進め、病院に残った大量のフィルム、書籍の整理を行いました。

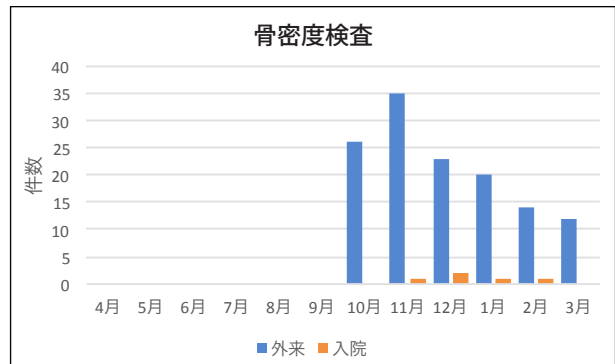
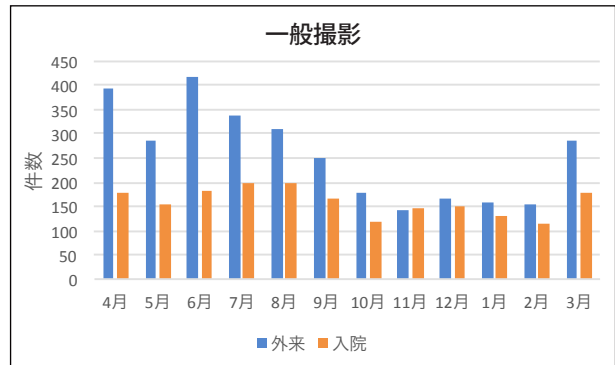
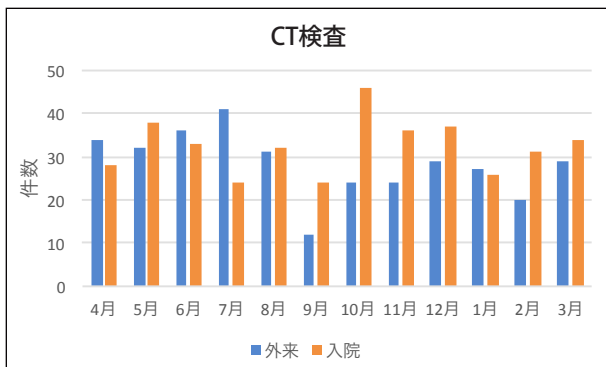
特にフィルムの量はすさまじく総重量は1tを超え、整理するのに数カ月を要しました。

色々大変な思いをしましたが協力をもらい無事に10月の新上町いまきいれ病院のオープンを迎えることができました。

新病院になり、骨密度装置も新規導入され心機一転気持ちも新たに日々の業務を行っております。

また、医療機器管理責任者も兼任しており機器の管理、修理、点検なども行っています。まだまだ分からないことが多いですが高麗町の中央管理センターの方々に指導を受けながら頑張っております。

## 2021年度実績



## 総括

新病院オープンと同時に導入した骨密度装置ですが予想に反して件数は伸びていない印象です。もっと広報し検査数を確保する必要があると考えます。

CT装置、一般撮影装置ともに移設した古い装置が1台ずつしかないため故障時は完全に検査が滞る事態になります。

故障を未然に防ぐためにもメーカーと協力し定期検査の時だけでなく日ごろから連絡を取り合い情報共有することが重要だと感じました。

## 次年度の目標

- 各モダリティ装置稼働率をあげ件数増加に努める。
- 特に骨密度装置については増収につながるよう努力する。



# 中央臨床検査課

主任／原菌真由美

## 2021年度トピックス

2021年1月より旧今給黎総合病院本館1階に上町臨床検査課としてスタート致しました。

院内で実施する検査内容としましては、緊急生化学検査、血糖検査、HbA1c検査、血算血液像検査、検尿一般検査、血液ガス検査、インフルエンザキット等の用手法検査などの緊急検体検査と心電図検査、ABI検査、肺機能検査等の生理検査を臨床検査技師2名で行っております。その他の検査項目は外部委託機関と連携し結果報告致しております。また、2021年10月には別館リニューアルにより現在の上町いまきいれ病院地下1階で再スタート致しました。それと同時に心電図検査やABI検査が電子カルテとシステム連携可能となりました。さらに外部委託機関とのDr支援システム導入に伴い検査結果取り込みも早くなり結果報告も改善されました。日々の内部精度管理や外部の尿検査精度管理へ参加し検査データの標準化に努めています。院内活動としましては感染防止対策委員会、医療安全管理委員会、診療記録検討委員会、労働安全衛生委員会、防火対策委員会、クリニカルパス委員会等に参加し他部門の方々とも顔の見える連携協力を努めています。

<上町臨床検査課スタッフ>

臨床検査技師 2名

原菌真由美（二級臨床検査士・血液学）、山崎泰代

## 2021年度実績

生化学検査	22,780件
血糖検査	2,901件
HbA1c検査	3,182件
血液検査	27,663件
検尿一般検査	3,923件
用手法検査	34件
心電図検査	950件
ABI検査	20件
肺機能検査	4件
血液ガス検査	28件
生化学免疫血清その他検査件数	50,359件
細菌検査	49件
細胞診検査	3件

合計 111,896件

## 次年度の目標

2022年度の目標としましては、日々の精度管理に努め迅速に正確に検査結果報告するとともに、輸血検査連携整備や感染対策向上加算取得に向けて、ICTの一員として積極的に取り組んでまいります。

# リハビリテーション課

副療法士長／前迫篤

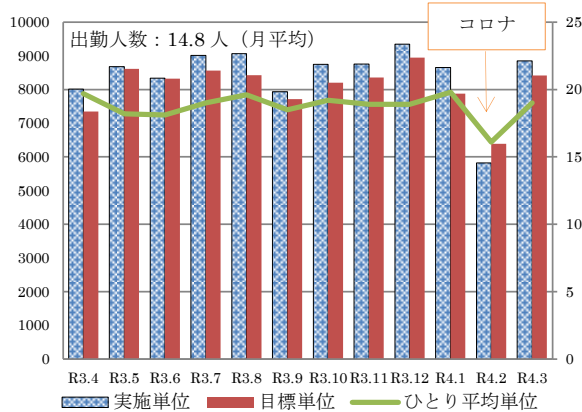
## 2021年度実績

2021年度上町リハビリテーション課目標

1. 安定した収益の維持
2. リハビリの質向上
3. 施設基準を厳守したリハビリプロセスの構築
4. 患者満足度及び職員やりがい度の向上

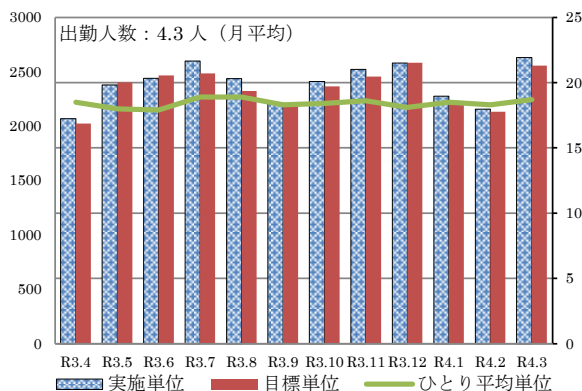
<実績>R3.4～R4.3 (1単位：20分)

回復期リハビリテーション病棟 (以下、リハ病棟)



療士一人あたり年間所得平均単位数：18.8 (104%達成)

地域包括ケア病棟 (以下、ケア病棟)



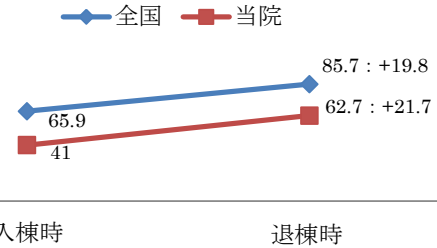
療士一人あたり年間所得平均単位数：18.4 (102%達成)

外来リハビリテーション

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
26,370	29,080	19,645	20,430	34,850	27,420
R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3
23,220	22,445	19,675	25,265	22,805	29,100

月毎の外来リハ合計点数。外来収益は全体の1%

<運動FIM向上値> リハ病棟 (入院料2)

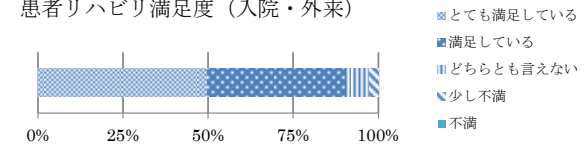


<リハビリ関連施設基準>

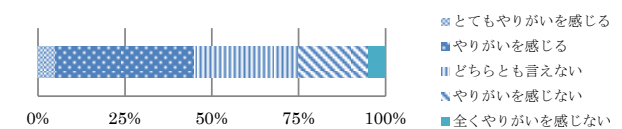
要件	リハ病棟	リハ病棟
提供単位数 (2単位以上)	5.65 R3.4～R4.3	2.75 R3.4～R4.3
専従配置 ( )・・・必要数	PT4(2) OT3(1) ST1(1)	PT2 OT1 (いずれか1名)
実績指数 (28以上)	上半期：32.1 下半期：31.7	基準なし

<満足度調査結果>

患者リハビリ満足度 (入院・外来)



上町リハ課職員やりがい度



## 総括

通年のリハビリ収益は実施が目標を上回っていた。療法士一人当たりの単位数も標準18単位を超えていた。運動FIM向上値は全国平均よりも高い傾向にあり、質も担保できていたと言える。満足度調査結果から、患者満足度では80%以上が「満足している」と答えたが、職員やりがい度では「どちらとも言えない」「やりがいを感ずらない」が約半数を占める結果となった。

## 次年度の目標

2022年度は、高い時間内生産性と質のあるリハビリテーションを維持しつつ、働きやすさ・やりがいを感じられる職場作りに努めたい。

# 栄養管理課

管理栄養士/柏木 美保

## 2021年度トピックス

### 【2021年度目標】

1. 上町いまきいれ病院運用の効率化
2. リニューアルオープン運用開始
3. 教育（専門性）の充実

### 【スタッフ構成】

管理栄養士 4名      栄養士 2名  
調理師 3名      調理補助 6名

### 【課内業務】

1. 給食運営の充実
  - ・衛生管理と食事の質向上
  - ・スタッフ教育と適正配置
2. 栄養管理（病棟及び地域）の充実
  - ・地域連携（栄養管理情報提供書）
  - ・栄養課内症例検討会の実施
3. 院内連携
  - ・カンファレンス参加

## 2021年度実績

(表1) 食数年間合計表

一般食	16,129 食
特別食	67,027 食 (内非算定 33,355 食)
経管栄養	5,651 食

(表2) 栄養指導件数集計表

項目	年間実施件数
入院食事指導	108 (非算定)
外来食事指導	65 (算定)

(表3) 資格等の取得状況

資格	人数
日本糖尿病療養指導士	1
鹿児島県地域糖尿病療養指導士	1

(表4) 主な出来事

	内容
4月	栄養管理委員会
7月	学生実習生(1名)受け入れ
9月	栄養管理委員会
10月	リニューアルオープン運用開始
1月	管理栄養士1名産休

(表5) 課内教育研修内容

	内容
4月	手指衛生、災害対策見直し
5月	回りハ病棟（リハ栄養）について
6月	地ケア病棟・褥瘡について
7月	経腸栄養法・種類と特徴・合併症
8月	神経内科の栄養管理（嚥下障害）

(表6) いまきいれ総合病院合同教育研修会

	内容
4月	食事オーダーの仕組み・パスについて 給食管理システムのオーダーの仕組み
5月	栄養アセスメント・栄養管理について 症例検討
6月	症例分析・アセスメント・ONS について
7月	摂食嚥下障害 嚥下調整食について
8月	糖尿病の栄養管理について 妊娠糖尿病と高齢者糖尿病
9月	化学療法について 連携加算、情報提供加算について
10月	回復期病棟と地ケア病棟について 回りハ症例検討
11月	経腸栄養法と当院採用栄養剤
12月	地域包括ケア症例検討
1月	最新のエビデンスに基づいた褥瘡管理 方法（個人受講）
3月	NICU・ICUの栄養管理について

## 次年度の目標

1. 給食運営の質維持・向上
  - ・喫食調査の実施
  - ・季節に合わせた献立内容の検討
2. 教育（専門性の充実）
  - ・課内教育研修の実施
  - ・院外研修の受講

## 2021年度トピックス

2021年1月1日今給黎総合病院をいまきいれ総合病院と上町いまきいれ病院に機能分化し100床（回復期54床・地域包括ケア46床）の病院として下竜尾町にて開業いたしました。

更に、長田町の別館を改修工事を行い、10月1日より長田町へ移転いたしました。10月の移転に関しては、職員・関連業者との事前の打ち合わせを行い、10月1日入院患者の移動は何のトラブルも無く午前中で終了しました。

別館改修工事に関しても、限られた予算の中で各部門の職員が意見を採用しながら別館の改修工事が行われました。以前とは違い明るい環境にて働いています。

## 次年度の目標

- ・地域包括ケア病棟入院料  
2から1への引き上げと算定要件の維持
- ・地域包括ケア病棟入院料  
看護補助者配置加算の算定開始  
看護補助者体制充実加算の算定検討
- ・回復期リハ病棟入院料  
体制強化加算の算定要件のクリアと算定開始
- ・消耗品、委託費等のコスト削減



# 地域医療支援センター

副センター長／吉満実

## 2021年度トピックス

本年、令和3年10月1日より旧今給黎総合病院本館から別館をリニューアルし移転を無事完了しました。

新たに1階に外来フロア（脳神経内科・整形外科・糖尿病科・内科）を設置し整形外科においては骨密度検査器機の導入も行き、外来診療の充実拡張を図っています。また、地下1階においては眼科外来、眼科手術室、リハビリテーション室を新たにリニューアルオープンしました。

なお、上町いまきいれ病院地域医療支援センターは1階フロアに設置され、社会福祉士3名退院支援看護師1名を配置し入院調整（前方連携）退院調整（後方連携）の充実を図っています。

上町いまきいれ病院においてもコロナ感染症による影響は甚大で一時的病床閉鎖や外来リハビリの制限、入退院支援においても支障をきたした1年であったと思われます。

他の医療機関との連携や訪問活動、顔の見える関係づくり、研修会の参加など制限された中での運営となってしまいました。

それでも、患者さまの受け入れや退院調整は、日々実施しなければならず、自宅復帰に向けた支援も制限下の中、スタッフ一同で実施することができたと思われます。

## 2021年度実績

### 1. 令和3年度病床管理

	回復期病棟 (54床)	地域包括病棟 (46床うち眼科病床を 10名で運用)
年間入院数	261	906
年間退院数	253	910
病床利用率	88.5%	78.7%

### 2. 退院支援

	回復期病棟 (54床)	地域包括病棟 (眼科を除く患者数)
退院数	253	376
退院支援実施	156	190
在宅等退院	183	290
転院（療養型等）	70	80

### 3. 在宅復帰率

回復期病棟	地域包括病棟
92.4%	83.3%

### 4. 加算算定状況

	回復期病棟	地域包括病棟
退院支援加算	156件	156件
介護連携指導	79件	47件
退院前共同指導	1件	4件

### 5. 事業所との面接等での連携

医療機関	60
居宅・地域包括支援	136
在宅サービス系事業所	32
施設サービス系事業所	64
その他（福祉用具・住宅改修業者）	40



## 総括

いまきいれ総合病院（急性期病院）と上町いまきいれ病院（回リハ・地ケア）に分離運営されて2年目に突入し、主として急性期治療を終えた患者さまを受け入れ、リハビリを中心に在宅復帰を担う医療機関としての運営が行われました。

いまきいれ総合病院との連携を図り、本院の在院日数の短縮化を図ることが上町いまきいれ病院の役割として重要な部分と考え、転院依頼の患者さまの早期受け入れの調整等が連携室双方で協力体制を整えることができてきました。

また、他の医療機関からの受け入れも積極的に行っています。回復期病棟は各々の急性期病院との連携、地域包括病棟は在宅支援診療所や施設との連携、レスパイト入院等のケアマネとの連携を図り、患者受け入れを行い、リハビリ実施と在宅調整を行い自宅退院の支援等を行っています。

コロナ禍の1年であり、顔の見える積極的な連携活動は困難でしたが次年度以降は他の医療機関の訪問活動等を実施し、上町いまきいれ病院を地域のリハビリ拠点病院としての認識を深めて頂くように努力して行く取り組みを行いたいと思います。

## 次年度の目標

- ・ 病床の稼働率向上のためのベッドコントロール
- ・ 回復期病棟の体制強化加算の専従スタッフ配置と質の向上
- ・ 回復期病棟重症度 40%患者の確保（重症度確保のベッドコントロール）
- ・ 地域包括病棟の在宅復帰率向上（地ケア管理料 2→1 へ） 72.5%以上在宅
- ・ 地域包括病棟の緊急入院患者確保（外来・地域の診療所・本院救急外来）
- ・ 他の医療機関との連携（急性期・在宅支援診療所）
- ・ 退院支援のためのケアマネや在宅サービス機関との連携

# 研究実績 IV

## ■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

## ■ その他

- メディア掲載
- 公益社団法人昭和会の1年

**【診療部】****救急・総合診療科/救急科****【学会発表】**

1. 竹原唯梨、坂元健一、西山淳  
広汎なデブリードメントが有効であったフルニエ症候群の一例  
第25回日本救急医学会九州地方会 2021年6月26日 宮崎市 (Web開催)

**【開催】**

- |     |                          |            |
|-----|--------------------------|------------|
| 西山淳 | 第53回BLSコース(日本救急医学会認定)    | 2021年4月20日 |
| 西山淳 | 第54回BLSコース(日本救急医学会認定)    | 2021年5月21日 |
| 西山淳 | 第15回ICLSコース(日本救急医学会認定)   | 2021年5月29日 |
| 西山淳 | 第55・56回BLSコース(日本救急医学会認定) | 2021年6月19日 |
| 西山淳 | 第16回ICLSコース(日本救急医学会認定)   | 2021年7月24日 |

**【指導医】**

- |     |                       |             |
|-----|-----------------------|-------------|
| 西山淳 | 第1回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 | 2021年6月28日  |
| 西山淳 | 第2回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 | 2021年9月29日  |
| 西山淳 | 四地域合同救急業務高度化協議会作業部会   | 2021年11月1日  |
| 西山淳 | 第3回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 | 2021年12月17日 |
| 西山淳 | 第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会 | 2022年3月14日  |

**【講師】**

- 西山淳 鹿児島県消防学校 2022年2月7、14日

**血液内科****【論文・誌上発表】**

1. Tabuchi T, Inoue H, Obama K.  
Development of Intravascular Large B-cell Lymphoma during Methotrexate Treatment for Rheumatoid Arthritis. Intern Med. 2022 Jan 1;61(1):87-90.
2. 小濱浩介  
原発性マクログロブリン血症に対する分子標的療法 鹿児島市医報 第60巻 第5号 2021

**【学会発表】**

1. 小濱浩介  
Behcet's-like manifestation of chronic lymphocytic leukemia during good response to ibrutinib  
第83回日本血液学会学術集会 2021年9月23～25日 仙台

**糖尿病内科****【論文・誌上発表】**

1. 山元聖明、濱崎秀崇、吉永英希、西尾善彦  
免疫チェックポイント阻害薬による劇症1型糖尿病の発症に急性壊死性食道炎を合併した症例  
鹿児島市医報 第60巻11号 2021

**【学会発表】**

1. 山元聖明、濱崎秀崇、吉永英希、西尾善彦  
糖尿病性ケトアシドーシスに壊死性食道炎を合併した劇症1型糖尿病の1例  
第59回日本糖尿病学会九州地方会 2021年11月19日～20日 那覇市
2. 和田竣太郎、山元聖明、下鶴麻希子、西尾善彦  
アルカレミアを呈した糖尿病性ケトアシドーシスの1例  
第59回日本糖尿病学会九州地方会 2021年11月19日～20日 那覇市

**【講演】**

- 山元聖明 新しいまきいれ総合病院の紹介  
Diamond Seminar in Kagoshima 2021年6月17日 鹿児島東急REIホテル
- 山元聖明 当院における糖尿病治療について  
鹿児島糖尿病・CKD重症化予防セミナー 2021年6月24日 いまきいれ総合病院

**【座長】**

- 山元聖明 Diamond Seminar in Kagoshima 講演2 2021年6月17日 鹿児島東急REIホテル
- 山元聖明 明日からの糖尿病治療を考える会 2021年7月28日 かがしま県民交流センター
- 山元聖明 早期治療の必要性～β細胞機能維持の観点を中心に～  
Diamond Seminar in Li-Ka 講演1 2021年11月25日 ライカ南国ホール

**【パネリスト】**

- 山元聖明 GLP-1受容体作動薬の効果的な活用について  
Diabetes & Incretin Seminar in かがしま 2021年7月21日 サンロイヤルホテル

**【ディスカッサー】**

- 山元聖明 SGLT2阻害薬の適正使用について  
SGLT2阻害薬の適正使用を考える会 2021年9月17日 かがしま国際交流センター
- 山元聖明 GLP-1受容体作動薬の考え方・使い方 GLP-1RA Deep Dive Conference  
2021年10月28日 ホテル自治会館
- 山元聖明 早期治療の必要性～β細胞機能維持の観点を中心に～  
Diamond Seminar in Li-Ka 講演1 2021年11月25日 ライカ南国ホール
- 山元聖明 SGLT2阻害薬の適正使用を考える会 2022年2月17日 かがしま国際交流センター

**【講師】**

- 山元聖明 興和株式会社鹿児島営業所スキルアップ研修 2021年7月8日
- 山元聖明 大正製薬社内レクチャー 2021年8月19日 JR九州ホテル
- 山元聖明 協和キリン鹿児島営業所社内研修会 2021年9月29日 いまきいれ総合病院会議室よりWeb配信

**消化器内科****【学会発表】**

- 秋本佳香  
腺癌、腺腫、SSL成分を伴った大腸腫瘍の1例  
第117回日本消化器病学会九州支部例会/第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会  
2021年6月11日～12日 福岡/WEB開催
- 庄彬亘(初期臨床研修医)  
EUS-FNAが診断に有用であった肝細胞癌の1例  
第117回日本消化器病学会九州支部例会/第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会  
2021年6月11日～12日 福岡/WEB開催
- 恒吉祐成(初期臨床研修医)  
検診を契機に発見された自己免疫性胃炎に神経内分泌腫瘍を合併した1例  
第118回日本消化器病学会九州支部例会/第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会  
2021年12月3日～4日 長崎/WEB開催
- 汐見大二郎  
胃、十二指腸、回腸、大腸に病変を認めたマントル細胞リンパ腫の一例  
第118回日本消化器病学会九州支部例会/第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会  
2021年12月3日～4日 長崎/WEB開催

**【講演】**

- 吉永英希 当院における内視鏡治療の現状～酸関連疾患も含めて～  
消化器病連携Webセミナー 2021年4月9日 鹿児島東急REIホテル

**【多施設共同研究】**

- Bilio-Pancreatic Stenting研究会より「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為比較試験(片葉ドレナージVS両葉ドレナージ)」「ERCP後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」



2. 埼玉医科大学との共同研究、難治性疾患克服事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
3. 『実臨床データを用いた関門部領域胆管癌の術前ドレナージ法別の有効性と手術に及ぼす影響に関する他施設共同検討』研究機関：日本胆道会 研究責任者：藤田医科大学 消化器内科 橋本千樹

## 循環器内科

### 【講演】

- 志岐健三郎 当院の心不全診療における取り組み  
患者のQOLを考える会～診療科の垣根を越えて～ 2021年4月23日 TKPガーデンシティ鹿児島中央
- 有馬良一 虚血性心疾患合併心房細動の抗血栓療法  
Antithrombotic therapy Up to Date 2021年6月4日 鹿児島東急REI ホテル WEB開催

### 【座長】

- 有馬良一 がん関連血栓症について がんトータルWebセミナー 2021年10月25日
- 有馬良一 SASは万病のもと心房細動とSASの密接な関係 病身連携を考えるWEB講演会 2021年12月9日
- 有馬良一 循環器疾患とミネラルコンチコイド 高血圧トータルケアWEBセミナー 2021年12月15日

## 脳神経内科

### 【学会発表】

1. 橋元 彩, 谷口 雄大, 武井 藍, 甲斐 太, 吉村 道由  
頸髄造影効果が診断に寄与した髄膜癌腫症の1例  
第336回内科学会九州地方会 2022年1月29日 福岡/web開催

## 外科

### 【論文・誌上発表】

1. 野田昌宏、小倉芳人、黒島直樹、和田真澄  
食道癌術後に腎臓転移が認められた1例, 鹿児島市医報, 20-22, 第60巻, 第6号, 2021
2. 野田昌宏、小倉芳人、黒島直樹、和田真澄  
胸腔鏡・内視鏡合同手術で核出した食道平滑筋腫の1例, 鹿児島市医報, 38-39, 第61巻, 第2号, 2021

### 【学会発表】

1. 野田昌宏、小倉芳人、黒島直樹、和田真澄  
食道癌術後に腎臓転移が認められた1例 鹿児島市外科医会春季例会 2021年4月23日
2. Ogura Y, Isobe A, Yamasaki Y, Hanada K  
Gallbladder metastasis from renal cell carcinoma: a case report 第32回日本肝胆膵外科学会総会  
2021年6月12-14日 web開催
3. 野田昌宏、小倉芳人、黒島直樹、和田真澄  
胸腔鏡・内視鏡合同手術で核出した食道平滑筋腫の1例 鹿児島市外科医会秋季例会 2021年11月12日
4. 有馬武尊、野田昌宏、和田真澄、黒島直樹、小倉芳人  
術前に診断し得た胆嚢捻転症の1例 第58回九州外科学会 2022年2月25-26日 久留米/web開催
5. 黒島直樹、野田昌宏、和田真澄、小倉芳人  
診断に難渋した嚢胞を伴う肝海綿状血管腫の1例 第83回鹿児島県臨床外科学会医学会, 2022年3月19日
6. 野田昌宏、和田真澄、黒島直樹、小倉芳人  
治療方針に迷った腸管気腫症の2例 第58回日本腹部救急医学会 2022年3月19日-3月25日 東京
7. 和田真澄、黒島直樹、野田昌宏、小倉芳人  
鶏骨による食餌性腸閉塞の1例 第58回日本腹部救急医学会 2022年3月19日-3月25日 東京



## 呼吸器外科

### 【学会発表】

1. 今給黎尚幸、緑川健介、米田敏、佐藤寿彦、岩崎昭憲  
肺分画症に対する外科治療18例の検討  
第38回呼吸器外科学会総会 2021年5月20-21日 長崎
2. 徳石恵太、今給黎尚幸、米田敏、佐藤寿彦  
ハーモニック1100 第3回ED CLUB 2021年11月20日 鹿児島、熊本、福岡
3. 徳石恵太、今給黎尚幸、米田敏  
当院のN2非小細胞肺がんの外科治療 第25回七隈癌治療フォーラム 2022年1月21日 福岡
4. 徳石恵太、今給黎尚幸、米田敏  
Robotic Right Lower Lobe Anterobasal (S8) Segmentectomy  
CTSNET November 2021. doi:10.25373

### 【対外活動】

1. 米田 敏 【日本呼吸器外科学会災害対策】中国・四国・九州相互支援ブロック 鹿児島県副責任者
2. 徳石恵太 南日本放送出演 MBC週刊1チャンネル がん治療最前線 ダビンチ手術 2021年8月7日

## 血管外科

### 【講演】

- 牛島孝 この傷治る？～糖尿病性足病変の血流評価～  
第3回フットケア～初めの一步～日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会  
2022年10月13日 web開催
- 平林葉子 圧迫療法のすすめ 血管疾患と皮膚症状  
地域連携で脈管疾患を考える会 医師会生涯教育認定講座 2021年11月25日 web開催
- 牛島孝 当院CTTIに対するEVTを考察してみた  
EVT/Case Presentation & Discussion @ Kagoshima Vol,2 2021年12月1日 web開催
- 平林葉子 DVT?!これが頭をよぎったら ～DVTの診断と治療～  
病診療連携を考えるWEB講演会 医師会生涯教育認定講座 2021年12月9日 web開催

### 【座長】

- 牛島孝 DVT?!これが頭をよぎったら ～DVTの診断と治療～  
病診療連携を考えるWEB講演会 医師会生涯教育認定講座 2021年12月9日 web開催

### 【コメンテーター】

- 牛島孝 Kyushu Okinawa Surgeons Meeting of Endovascular Treatment 2021年7月21日 web開催

### 【院内講演】

- 牛島孝 人は電気で動いている 院内クラーク勉強会 2021年6月18日
- 平林葉子 圧迫療法：DVT予防から浮腫への対処 院内看護師勉強会 2021年7月15日

## 頭頸部・耳鼻咽喉科

### 【論文・誌上発表 - 原著】

1. 大木浩、古川良尚、竹原哲彦、西迫裕昭、宮下幸一郎、寺野玉枝、花牟禮豊、奥沙織、大塚真紀、森千奈美、宮園卓宜、藤山祐輝、中島彩乃、原口安江、原純、清武貴子、岡田大敬、中野秀人、義永文一、田中朝志  
奄美ブラッドローテーション：離島の中核病院における血液製剤利用に対して複数の医療機関が支援を行う運用の研究  
日本血液細胞治療学会誌 67:414-424 2021.
2. 平原信哉、花牟禮豊、高木実、馬越瑞夫、林多聞  
外耳道に移動した鼓膜内真珠腫例 耳鼻臨床 114:759-764 2021.



## 【論文・誌上発表－総説】

## 1. 積山幸祐

特集/鼻副鼻腔の希少疾患を究める「【感染性疾患】3. 鼻副鼻腔放線菌症」JOHNS 37巻2号2021年

## 【学会発表】

## 1. 花牟禮豊、積山幸祐

反回神経および喉頭機能を温存し得た喉頭浸潤のある甲状腺乳頭癌の手術症例  
第33回日本内分泌外科学会総会 2021年6月4日 長野

## 2. 花牟禮豊、積山幸祐、昇卓夫

喉頭浸潤のある甲状腺乳頭癌の手術－反回神経および喉頭機能を温存し得た1症例－  
第72回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 2021年11月12日 宮崎

## 3. 徳重豪士、花牟禮豊、積山幸祐、福田勝則、昇卓夫

甲状舌管嚢胞由来が疑われた扁平上皮癌の一例  
第46回日本耳鼻咽喉科学会鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 2021年6月19日

## 4. 徳重豪士、積山幸祐、花牟禮豊、福田勝則、昇卓夫

ANCA関連血管炎性中耳炎 (OMAAV) の2例  
鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会総会 2022年1月15日

## 5. 徳重豪士、花牟禮豊、積山幸祐、福田勝則、昇卓夫

喉頭全摘術を要した甲状舌管嚢胞由来の扁平上皮癌の一例  
第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会 2022年3月4日 大阪

## 【特別講演】

## 花牟禮豊

頭頸部がん治療の変遷と最新情報  
第63回鹿児島県耳鼻咽喉科医会学術講演会 2021年4月10日

## 【講演】

## 積山幸祐、徳重豪士、花牟禮豊、福田勝則、昇卓夫

好酸球性副鼻腔炎に対する当院の治療方針とデュピルマブ使用について  
鹿児島県耳鼻咽喉科医会学術講演会 2022年2月17日

## 【座長(一般演題)】

積山幸祐 第46回日本耳鼻咽喉科学会鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 2021年6月19日

積山幸祐 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会総会 2022年1月15日

**麻酔科**

## 【論文・誌上発表】

## 1. Y Kojima, R Sendo.

A Novel Technique for Stellate Ganglion Block Using Biplane Imaging Technology.  
Pain Medicine, 2021.

## 2. Y Kojima, R Sendo.

Jaw Manipulation Using Ultrasound-Guided Inferior Alveolar Nerve Block for Trismus in Temporomandibular Disorders. Case Reports in Dentistry, 2022.

## 3. Y Kojima, R Sendo.

A Novel Pain Relief Approach for the Treatment of Multiple Dental Caries and Pulpitis.  
Cureus, 2022.

## 4. Y Kojima, R Sendo.

A Method for Preventing Aerosols During Dental Treatment With an Oroscope.  
Cureus, 2022.

## 【学会発表】

## 1. 西村絵実、原口哲子、尾野本真徳、大瀬克広、山下順正

電撃傷による四肢切断術を受けた患者に対して幻肢痛の抑制に努めた1症例へ緩和ケアチームの周術期介入 第59回九州麻酔科学会 2021年9月11日 宮崎





2. 千堂良造、山口孝二郎、新田英明、真鍋庸三、杉村光隆  
口腔粘膜の神経障害性疼痛に漢方薬が奏効した1例  
第33回日本疼痛漢方研究会学術集会 2021年7月3日 東京
3. 千堂良造、山口孝二郎、小島佑貴、杉村光隆  
多発性硬化症に関連した口腔顔面痛に円皮鍼が有効であった症例  
第26回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会 2021年11月20-21日 静岡

**【講演】**

千堂良造 口腔顔面痛の地域連携 第22回九州歯科医療管理学会学術大会

**【緩和ケア研修会ファシリテーター】**

西村絵実 いまきいれ総合病院、済生会川内病院、南風病院

**歯科・歯科口腔外科****【論文・誌上発表-原著】**

1. Koga Takamitsu, et al.  
Clinical Safety Assessment of Autologous Freeze-Drying Platelet-Rich Plasma for Bone Regeneration in Maxillary Sinus Floor Augmentation: A Pilot Study.  
Journal of Clinical Medicine 10.8 (2021): 1678.
2. Y Kojima, R Sendo  
A Novel Technique for Stellate Ganglion Block Using Biplane Imaging Technology  
Pain Medicine, 2021
3. Y Kojima, R Sendo  
Jaw Manipulation Using Ultrasound-Guided Inferior Alveolar Nerve Block for Trismus in Temporomandibular Disorders  
Case Reports in Dentistry, 2022
4. Y Kojima, R Sendo  
A Novel Pain Relief Approach for the Treatment of Multiple Dental Caries and Pulpitis  
Cureus, 2022
5. Y Kojima, R Sendo  
A A Method for Preventing Aerosols During Dental Treatment With an Oroscope  
Cureus, 2022

**【学会発表】**

1. 大場 誠悟、古賀 喬充  
下顎顎形成術が顎関節に及ぼす影響の検討  
第31回日本顎変形症学会総会・学術大会, 2021年6月11-12日 宮城県/ハイブリッド開催
2. 千堂良造、山口孝二郎、新田英明、真鍋庸三、杉村光隆  
口腔粘膜の神経障害性疼痛に漢方薬が奏効した1例  
第33回日本疼痛漢方研究会学術集会 2021年7月3日 東京
3. 千堂良造、山口孝二郎、小島佑貴、杉村光隆  
多発性硬化症に関連した口腔顔面痛に円皮鍼が有効であった症例  
第26回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会 2021年11月20-21日 静岡

**【講演】**

古賀喬充 当科で行う顎変形症手術(LF-1+SSRO)～改善してきたポイントと課題が残るポイント～九州顎変形症手術手技若手検討会 2021年11月 福岡

千堂良造 口腔顔面痛の地域連携 第22回九州歯科医療管理学会学術大会

**【講師】**

- 吉田雅司 スポーツ歯科と歯科口腔外科、鹿児島大学歯学部スポーツ歯科講義、5月14日、鹿児島県  
吉田雅司 スポーツ歯科と歯科口腔外科、長崎大学歯学部スポーツ歯科講義、5月18日、長崎県  
吉田雅司 歯牙解剖学、鹿児島市科学院専門学校歯科技工士科講義、5月19日～10月6日、鹿児島県



吉田雅司 スポーツ外傷とスポーツ障害：顎骨・軟組織の外科対応、日本スポーツデンティスト講義  
11月5日～、東京都

## 緩和医療科

### 【講演】

大瀬克広	e-learningの振り返り 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション	2021年7月10日	いまきいれ総合病院
小玉哲史	令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 コミュニケーション	2021年7月10日	いまきいれ総合病院
原口哲子	地域連携 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年7月10日	いまきいれ総合病院
大瀬克広	地域連携 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年9月5日	鹿児島県立鹿屋医療センター
小玉哲史	コミュニケーション 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年10月24日	済生会川内病院
小玉哲史	コミュニケーション 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年11月7日	鹿屋医療センター
大瀬克広	全人的苦痛 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年12月5日	鹿児島県立薩南病院
原口哲子	全人的苦痛 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年12月5日	鹿児島県立薩南病院
小玉哲史	コミュニケーション 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2022年1月9日	鹿児島医療センター
大瀬克広	全人的苦痛 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2022年2月5日	鹿児島大学病院
原口哲子	全人的苦痛 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2022年2月5日	鹿児島大学病院
大瀬克広	地域連携 令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2022年1月9日	出水郡医師会広域医療センター

### 【講師】

大瀬克広	がん教育 吹上中学校がん教育授業（オンライン）	2022年1月25日
小玉哲史	がん教育 穎娃中学校がん教育授業（オンライン）	2022年1月26日
原口哲子	「大隅エリアの緩和ケア向上をめざして」～現状と今後の課題への取り組み～ 緩和ケアWEBセミナーがん性疼痛地域連携	2022年3月11日

### 【企画責任者】

小玉哲史	令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年7月10日	いまきいれ総合病院
原口哲子	令和3年度がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	2021年9月5日	鹿屋医療センター



## 【診療支援部】

### 薬剤課

---

#### 【学会発表】

1. 前島一友  
血管新生阻害薬を含むレジメンに尿蛋白質定性と尿蛋白／クレアチニン比の検査オーダーを組み込んだレジメン運用とその評価  
第31回医療薬学会年会 2021年10月9日-10日 web開催
2. 中村薫  
服薬指導の現状と薬剤師による他医療機関との連携 第1回院内発表会 2021年12月4日
3. 六田湧紀  
化学療法によるB型肝炎ウイルス再活性化防止に対する当院薬剤課の取り組みと業務効率化方法の提案  
第1回院内発表会 2021年12月4日

#### 【講演】

- 最勝寺貴広 当院におけるがん化学療法に携わる薬剤師の一日  
2021年度がん化学療法薬薬連携研修会～周辺の保険薬局との合同研修会～ 2021年5月19日
- 八ヶ代祥一 食道癌における化学療法  
2021年度がん化学療法薬薬連携研修会～周辺の保険薬局との合同研修会～ 2021年11月17日

#### 【座長】

- 高橋真理 第245回鹿児島県病院薬剤師会研修会 2021年10月29日 城山ホテル鹿児島より配信
- 高橋真理 第246回鹿児島県病院薬剤師会研修会  
第27回鹿児島県病院薬剤師会感染制御薬物療法対策講習会 2022年1月29日  
TKPガーデンシティ鹿児島中央より配信
- 高橋真理 第12回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム  
2022年2月5日 川商ホールより配信
- 高橋真理 第248回鹿児島県病院薬剤師会研修会  
第28回鹿児島県病院薬剤師会感染制御薬物療法対策講習会  
2022年3月26日 鹿児島大学病院薬剤部より配信

### 中央放射線課

---

#### 【学会発表】

1. 稲留久恵  
線量管理への取り組みについて 第40回鹿児島核医学技術検討会 2021年11月19日 鹿児島
2. 浮田啓一郎  
悪性リンパ腫 鹿児島超音波学会（腹部領域） 2021年12月7日 鹿児島
3. 中村圭太  
低線量肺がんCTにおけるDLR（AiCE）を使用した基礎的検討  
第16回九州放射線医療技術学術大会 2021年12月11日 佐賀
4. 浮田啓一郎  
いまきいれ総合病院のMR安全対策 第23回鹿児島MRI研究会 2022年2月4日 鹿児島

#### 【講演】

- 丸尾美由紀 乳がん検診について 南国殖産（女性職員対象） 2021年10月27日 鹿児島

### リハビリテーション課

---

#### 【学会発表】

1. 木村望  
肺胞蛋白症に対して呼吸リハビリテーションを実施し連続歩行距離と労作時呼吸困難の改善が得られた一例  
第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 2021年11月12日～2021年11月14日 香川



2. 永田明日翔  
肺腺癌を合併したCOPDに対して呼吸リハビリテーションを行った一例  
第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 2021年11月12日～2021年11月14日 香川
3. 内田愛美  
肺癌患者における周術期の精神症状に影響を及ぼす因子の検討  
第35回鹿児島県理学療法士学会 2022年2月20日 鹿児島
4. 永田明日翔  
間質性肺炎に合併したplatypnea-orthodoxia syndromeに対しての背臥位での有酸素運動が有効であった1例  
第35回鹿児島県理学療法士学会 2022年2月20日 鹿児島

## 栄養管理課

---

### 【学会発表】

1. 鈴木聖子  
当院における栄養情報提供加算の現状と課題  
第41回食事療法学会 2022年3月4日～313日 web開催
2. 染川麻美  
パスで繋がる院内連携～食事の組み込み～  
第41回食事療法学会 2022年3月4日～313日 web開催

## 【看護部】

### 看護部

---

#### 【学会発表(ポスター)】

1. 河原尚美  
稼働率目標と定時退社のミッションをクリアするために  
鹿児島県看護協会 ちっとばっかい業務改善in鹿児島 2022年1月22日 鹿児島県看護協会研修会館
2. 尾堂知子  
多様な勤務時間変更による残業時間への効果  
鹿児島県看護協会 ちっとばっかい業務改善in鹿児島 2022年1月22日 鹿児島県看護協会研修会館
3. 有菌さつき  
看護体制の見直し PNS+ゾーニング方式の導入  
鹿児島県看護協会 ちっとばっかい業務改善in鹿児島 2022年1月22日 鹿児島県看護協会研修会館
4. 吉永雄作  
A病棟で化学療法を実践する病棟看護師の不安  
第55回鹿児島県保健看護研究学会 2022年1月22日 鹿児島県看護協会研修会館

#### 【講演】

- 赤坂美保 がん化学療法に伴う悪心・嘔吐に対してできること  
大鵬薬品工業株式会社 第5回川内地区がん化学療法セミナー 2021年4月20日 城山ホテル鹿児島
- 吉永紀公子 当院におけるOLS活動と骨粗鬆症注射薬指導について  
旭化成 2021年5月20日 旭化成 鹿児島支店
- 吉永紀公子 当院におけるOLS活動と骨粗鬆症治療薬の治療継続のコツ  
旭化成 2021年7月20日 旭化成ファーマ鹿児島支部 (WEB講演)
- 吉永紀公子 当院におけるOLS活動と骨粗鬆症治療薬の患者指導の工夫  
旭化成 2021年12月6日 旭化成ファーマ鹿児島支部 (WEB講演)

#### 【パネリスト】

- 河原尚美 肺がん診療における副作用マネジメントを考える  
アストラゼネカ株式会社 2021年7月10日 ソラリア西鉄ホテル web開催



## 【メディア掲載】

### 誌面掲載

特集 新時代の医療提供体制を探る

多世代が支え合う“まちづくり”に参画 救急、がん、周産期を柱に急性期医療で地域を支える  
総合メディカル株式会社 医療経営情報誌 Hint 2021年5月 vol.222

特集 地域医療最前線

大型複合施設「キラメキテラス」に急性期と慢性期を担う2病院が隣接し新築移転！  
～鹿児島市の30年後を見据えヘルスケアと防災をテーマに街づくりが始まる～  
株式会社アステム社 医療情報誌 Poti 2021.7・8 vol67

特別インタビュー いまきいれ総合病院で、鹿児島県民間病院初のダビンチによる肺がん手術を実施！  
株式会社アステム社 医療情報誌 Poti 2021.7・8 vol67

医療施設を歩く スモールシティの健康を担う基幹施設としての新たな出発  
株式会社JMS 医療情報誌 シエスタ2021年秋号

Case Study 「緩やかなパートナーシップ」で実践する機能分化と連携 法人・機能の異なる2病院が隣接  
日経ヘルスケア 2022年3月 No.389

2021年4月8日 2021年4月8日～21日掲載 医療ルネサンス「熊本地震5年 赤ちゃんを救え」 読売新聞  
取材協力 新生児内科 徳久琢也、丸山有子、佐藤恭子

2021年10月1日 特集 コロナ下の健康管理 内科 二木真琴 監修  
南日本新聞 ていーたいむ 10月号 vol.247

2022年2月9日 医療功労賞 県から2人 今給黎尚典会長授賞  
読売新聞 地域版 12面

### テレビ放送

2021年8月7日 週刊1チャンネル  
がん治療最前線 ダビンチ手術 呼吸器外科 徳石恵太医師 出演 南日本放送

### web 記事

2021年12月27日 itot エリアガイド「鹿児島高麗町に暮らす」  
キラメキテラス特集 高度治療に特化した医療で新たな街づくりに貢献する「いまきいれ  
総合病院」



## 2021年4月1日 入職式

2021年度は基幹型研修医、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、視能訓練士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、診療情報管理士、クラーク、医療事務、保育士、調理師、調理補助、計68名が入職しました。



## 2021年6月22日 肺がんに対する当院第1例目のロボット支援下手術(ダビンチ手術)



## 2021年8月4日 ドクターカーを新規導入



## 2021年8月31日 上町いまきいれ病院 竣工

上町いまきいれ病院 竣工。引き渡しが8月31日に行われ、10月1日にリニューアルオープンしました。







2021年10月1日 看護師特定行為研修 開講式  
いまきいれ総合病院 看護師特定行為研修 開講式を挙りました。第1期生は院内看護師5名が研修に臨みます。



2021年11月2日  
令和3年度栄養関係厚生労働大臣賞を受賞



2021年12月4日 第1回院内発表会 開催  
院内発表会を通し普段交流のない部署やスタッフの考え方に触れ、より一層チーム医療の理解を深め、「質の高い医療の提供」に活かして欲しいという主旨のもと院内発表会を開催いたしました。テーマは「働き方改革に向けた取り組み」。各部署・委員会による19の発表と、シンポジウムを行いました。



泌尿器科



呼吸器外科

2022年2月2日 ダビンチ手術100症例達成

公益社団法人昭和会  
昭 和 会 誌 (第27号)

---

発行日 2022年9月

発 行 公益社団法人昭和会

**いまきいれ総合病院**

〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号

電 話 099-252-1090(代表)

FAX 099-203-9119

URL <https://imakiire.jp/>

E-mail [info@imakiire.or.jp](mailto:info@imakiire.or.jp)

公益社団法人昭和会

**上町いまきいれ病院**

〒892-0854 鹿児島市長田町5番24号

電 話 099-222-1800(代表)

FAX 099-226-3366

URL <https://imakiire.jp/kanmachi/>

